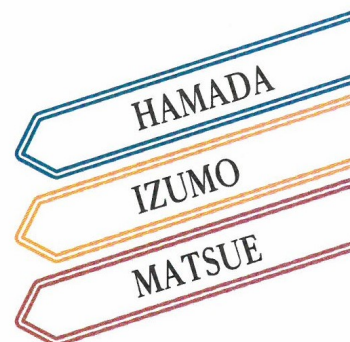


THE UNIVERSITY OF SHIMANE
ENMUSUBI
PLATFORM

地域と大学の共育・共創・共生に向けた
縁結びプラットフォーム



平成29年度 地(知)の拠点整備事業

成果報告書

(地域連携活動報告書)

はじめに

平成 25 年度に始まった島根県立大学地（知）の拠点整備事業「縁結びプラットフォーム」は今年度をもって終了した。この間、本学における地域との連携による様々な活動は飛躍的に進展し、現在における学生の地域活動、地域での学習も大きく成長した。

平成 29 年度においても「しまね地域マイスター認定制度」は継続して行われ、「しまね地域共育・共創研究」、浜田市及び益田市との共同研究も一定の成果を示すことができた。そして、大学と地域が一体となって行う「全域フォーラム」は多くの参加者によって盛大に行うことができた。大学生、教職員、自治体・企業関係者、地域住民が一同に会して研究を発表し、意見を交わすこの「全域フォーラム」はまさに「縁結びプラットフォーム」を代表する事業と言える。

加えて、学生企画による 3 キャンパス合同の交流会を実施した。地域団体の協力も得て、日ごろ離れている 3 キャンパスの学生たちが、地域とつながるボランティアを企画実施し、学生のアイデアあふれる交流会となった。また災害ボランティアでは九州北部豪雨による被災地への支援活動を実施した。ちなみに、この経験は島根県の地震被害の発生に対する素早い救援活動に生かされた。さらに、全学的な災害ボランティアセンターの設置検討につながっている。

学生の地域振興に関する優秀卒業研究、論文、フレッシュマン・フィールド・セミナー（浜田キャンパス）、「地域研究と教育」の発行（松江キャンパス）など学生の地域関連研究も引き続き一定の成果を収めた。これにより、この 5 年間に地域の自治体、NPO、教育機関などとの連携が強まった。

一方、大学生の小中学校学習支援事業（浜田キャンパス）、サテライトキャンパス公開講座（出雲キャンパス）、履修証明プログラム（松江キャンパス）をはじめ、それぞれのキャンパスでユニークな学習活動が地域とともに、地域住民とともに展開され、今日に至っている。

以上のように、今年度においても「縁結びプラットフォーム」は着実に成果をあげてきたといえる。地（知）の拠点整備事業は終了するが、5 年間で得られた成果をもとに、事業を精選しつつ、さらに発展的に継続していくこととしている。

終わりに、島根県立大学「縁結びプラットフォーム」にこれまで関わっていただいたすべての皆様に、厚くお礼を申し上げたい。島根県立大学は「縁結びプラットフォーム」の成果を生かしつつ、さらに「地域貢献日本一」を目指して歩み続けたい。

公立大学法人島根県立大学

理事長・学長 清原 正義

目次

はじめに	1
I. 3キャンパス合同事業	
1. 「地(知)の拠点整備事業」平成29年度全域プラットフォームの実施状況	5
1) 縁結びプラットフォーム運営委員会総会	5
2) 第5回全域フォーラム	6
3) しまね地域マイスター認定制度	10
4) しまね地域共育・共創研究助成の研究成果	11
5) 浜田市と島根県立大学の共同研究成果報告会	29
6) 益田市と島根県立大学の共同研究成果報告会	30
2. 3キャンパス合同学生ボランティア	31
1) 3キャンパス合同学生ボランティア企画(7/2)	31
2) 3キャンパス合同学生ボランティア交流会(11/18~19)	34
3. 学生災害ボランティア	36
1) 九州北部豪雨に伴う災害ボランティア活動2017記録	36
II. 各キャンパスの活動	
1. 浜田キャンパス	39
1) 学生の地域貢献活動	41
(1) 学生ボランティア活動(災害ボランティア以外)	41
(2) ボランティア・ポイント抽選会	44
(3) 地連café(ボランティア交流会)	45
2) 地域に関する教育・研究活動	46
(1) 地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会	46
(2) フレッシュマン・フィールド・セミナー	48
(3) 浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会 と島根県立大学の共同研究成果報告会	51
3) 地域から/地域への応援・情報発信	52
(1) 公開講座	52
(2) 学生研究発表会	56
(3) 大学生による小中学校学習支援事業	57
(4) 匹見中学校学習等支援	58
(5) 中学生の島根県立大学訪問	59
(6) はまだ灯2017	62
(7) MAKE DREAM 2017	63
(8) 高大連携の取り組み	64
(9) NEARセンター市民研究員制度	65
(10) 講演会講師等・審査会委員等	68
2. 出雲キャンパス	73
1) 生涯学習	75
(1) 公開講座	75
(2) サテライトキャンパス公開講座	77
(3) 地域、団体主催による出前講座	81

(4) ぎんざんテレビ出前講座	83
2) 学生の地域交流・地域貢献	85
学生ボランティア活動の促進	
(1) 学生ボランティア研修会	85
(2) 学生ボランティア・マイレージ制度・ボランティア活動保険の実施	86
(3) 学生へのボランティア情報提供	87
(4) 3キャンパス合同学生ボランティア交流会	88
3) 教育機関との連携	92
(1) 小中高校等出前講座	92
(2) 小中学校体験学習	93
4) 産公学連携	94
(1) 包括協定締結自治体との連携	94
(2) 受託研究	95
(3) 受託事業：出雲市 児童虐待防止推進研修事業	95
(4) 共同事業：出雲市 平田地区介護予防教室事業（平田いきいき会）	97
(5) NPO法人・関係団体・企業との連携：いずも産業フェア2017への出展	98
(6) 各種審議会・委員会等への参加	99
5) 広報・広聴活動	102
(1) ホームページ等を活用した最新情報発信	102
(2) キャンパスモニター会議	103
(3) ジュニア・シニアキャンパスツアー	104
3. 松江キャンパス	107
1) 地域に関する教育・研究活動	109
(1) 地域志向科目の位置づけ	109
(2) 『しまね地域共生センター紀要』の刊行	111
(3) 『地域研究と教育』の作成	111
(4) 研究連携協議会	112
2) 「社会人の学び」体制構築、公開講座・講演会等の開催	112
(1) 履修証明プログラム	112
(2) 公開講座の開催	113
(3) 客員教授による講演会	114
3) 地域活性化支援	115
(1) 企業・団体・NPO法人等との連携	115
①健康栄養学科の地域活性化支援	117
②保育学科の地域活性化支援	121
③総合文化学科の地域活性化支援	122
④連携協定	123
(2) 自治体との連携	124
①松江市との教育連携協議会	124
②松江市主催文化教育行事への協力	124
③小泉八雲記念館との連携	125
④松江市立女子高等学校との連携	126
⑤正課授業における連携協力	126
4) 教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携	127
(1) 連携校協議	127
(2) 健康栄養学科の教育機関連携	128

(3) 保育学科の教育機関連携	129
(4) 総合文化学科の教育機関連携	131
5) 教育課程のための地域の施設・機関との連携	131
(1) 健康栄養学科の実習施設・機関との連携	131
(2) 保育学科の実習施設・機関との連携	132
6) 学生による地域貢献活動	134
(1) 学生の自主的なボランティア活動	134
(2) キラキラドリームプロジェクト	135
7) おはなしレストランライブラリーの地域連携活動	143

Ⅲ. 縁結びプラットフォーム事業

1. 事業概要	149
3キャンパス共通の事業概要	149
2. 事業の主な具体的取組	150
島根県立大学／島根県立大学短期大学部	150

Ⅳ. その他の地域活動

1. 地域貢献プロジェクト助成事業	151
2. 島根県との連携	152
3. 島根県中小企業家同友会との連携	153
4. 津和野町との連携	154
5. 島根あさひ社会復帰促進センター・浜田市との連携	155
6. 島根県国民健康保険団体連合会との連携	156

おわりに	157
------	-----

参考

1. 大学憲章	159
2. 自治体・学校等との協定・覚書	160

I. 3 キャンパス合同事業

1. 「地(知)の拠点整備事業」平成 29 年度全域プラットフォームの実施状況

1) 縁結びプラットフォーム運営委員会総会

①平成 29 年 5 月 26 日（金）午後、島根県立大学浜田キャンパスにて、「平成 29 年度縁結びプラットフォーム運営委員会総会」を開催しました。

以下の議事について、審議がなされ、いずれも承認されました。

当日の議事は以下のとおりです。

■議事

- ・第 1 号議案 平成 28 年度事業実績、事業評価（自己評価・外部評価）の報告について
- ・第 2 号議案 平成 29 年度事業計画(案)について

いただいたご意見等を整理・検討いたしまして、引き続き、本学の COC 事業の実施計画に反映させてまいりたいと思います。



②平成 30 年 3 月 20 日（火）午後、島根県立大学浜田キャンパスにて、「平成 29 年度縁結びプラットフォーム運営委員会総会」を開催しました。

以下の議事について、審議がなされ、いずれも承認されました。

当日の議事は以下のとおりです。

■議事

- ・第 1 号議案 平成 29 年度事業実績、事業評価（自己評価・外部評価）について
- ・第 2 号議案 平成 30 年度予算(案)について

いただいたご意見等を整理・検討いたしまして、引き続き、本学の今後の事業の実施計画に反映させてまいりたいと思います。

2) 第5回全域フォーラム

平成30年2月16日(金)、浜田キャンパスを会場に、平成29年度島根県立大学「地(知)の拠点整備事業」成果報告会『第5回全域フォーラム』を開催しました。

自治体等関係団体のみならず、県外の高等教育機関、一般企業・団体、地域の方々など計137名のご来場を頂きました。

今年度は、「しまね地域共育・共創研究助成金(COC研究費)」の成果報告のほか、浜田市・益田市・浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会と島根県立大学の共同研究の成果報告、連携会議、浜田キャンパス学生研究発表会を併せて開催しました。

昨年度同様、来場いただいた皆さまと幅広く、そしてより深い意見交換が行えるよう、後半でポスターセッション形式とし、大変活発な意見交換が行われ、大盛況のうちに終了することができました。

◆日 時 平成30年2月16日(金) 9:30~14:00

◆会 場 島根県立大学浜田キャンパス

講義・研究棟1階 大講義室1、中講義室3・4・5、学生会館カフェテリア

◆プログラム

<開会のあいさつ>

- ・公立大学法人島根県立大学 清原正義 理事長
- ・浜田市 久保田章市 市長
- ・益田市 山本浩章 市長



▲清原理事長あいさつ



▲久保田浜田市長あいさつ



▲山本益田市長あいさつ

・共同研究報告会

会場 中講義室 3	浜田市共同研究報告
	「産学官連携の新しいお土産の開発 ～浜田水産加工品「はまぼこ」～」 島根県立大学 田中恭子 准教授(浜田キャンパス)
	「空き店舗を利用した島根県立大学サテライト教室および様々な交流結節機能発見のための社会実験」 島根県立大学 藤原真砂 教授(浜田キャンパス)
	「市内循環系統におけるフリー乗降区間設置による利用促進の提案」 島根県立大学 西藤真一 准教授(浜田キャンパス)
会場 中講義室 4	浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会との共同研究報告
	「特色ある浜田と邑南の食の提供 次世代へ繋ぐ郷土料理「日常に融合した郷土料理の伝え方」 ～子育て世代へのニーズ調査～」(浜田キャンパスのみ) 島根県立大学 田中恭子 准教授(浜田キャンパス)
	浜田市共同研究報告
会場 中講義室 5	「地域ブランド米の販路拡大に向けた調査・研究」 島根県立大学 豊田知世 講師(浜田キャンパス)
	「買い物タクシーの導入可能性に関する調査・研究」 島根県立大学 松田善臣 准教授(浜田キャンパス)
	「浜田城下町ものがたり」－幕藩体制下における外様・譜代・親藩大名、栄枯盛衰の250年－ 島根県立大学 光延忠彦 教授(浜田キャンパス)
会場 中講義室 5	益田市共同研究報告
	「石見地域のビジネス利用の実態調査と利用促進に関するサーベイ」 島根県立大学 西藤真一 准教授(浜田キャンパス)
	「益田商店街の活性化の可能性について ～「地域資源を活用したまちづくり」からのアプローチ～」 島根県立大学 久保田典男 准教授(浜田キャンパス)
	「保小中連携による「ふるさと基盤教育」の実証研究」 島根県立大学短期大学部 山下由紀恵 教授(松江キャンパス)



▲浜田市との共同研究報告



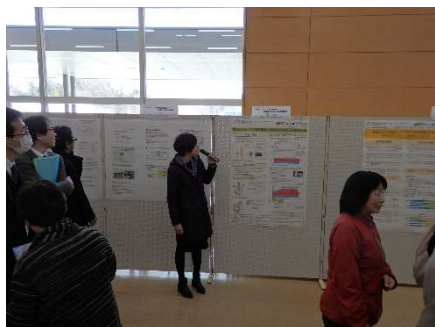
▲益田市との共同研究報告



▲浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会との共同研究報告

・しまね地域共育・共創研究の成果報告会、学生研究発表会（浜田キャンパス）、連携会議・
情報交換

学生会館 カフェテリア	しまね地域共育・共創研究の成果報告
	「大学生を対象とした「地域学習プログラム」の開発 一津和野町を拠点としたアクティブ・ラーニングを通じて」 島根県立大学 井上厚史 教授(浜田キャンパス)
	「地方中小企業に対する地域金融機関の経営支援に関する研究」 島根県立大学 久保田典男 准教授(浜田キャンパス)
	「食品安全水準底上げに対する阻害要因分析:浜田市の水産加工業を事例として」 島根県立大学 豊田知世 講師(浜田キャンパス)
	「小規模バイオマス発電事業の地域経済循環と環境影響評価」 島根県立大学 豊田知世 講師(浜田キャンパス)
	「ヘルスツーリズム需要者の観光ニーズに関する基礎的研究」 島根県立大学 林秀司 教授(浜田キャンパス)
	「いわみ地域女性の年齢別就労事態の研究」 島根県立大学 藤原真砂 教授(浜田キャンパス)
	「終末期の援助的コミュニケーションを教育するプログラム開発」 島根県立大学 阿川啓子 講師(浜田キャンパス)
	「エリアマネジメントにおける消費生活環境整備に関する研究」 島根県立大学短期大学部 藤居由香 准教授 (松江キャンパス)
	「温泉施設を活かした若年層向け商品開発およびサービスの調査」 島根県立大学 金野和弘 准教授 (浜田キャンパス)
浜田市における子育て支援策の検討 ー子育て支援センター利用者調査からー 島根県立大学 齋藤暁子 講師 (浜田キャンパス)	
連携会議・情報交換	
「中山間地域における子育て支援ニーズに関する実践的研究」 島根県立大学 齋藤暁子 講師 (浜田キャンパス)	
「ヨシタケコーヒーを活かした地域活性」 島根県立大学 藤原真砂 教授 (浜田キャンパス)	
「島根県産品の基礎研究による特性活用方法」 島根県立大学短期大学部 籠橋有紀子 准教授 (松江キャンパス)	
学生研究発表 (浜田キャンパス)	
産学官連携の新しいお土産の開発 ～浜田水産加工品「はまぼこ」～ 島根県立大学 田中恭子 准教授 (浜田キャンパス)	
柴犬のルーツを探る：島根県石見地域の隠れた地域資源とその可能性 島根県立大学 豊田知世 講師 (浜田キャンパス)	



▲しまね地域共育・共創研究成果報告



▲連携会議・情報交換



▲学生研究発表（浜田キャンパス）▲



3) しまね地域マイスター認定制度

しまね地域マイスター認定制度とは

島根地域のさまざまな分野において、課題解決能力をもった学生を認定する、本学独自の制度です。卒業時には、自ら地域の課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材として、社会に飛び出すことができることを目標にしています。

<育成しようとする人材像>

以下の3項目を人材育成目標として掲げています。

- ①島根県内の地域の事情に精通している人材
- ②地域に関わるさまざまな人々を結びつけるコーディネート力がある人材
- ③熱意をもって地域の困難な課題の解決に取り組むことができる実践力がある人材



「しまね地域マイスター」の期待される効果について

<学内での効果>

地域学習を段階的・体系的に制度化すること、大学と地域との「共育」を実践することに意義があり、学生の提言力、実践の力の育成につながると考えています。

<地域への効果>

マイスター学生が地域において学習・実践し、卒業研究などを通じた提言を行うことによって、地元地域・企業等の活性化、地元地域（島根県）への愛着の醸成、結果としての地元地域への就職の可能性拡大などを期待しています。

『しまね地域マイスター認定制度』各カリキュラムについて

しまね地域共生学入門

講義中継システムを活用し、3キャンパス同時の遠隔講義形式で実施する科目で、島根県の地域課題を概論的に学びます。

複雑な地域課題において、複数の専門からの知見により学ぶことで、実際に地域に出て実践する力を養います。

地域課題総合理解

浜田キャンパスと出雲キャンパスが合同で開講する科目で、1泊2日の集中講義形式で実施します。島根県が抱える問題について、異なる分野の学生が演習形式で議論・報告することを通して、地域課題を複眼的にとらえる力を養う授業です。

地域共生演習 [総合政策学部（浜田キャンパス）科目]

しまね地域マイスター取得を目指す学生対象の演習（ゼミ）です。

関心のある地域課題の解決に向けて、自らの仮説を設定し、

フィールドワーク等を通して検証し、解決策を提案できるような力を養います。

4年次には、地域課題について学んできたこれまでの知見と実践を踏まえ、

「地域共生卒業研究」を完成させます。



4) しまね地域共育・共創研究助成の研究結果

(1)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス）教授 藤原 眞砂
研究テーマ	いわみ地域女性の年齢別就労実態の研究

1. 研究目的

少子高齢化に対して女性が貢献できることは多い。一つは出生行動への参加であり、他方は労働参加である。前者は将来の労働人口の創出に関して要請され、後者は当面の労働力の不足に対処する行動である。いずれも少子高齢化社会に危惧される労働力の不足に対処する行動である。この面で島根県の子育て期の女性の労働参加率は就業構造基本調査によれば全国一の高さを誇っている。本研究はなぜ島根県はこのような高さを達成しているのかを実証的に解明することを目指すものである。

2. 方法

まず少子高齢化問題に関係した関連文献を渉猟するとともに、島根県の女性の労働参加率等を扱った関連統計も収集した。これによれば島根県の女性の労働参加を促す要因を体系的に解明する研究はないことが分かった。利用出来るものは促進要因とされる要因を状況証拠的に列挙する研究にとどまっていた。複数の促進要因との関係性を体系的解明するには、要因間の関連を検証出来る独自の質問紙票調査を設計し、実査にかけることが必要であった。以上の必要性の認識に基づき、島根県の女性の労働参加と、それに併せて出生行動参加も実証的に研究する質問紙票を設計し、調査を実施に移すことにした。質問紙票の設計に当たっては浜田市、益田市子育て支援課、島根県男女共同参画研究センターから教示を得た。2018年3月に「島根県の子育て期の女性の仕事と生活調査」を浜田市、益田市の協力を得て、全数調査を実施し、回収した。回収率は60%、回収数はじつに3213票であった。

3. 結果

一部のデータについて入力を済ませ、集計を行った。他の集計結果も順次、公表する予定である。女性の誕生、卒業、結婚、就業履歴、出産履歴の記入を依頼し、仕事と生活の関係性を実証的に研究する調査である。こうした調査は内閣府が実施しているパネル調査のほかない。パネルデータは同一の人に継続的に調査依頼し、履歴情報を収集するものであるが、回を経るごとに協力者数が減少する大きな問題を持っている。今回、本研究により 3200 人余りの島根県の女性の仕事と生活の履歴情報を一挙に得た。今後、これまで未知であった子育て期の女性の実態が明らかになる。この調査から得られる知見、政策的含意は島根県のみならず、今後さらに少子高齢が進展する他の都道府県や国に対しても大いに有益な情報になるものと考えられる。

ちなみに島根県の男性の平日の家事参加率、育児参加率は 87%、30.2%であることが分かった。社会生活基本調査(生活時間調査)によれば、それはそれぞれ非共働きで 6.8%、24.7%、共働きで 11%、27.1%であった。家事、育児参加を問う質問の形式がことなるので、今後慎重に検討する必要があるが、島根県の男性の家事参加率が非常に高いことが理解される。これに限らず、調査票には日本の家族社会学会で調査、研究が重ねられてきた「父親の家事・育児参加の規定要因」研究の知見を検証する質問も設けられている。学術的にも意義のある知見が今後得られよう。

4. 研究成果の公表

今後、総合政策論叢をはじめ、学外の研究誌にも投稿する。また島根県、浜田市、益田市の関係自治体にも成果を公表する。関係自治体を集めた少子高齢化対策のシンポジウムも企画し、県での情報活用、情報共有を図りたい。さし当たって、6月11日一橋大経済研究所が主催するシンポジウムで「同一世帯の夫と妻の子育て、家事時間の関係性に関する一考察 ―社会生活基本調査データと島根調査データを用いて―」研究発表する。

5. 地域貢献の成果

いままだデータ入力、解析の途中段階である。島根県、浜田市、益田市に研究の成果を紹介する中で、政策的含意を議論し、子育て、出産、就労に関係した政策形成に貢献する。

(2)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス） 教授 井上 厚史
研究テーマ	大学生を対象とした「地域学習プログラム」の開発 -津和野町を拠点としたアクティブ・ラーニングを通じて-

1. 研究目的
本研究は、本学学生（ゼミ生）を対象として、彼らが郷土に対して能動的な関心と愛情を持つための「地域学習プログラム」を開発し、地域研究のあり方について新たな提言を行うことを目的としたものである。
2. 方法
津和野町に I ターンした若者が運営する NPO 法人 bootopia の協力を得ながら、地域課題の解決に大学生自らが取り組むアクティブ・ラーニングを実施し、その成果の分析と解決策の提示を行う。具体的には、アクティブ・ラーニングを（1）教育と（2）ブランディングの二方面において実施する。（1）については、「津和野教育の過去と現在」をテーマとして、津和野町教育委員会との協働による西周や森鷗外を輩出した藩校養老館の調査、また津和野高校魅力化チームや町営英語塾 HAN-KOH の視察等により、未来に繋がるふるさと教育のあり方を考えた。（2）については、まちの魅力を発掘し記述する「パターン・ランゲージ」を用いて地元の商工業者にインタビューし、津和野町の新たなブランド戦略を考察した。 また、取り組んだ内容としては、講義（5/10、5/24、7/12）、フィールドワーク（5/13）、合宿（8/1-3）、成果報告会（8/3）、地域活性学会での学生発表（9/1）、コンペへの参加（12/6-17）等である。

<h3>3. 結果</h3>
<p>参加型のまちづくりを志向する手法である、パターン・ランゲージの制作プロセスを通じて、本手法には、制作プロセスそのもののなかに市民を巻き込んでいく力があることがわかった。学生の制作した中途の段階のパターンをヒアリング相手に見せると、「一緒につくってみたい」と語る人が多く、メディア制作そのものが地域と学生の連携の糸口になりうることがわかった。パターン・ランゲージの完成とその活用により、学生と小さな自治体との連携がよりスムーズになるように修正を加えるとともに、メディアの制作プロセスそのものをよりいっそう地域に開いていく方法を考察する必要がある。</p> <p>また、津和野町の文化財に対する理解を深めるために、大学生が祭りなどに小学校・中学校・高校の学生たちとともに参加し、彼らが津和野町の歴史に対する誇りを共有することができるかどうか重要であり、そうした活動の中で、大学生や高校生に地元の郷土史について広く学ぶ機会を提供し続ける必要があることがわかった。</p>
<h3>4. 研究成果の公表</h3>
<p>島根県立大学総合政策学会『総合政策論叢』34号(10月発刊)に「共同配送の飛躍を目指して」論文を投稿する。また勝谷氏主催のホームページに「いわみの産品ホームページ」を統合、リンクさせ、DIDの参加企業の広報を図る。</p>
<h3>5. 地域貢献の成果</h3>
<p>DCDに事業所アンケートの情報を提供し、DCDの参加企業の増大、搬送ルートの再設計に貢献したい。この場合、回答事業所の企業情報の保護にも配慮する。また、販路の拡大に関しても、これまでの研究で構築した「いわみ産品ホームページ」をコンサルの勝谷氏の全国版にホームページにリンクし、販路の拡大を試みる。研究により得た成果、あるべき方向性は今後、地域経済の維持・発展に些かとも貢献することが期待される。</p>

(3)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス） 准教授 久保田典男
研究テーマ	地方中小企業に対する地域金融機関の経営支援に関する研究

1. 研究目的

島根県内の企業数は減少傾向にあり、とくに県内企業のほとんどを占める中小企業の減少が顕著となっている。地方において中小企業の減少を食い止めるには、既存企業の事業承継や新規事業開発を円滑に推進することが重要となる。

しかしながら地方の中小企業が自社単独で事業承継や新規事業開発に関する様々な課題を解決することは困難である。そこで地域の情報ネットワークの要であり、人材やノウハウを有する地域金融機関が、資金供給者としての役割にとどまらず、地方の中小企業等に対する経営支援や地域経済の活性化に積極的に貢献していくことが求められる。

本研究では、地域金融機関の中小企業の経営支援のうち特に事業承継支援に焦点を当てつつ、地域金融機関が中小企業の事業承継支援において果たす役割を明らかにするとともに、地域金融機関が中小企業の事業承継支援を行うにあたりどのような様な取組みが求められるのかを提示することを目的とする。

2. 方法

具体的な研究方法としては、中小企業の経営支援に関する既存研究をサーベイするとともに、金融庁の地域金融機関に対する政策を整理した。

その上で、本研究では地域金融機関の事業承継支援等の経営支援に対する取組みの現状と課題を整理するために、中小企業への事業承継支援に積極的な地域金融機関に対してインタビュー調査を実施した。

また、中小企業の事業承継支援等の経営支援に関する最新の情報を収集するために、中小企業研究者や中小企業支援を実際に行っている中小企業診断士、税理士、社会保険労務士などの士業専門家などを構成メンバーと大学や士業専門家などを構成メンバーとする中小企業の事業承継に関する研究会に参加し、情報収集や意見交換を行った。

3. 結果

インタビュー調査の結果等から、地域金融機関が事業承継支援に果たす役割としては、
①中期経営計画、事業承継計画などの計画策定支援、②親族内承継の場合の株式に関する相談対応、③第三者承継の場合のM&Aに関するマッチング支援などがあることがわかった。

また、地域金融機関が中小企業支援を行うための体制を構築するためには、自社内での程度まで支援の「内製化」を図るかの見極めが必要であること、「内製化」を行うための体制構築には長期を要するとともに複数の専担者が必要であること、外部機関との提携を強化する場合は複数の提携先を持ちそれぞれの得意分野に依頼する必要があることがわかった。

以上を踏まえ、地域金融機関が中小企業の事業承継支援を推進するための取組みとしては、①事業承継支援に関する専門部署の設置、②配属機関の長期化など専担者の配置に向けた取組み、③資格取得支援、社内外の研修強化、外部機関へのトレーニー派遣などの人材育成の強化、④事業承継支援の取組みを人事考課に反映させる仕組みの構築、⑤事業承継支援に関するノウハウ蓄積に向けた連携強化に整理された。

4. 研究成果の公表

研究成果については、2017年12月2日に九州大学において開催された「日本ベンチャー学会第20回全国大会」において、口頭発表による学会発表を行った。

また、2018年2月16日に島根県立大学浜田キャンパスにおいて開催された「第5回全域フォーラム」において、ポスターセッションによる発表を行った。

5. 地域貢献の成果

島根県浜田市に本店が所在する地域金融機関である日本海信用金庫が運営する後継経営者育成塾である「せがれ塾」での研修講師を務め、実践的な立場から地域金融機関における事業承継支援をはじめとした中小企業の経営支援に携わることができた。

また、益田市商工業振興会議では委員長を務め、本研究の成果も踏まえつつ地域金融機関の支店長などとの議論の下、益田市内の中小企業に対する事業承継支援策を議論するなど具体的な地域貢献の取組みを行った。

(4)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科 (浜田キャンパス) 准教授 金野 和弘
研究テーマ	温泉資源を活かした若年層向け商品およびサービスの調査

1. 研究目的

本研究の目的は、道後温泉での若年層に焦点を当てて行っている先行事例などについて、ヒアリング調査を行うとともに、温泉街では若年層が温泉に求めるものに関するアンケート調査を行うことである。得られた調査結果から、島根県内の温泉地への情報提供と、島根県内でも効果が得られると考えられる取り組みの提案を行うことである。

2. 方法

本研究では、ヒアリング調査とアンケート調査を実施した。ヒアリング調査では、道後温泉旅館協同組合事務所を訪問し、道後温泉旅館協同組合専務理事の田内宏幸氏に対してヒアリング調査を行った。予め田内氏に質問事項を送った上で、その事項およびそれに関連する事項についてご回答いただいた。主な質問内容は、若年層をターゲットとした取り組みについてである。アンケート調査では、10代～40代を対象とし、温泉に求めるものに関して行った。「あなたが温泉に求めるものは何ですか」という質問について、13個の選択肢の中から1つを選んでシールを貼ってもらうというやり方で実施した。道後温泉の商店街や道後温泉駅前など道後温泉街を範囲として、調査員7名で調査を行った。

3. 結果

ヒアリング調査を通じて、道後温泉は恵まれた立地にあること、情報発信を上手に行っていること、産官学連携して街づくりに励んでいること、が道後温泉が観光客に選ばれる理由であることが明らかになった。まず道後温泉の立地については、空港や他の観光地との距離が近くアクセスが良いため、観光しやすいという。そのため、観光客が訪れやすいと推測されるとのことであった。次に情報発信については、道後温泉では Instagram に公式アカウントを設け、情報発信を行っている。更新の頻度も高く、投稿の中でイベントの告知などについても掲載されている。また、台湾の北投温泉と温泉友好協定を結び、交流を通じて台湾の観光客にも PR している。産官学連携事業については、近隣の大学に道後温泉の街づくりを考える講義を開講し、大学生の意見も取り入れた街づくりに成功している。そして、行政からも大きな予算を用意してもらってイベントを開催できるため、有名アーティストの協力のもと大規模なアートフェスティバルを開催することができる。アンケート調査では、温泉に求めるものの中で最も多く選ばれたのは「癒し」という結果になった。男女問わず、温泉に「癒し」を求める人が多いということが確認された。

4. 研究成果の公表

道後温泉を調査場所を選んだ理由は、若年層に焦点を当てたイベントが評価されていたからである。その先進事例について多くのお話を伺うことができ、さらに詳細な数値データもいただくことができ、非常に参考になった。しかし、島根県内の温泉地とは規模が違い、道後温泉だからできることが多くあると感じた。また、アンケート調査についても、もっと質問項目を増やし、情報を集めることができれば良かったという反省点が残った。

5. 地域貢献の成果

参考にできる取り組みとしては、SNS を通じた情報発信と、産官学の連携事業である。島根県内の温泉地は市街地から離れたところに多く、道後温泉のような立ち寄りやすさには欠ける。そのため、足を運んでもらうには、温泉地を認知してもらった上で選んでもらわなければならない。SNS での情報発信は、更新頻度に気を付けて行えば効果は期待できることがわかった。産官学連携事業については、近隣の大学生などの若年層の意見を取り入れたイベントの実施で、若年層の関心を高めることができることがわかった。イベントの実施は、一過性のものでは意味がないので、サークルなどと連携して継続的なつながりを確保することが重要であることが明らかになった。

(5)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 短期大学部 総合文化学科 (松江キャンパス) 准教授 藤居 由香
研究テーマ	エリアマネジメントにおける消費生活環境整備に関する研究

1. 研究目的

平成 23 年度浜田市と島根県立大学との共同研究事業「住生活支援としての買い物弱者対策」で得られた居住者の消費者意識を踏まえて商業施設側の実態を調査し、消費者と事業者側のギャップを明らかにし、エリアマネジメントの観点から消費生活環境整備のための方策を見出すことを目的とする。

(注：エリアマネジメントとは、地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための住民・事業主・地権者などによる主体的な取り組みを指す。消費生活を本研究では、「商品または役務（サービス）」の対価として「代金」の支払いがおこなわれる「消費者」と「事業者」の双方向のやりとりを包括した範囲としている。)

2. 方法

本研究にあたり、現地聞き取り調査、店舗調査を実施した。

調査項目の設定にあたっては、平成 23 年度の調査で明らかになった買い物環境に関する消費者意識と、平成 29 年度のエリアマネジメントの一つの視点として消費生活環境の調査を対応させ、平成 23 年度に見い出された課題の解決策の検討と、次に解決すべき課題の抽出を行うことを意図した。

店舗調査 (平成 29 年 11 月 27 日・28 日) 浜田市内 4 店舗を対象

聞き取り調査 (平成 29 年 12 月 18 日) 松江市内の消費生活に関する団体

(平成 29 年 12 月 18 日・12 月 26 日) 益田市 (県) ・浜田市の消費生活行政に関する部署

(平成 30 年 1 月 16 日) 浜田市内の消費生活に関わる事業者

(平成 30 年 2 月 15 日) 他県(福岡市内)の先進的な消費生活に関わる事業者

3. 結果

店舗調査では、消費生活の内の「商品」として、浜田市で普及している「赤天」に注目した。平成23年度調査で、多様な飲食方法があることがわかっていたが、店舗のPOPには記載が乏しく、他地域の消費者への情報提供不足といえる。続いて店舗の「陳列」では、棚を用いずに発泡スチロールや段ボールの箱で代用している実態が明らかになった。

聞き取り調査により、行政の消費者相談の実態からは、他県の悪質業者の侵入、ネット環境での金銭支払いと契約のトラブル、健康食品、置き薬、炊飯器など口に入る物関連の商品への注意が必要である。また、行政施策として地域の「福祉と消費の部署連携による見守り制度」の設置自治体が増えつつある。

消費生活環境に関する他県の事業者の事例の、消費者と別の事業者とをつなぐ情報提供は、「消費者と事業者」の両方に利点がある。

エリアマネジメントに関わる事業者である有償ボランティアシステム「おたがいさま」は公民館単位の消費生活環境整備面からのエリアマネジメントとして機能している。「おたがいさま」と、別の複数の事業者の民間ネットワーク「地域つながりセンター」は、組織体制と活動内容ともに全国的にも注目を集める仕組みだと考えられる。

4. 研究成果の公表

- ・平成30年2月16日 全域フォーラム ポスターセッション 於) 浜田キャンパス
- ・平成30年3月2日 COC研究連携協議会 ポスター発表 於) 松江キャンパス
- ・(予定)平成30年6月12日または7月10日 一般市民向け公開講座 椿の道アカデミー
松江市民大学連携講座 しまね消費生活まちづくり講座 於) 松江キャンパス

5. 地域貢献の成果

【行政】消費者の加齢による、今後の消費生活に対して抱えている不安の解消策として、現行の見守り制度の設置済み自治体での拡大と、未設置自治体での設置検討が必要だと考えられる。

【店舗】調査事例から、陳列棚やPOPのようにディスプレイ面の工夫によって、消費者側が買い物しやすいように店舗整備を行う余地がある。

【民間ネットワーク】調査事例により、消費者と複数の事業者のネットワーク化により、消費生活を支えつつエリアマネジメントを継続実施できる可能性が示唆された。

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス） 講師 豊田 知世
研究テーマ	食品安全水準底上げに対する阻害要因分析 ：浜田市の水産加工業を事例として

1. 研究目的
<p>2016年、厚生労働省はHACCP取得を国内食品事業者に段階的に義務づける方針を打ち出したが、HACCP取得の手続きが煩雑であるため、高齢化が進み、後継者不足の問題を抱えている小規模企業での導入が遅れている。本研究では浜田市の水産加工品を対象に、HACCPに対する懸念や課題を引き出すとともに、導入するための政策課題を探ることを目的とする。</p>
2. 方法
<p>食品安全水準の底上げに対して、対象企業はどのようなことを懸念しているのか、導入にかかる企業および地域の課題を明らかにしたうえで、HACCP取得にむけて地域の行政はどのようなサポートが必要となるのか、政策提言を行う事が目的である。</p> <p>本研究では、対象地域を島根県浜田市、江津市の飲食品関連事業者とした。石見地域はこれまでHACCPに取り組む事業者が極めて少なかった地域であったため、今後、地元保健所が有効な指導・支援を行なうために、食品事業者らがHACCP義務化の動きをどのように感じているかを明らかにするため、食品衛生に関する認証が特に少ない石見地方を対象としている。</p> <p>調査は、2017年6-7月にかけて、石見地域の飲食喫茶店、食品販売事業者、食品製造業事業者の1,070の事業者アンケート調査票を郵送し、返信用封筒で回答を回収する方法で実施した。</p> <p>アンケート調査では、事業者の基礎データの他、食品衛生管理状況や認証取得の有無、食品衛生認証に対する印象や導入に当たっての懸念材料、HACCP義務化の動きに対する考え、保健所に期待する項目、衛生管理に関して知りたいこと等、に関する情報を収集した。また、石見地方の小規模水産加工業者へのヒアリング調査を実施し、とりわけ小規模高齢化が進む事業者への提言をまとめた。</p>

<p>3. 結果</p>
<p>本調査で実施した郵送のアンケート調査の結果、263 事業者から有効回答を得た（回収率 25.8%）。内訳は、飲食店・喫茶店が 148、食品販売業が 68、製造業が 79(内、水産加工業 19)であった。</p> <p>HACCP への関心は、HACCP 認証を取得していない事業者の場合、「飲食・喫茶店」と「販売」では「わが社では不要」の回答が最多であるのに対して、「製造」では「関心がある」が最も多い。特に「製造(水産のみ)」ではその特徴が著しいことが明らかになった。</p>
<p>4. 研究成果の公表</p>
<p>合同成果報告会、COCディスカッションペーパー</p>
<p>5. 地域貢献の成果</p>
<p>地元保健所は HACCP 義務化に際して重要な役割を担っている。食品事業者らは、全般的には保健所に対して好印象をもっており、今後、保健所は事業者の期待と信頼に応えながら、その果たす役割は大きい。</p> <p>ただ、HACCP 義務化に対して、異なる行政機関や法人が、それぞれ様々な支援策や勉強会を開催している。そのため、支援や情報を求める事業者が行政機関でたらい回しにされることなく自社の状況に応じた対策を判断できるよう、ワンストップの相談窓口開設を提言したい。</p>

(7)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス） 講師 豊田 知世
研究テーマ	小規模バイオマス発電事業の地域経済循環と環境影響評価

1. 研究目的
地域資源を活用したバイオマス発電は地域経済への波及効果が期待されている。しかし、大規模木質バイオマス発電施設は、広い範囲から木質チップを収集したり、海外からヤシ殻を輸入したりするため、資金が地域外へ流出したり、環境負荷が高くなることが懸念されている。本研究では2,000kw未満の小規模バイオマス発電施設が導入された場合、大規模のバイオマス発電施設と比較して、どの程度地域経済および環境が変化するかを検証することを目的とする。
2. 方法
<ul style="list-style-type: none">・エネルギーの支払い状況の推計 NEDOのデータベース、都道府県別統計から、地域のエネルギー需要を按分して推計する。・バイオマス発電施設に関するデータ おもに関連企業、事業体へのヒアリングと調査票の配布によって、規模別の発電施設に関わる資金のフローを明らかにする。本研究では、2,000kw未満の小規模施設と、10,000kw以上の大規模施設の関連事業体に調査を行い、データを整備した。・大規模集中型施設と小規模分散型施設の比較 木質バイオマス施設は規模によって地域経済にどのような影響を与えているのか、その違いによって地域経済循環にはどのような影響があるか、LM3手法を用いて検証する。・差がつく要因の分析 再生可能エネルギーによる地域内経済循環への影響は、利用形態や運営方式によって大きく異なる。木質バイオマスエネルギー利用の事例を比較し、地域内経済への波及効果に差がつく要因についてまとめる。

<h3>3. 結果</h3>
<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー支払金額の推計結果 およそ1万人の小さな町中間地域でも、エネルギー使用料金として少なくとも年間26億円以上を地域外に支払っていることが推測された。 ・規模別の施設の比較 大規模施設のほうが、大量の木質チップの需要が生じるが、多くが外部からの投資や輸入材を利用していることから、地域内経済循環効果に差が出るのが明らかになった。 ・地域経済に有効な木質バイオマスの利活用方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地元資源：輸送にかかるコストと環境負荷が増加するだけではなく、利益も地域外に流れることを定量的に明らかにした。燃料となる木質チップは狭い範囲で小規模分散型のほうが環境負荷や輸送コストを節約することができる。 2) 地元出資：大手商社から出資した大規模施設を作るのではなく、地元が主体的に事業を行うこと。利益が都市部へ流出するという構造が全国でみられているため、長期的にみると利益が入る構造を理解したうえで地元主体の事業転換が必要。 3) 熱利用：木質バイオマスの主なエネルギーは熱として利用されるため、熱需要をベースに木質バイオマスエネルギーの利用を再考することが必要。
<h3>4. 研究成果の公表</h3>
<p>合同成果報告会にて報告／成果の一部は、藤山浩編：豊田共著（2018）『「循環型経済」をつくる』（4章 エネルギーの地産地消で所得を取り戻す）、農文協. に執筆</p>
<h3>5. 地域貢献の成果</h3>
<p>再生可能エネルギーの導入が進められているが、地域経済に有効な活用方法を長期的な視点で考えなければならない。とくに、中山間地域で導入が進められている再エネ事業の多くは、大手商社の出資によって建設され、再エネ事業の利益の大部分が都市部へ流出するという構造が全国でみられているため、地元主体の事業転換が必要となる。資金調達のためには、地元金融機関や地域住民組織の理解が必要となる。住民主体の再エネ活用については、ドイツやデンマークなどで実施されている。海外先進事例も参考にしながら、波及効果を含めた長期視点での事業転換が必要。</p>

申請者	島根県立大学 総合政策学部 総合政策学科（浜田キャンパス） 講師 齋藤 暁子
研究テーマ	浜田市における子育て支援策の検討

1. 研究目的			
<p>社会的資源の少ない浜田市では、子育て支援として公設型子育て支援センターの役割が大きい。現在浜田市では、子育て支援センターの移転計画が出されており、今後の子育て支援のニーズと照らし合わせた支援センターの展開が期待されている。こうした状況をふまえて、本研究では、子育て支援センターのサービスの提供者側である行政、子育て支援センターへの調査と、利用者である子育て世帯への調査から、子育て支援センターの現状や、支援へのニーズを明らかにする。</p>			
2. 方法			
<p>子育て支援センターの利用にかんする子育て支援者への調査と利用者である親への調査を2017年度社会調査法実習Ⅰ・Ⅱ内で実施した。調査者は、申請者と履修生8名（新立航也、久保田和真、黒木幹太、小林朝美、中村圭祐、西澤礼茄、山内友香梨、山本一貴）である。</p>			
	調査の目的	調査の方法	調査の対象
子育て支援者への調査	浜田市での子育て支援の実態と子育て支援センターの役割を把握する	質的調査(半構造化インタビュー調査)	・浜田市子育て支援課 ・浜田市子育て支援センター
親への調査①	子育て世帯の親たちの支援ニーズを探る	質的調査(参与観察調査)	・子育て支援センターの利用者(母子)
親への調査②	同上	量的調査(留置き式アンケート調査)	・子育て支援センターの利用者

<h3>3. 結果</h3>
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援者への調査（半構造化インタビュー調査の結果）：子育て支援課の職員の方からは、浜田市の子育て世帯の概況や、子育て支援策の概況について伺った。特に、子どもが低年齢のうちから共働き率が高いこと、多岐にわたる浜田市における子育て支援策の中で、子育て支援センターが未就園児を対象とした支援の窓口になっていることが明らかになった。こうした自治体の子育て支援の状況を理解した上で、子育て支援センターで働く職員への調査を行った。子育て支援センターの業務内容や、支援者として感じる課題、外部のNPOとの協力状況などが明らかになった。 ・親への調査①（参与観察調査の結果）：約20組の0～2歳児と（母）親と一緒に「あったらいいなこんな子育て支援センター」というテーマでラベルワークを行った。ここから、利用者の親たちが子育て支援センターに求めるもの（ハード面、ソフト面）が明らかになった。 ・親への調査②（留置き式アンケート調査の結果）：アンケート調査の分析結果から、利用者層は旧浜田市内に在住するソーシャルネットワークが弱い専業主母の世帯が中心であり、現在の子育て支援センターが子育て支援において重要な役割を果たしているが、今後の支援の幅を広げていくニーズがあることがわかった。また今回の調査の対象者は現在子育て支援センターを利用している人々に限られるが、浜田市の共働き率の高さや、市内の広さを考えると、子育て世帯の一部にすぎないという課題も見えてきた。
<h3>4. 研究成果の公表</h3>
<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果の対象者への還元（調査結果の一部をポスターにまとめ、子育て支援センターで2018年7月～12月まで掲示） ・報告書『島根県立大学社会調査法実習2017年度報告書——浜田市の子育て支援調査——』の発行 ・研究成果の論文化（研究を行った実習内容の総括を調査実習報告として『社会と調査』に投稿。現在査読中）
<h3>5. 地域貢献の成果</h3>
<ul style="list-style-type: none"> ・本研究では、現在の子育て支援センターの特徴として、利用者の満足度は高いが、旧浜田市の特定の家族モデルのみが利用しているという実態を明らかになった。これは、浜田市の未就学児の子育て世帯の中では多数派ではなく、支援センターの今後を考えるには、他の家族モデルの支援ニーズを検討する必要がある、という課題を指摘することもできた。 ・本研究の成果は、地域の子育て支援の議論に貢献しており、子育て支援センター移転の第一回会議において、本研究の調査報告書が資料として用いられた。

(9)

【しまね地域共創基盤研究費】

申請者	島根県立大学 看護学部 看護学科 (出雲キャンパス) 講師 阿川 啓子
研究テーマ	終末期の援助的コミュニケーションを教育するプログラム開発

1. 研究目的
地域で看取りを経験する専門職業人を対象とした終末期の援助的コミュニケーションを教育するプログラムを開発し、終末期におけるケアの質の向上を目的とする。
2. 方法
教育プログラムの構築 社会人学習者の特徴から、教育内容・教育方法・対象者の選定を行った。
認知症患者の関わり方の教育プログラムでの介入 一般、医療従事者、介護士、福祉関係、学生を対象として、5月21日、8月19日の2回実施した。 高校生を対象とした、教育を9月27日に実施した。 直筆記述的調査で介入前後の効果を評価した。
看取りのコミュニケーションの教育プログラムでの介入 エンドオブライフ・ケア援助士取得し、専門職者を対象に3月24日実施した。

<h3>3. 結果</h3>
<p>教育プログラムの構築</p> <p>社会人学習者の視点では、「教える」のではなく学習者の自己決定を尊重して「学習者の学修活動を支援する」事を重要視した。教育内容の検討では、学会等で公に認められている教育内容とすることで教育内容の質の保証をした。さらに、教育内容は次の2パターンとした。「終末期の援助的コミュニケーション」と高齢者の終末期には認知症が多い事から「認知症に関する関わり方法」とした。</p> <p>認知症患者の関わり方の教育プログラムでの介入</p> <p>1回目：参加者18名、2回目：参加者6名（計24名）男性6名・女性18名、セミナー後認知症の人のイメージが変わった人：19名、ユマニチュードを受講前から知っている人：6名、ユマニチュードの内容は知らないが聞いた事はある：11名、認知症患者の介護経験ない人：2名、受講後、認知症高齢者と関わる上で大切にしたいことには「見る・話す・触れることに注意し、意識が変わった」などがあつた。高校生を対象とした調査では、介入により老人イメージが肯定的な変化を示した人が多くいた。</p> <p>看取りのコミュニケーションの教育プログラムでの介入</p> <p>参加者13名、参加者が医療従事者が多く教育内容に関する評価は、肯定的な意見と否定的な意見があり、内容の検討が必要となつた。</p>
<h3>4. 研究成果の公表</h3>
<p>大学COC事業「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」第5回全域フォーラムにて発表した。</p>
<h3>5. 地域貢献の成果</h3>
<p>エンドオブライフケア援助士に2名が合格した。</p> <p>今後、地域で終末期を迎える人々および認知症患者は増加する事が予測されている。その中で、今回実施した教育は、認知症患者を理解する機会になつた。</p>

5) 浜田市と島根県立大学の共同研究成果報告会（平成 30 年 2 月 16 日開催）

本学では「浜田市との連携協力に関する協定書」に基づき、地域振興など浜田市の施策に有用なテーマについて浜田市と共同で研究をおこなっております。

本年度においては、平成 30 年 2 月 16 日（金）に浜田キャンパスを会場にして開催された、文部科学省 平成 29 年度「地(知)の拠点整備事業（大学 COC 事業）」成果報告会 第 5 回全域フォーラムの中のプログラムとして、平成 29 年度の研究成果報告会がおこなわれました。

当日の会場には、市民の皆様や行政関係者など、多数のご参加がありました。

なお、本年度の研究テーマは以下の 6 件です。

《本年度の研究テーマ》

- 産学官連携の新しいお土産の開発 ～浜田水産加工品「はまぼこ」～
島根県立大学 田中恭子 准教授（浜田キャンパス）
- 空き店舗を利用した島根県立大学サテライト教室及び様々な交流結節機能発見のための社会実験
島根県立大学 藤原真砂 教授（浜田キャンパス）
- 市内循環系統におけるフリー乗降区間設置による利用促進の提案
島根県立大学 西藤真一 准教授（浜田キャンパス）
- 地域ブランド米の販路拡大に向けた調査・研究
島根県立大学 豊田知世 講師（浜田キャンパス）
- 買い物タクシーの導入可能性に関する調査・研究
島根県立大学 松田善臣 准教授（浜田キャンパス）
- 浜田城下町ものがたり –幕藩体制下における外様・譜代・親藩大名・栄枯盛衰の 250 年–
島根県立大学 光延忠彦 教授（浜田キャンパス）



6) 益田市と島根県立大学の共同研究成果報告会（平成30年2月16日開催）

本学では「益田市との連携協力に関する協定書」に基づき、地域振興など益田市の施策に有用なテーマについて、益田市と共同で研究をおこなっております。

本年度においては、平成30年2月16日（金）に浜田キャンパスを会場にして開催された、文部科学省 平成29年度「地(知)の拠点整備事業（大学COC事業）」成果報告会第5回 全域フォーラムの中のプログラムとして、平成29年度の研究成果報告会がおこなわれました。当日発表された研究テーマは以下の3件です。

当日の会場には、市民の皆様や行政関係者など、多数のご参加がありました。

《本年度の研究テーマ》

○石見地域のビジネス利用の実態調査と利用促進に関するサーベイ

島根県立大学 西藤真一 准教授（浜田キャンパス）

○益田商店街の活性化の可能性について ～「地域資源を活用したまちづくり」からのアプローチ～

島根県立大学 久保田典男 准教授（浜田キャンパス）

○保小中連携による「ふるさと基盤教育」の実証研究

島根県立大学短期大学部 山下由紀恵 教授（松江キャンパス）



2.3 キャンパス合同学生ボランティア

1) 3 キャンパス合同学生ボランティア企画

平成 29 年 7 月 2 日に 3 キャンパス合同学生ボランティア交流会を浜田キャンパスにて開催しました。この交流会は浜田・出雲・松江の 3 キャンパスの学生が日頃行っているボランティアを相互に理解し合い、ボランティア活動によるつながりをつくることを目的に開催しています。この日は 3 キャンパスの学生 26 名、教職員 6 名の合計 32 名の参加があり、各キャンパスの活動報告や 3 キャンパス合同ボランティア活動の企画を学生主体の運営で進めました。

【午前の部】各キャンパスのボランティア活動紹介

午前はアイスブレイク（自己紹介）から始まり、キャンパスごとにそれぞれ特色のあるボランティア活動の報告がありました。

〈アイスブレイク〉



〈各キャンパスのボランティア活動紹介〉



▲浜田キャンパス



▲出雲キャンパス

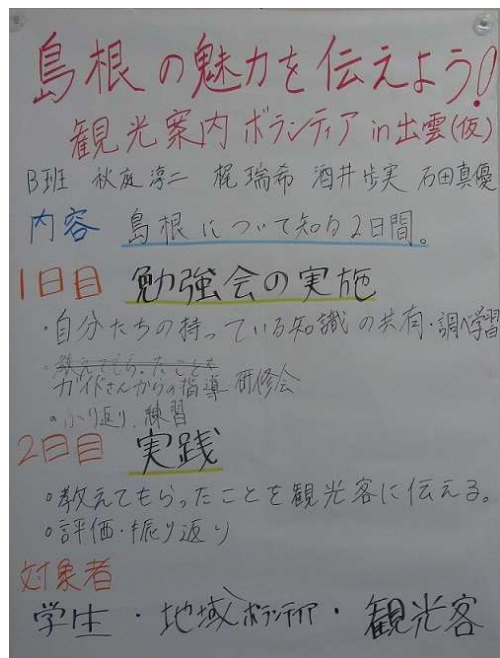
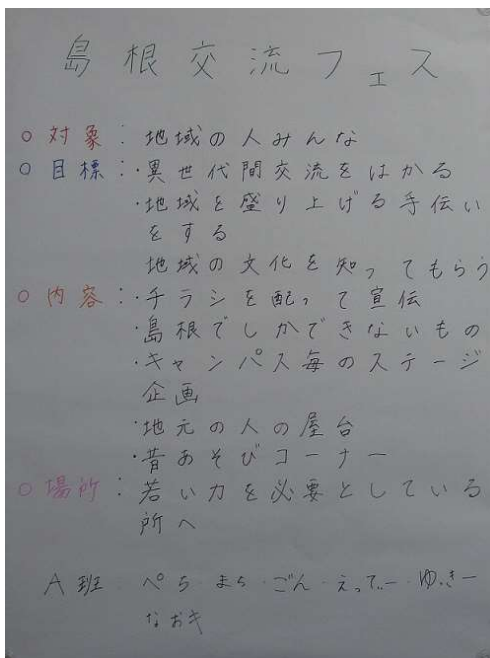


▲松江キャンパス▲

【午後の部】3キャンパス合同学生ボランティア活動の企画

昼食後、5グループに分かれて3キャンパス合同で行う学生ボランティア活動の企画をしました。各グループのプレゼン後、参加者全員で投票を行いました。

〈グループワーク・企画内容〉



しまねpedia ～3キャンパス合同ツアー～

島根のその地域だからできる事!

Cチーム

- 島根の抱える問題
 - 高齢者が多い
 - 人手不足・地域の活力低下
- 学生ができること
 - 学生のメンバーで活力を使い、地域に貢献
- 想定される地域
 - 江津本町 (石垣の草刈り)
 - 桜江町 (桑畑)
 - 匹見町 (ワサビ、ブルーベリー)
 - 宍粟 (ドジョウ、イチゴ)

学生も島根のこと(歴史、自然)を学ぶことができる

- テーマ ツアー
- 対象 3キャンパスの学生
- 目的
 - 島根を知ろう
 - 交流の場を設ける

Eチーム

浜田C 津田
栗田
松江C 山田
細田

ツアーの流れ

・2泊3日(13～15) (仮)

1日 浜田C 昼頃 松江C(着) 出雲C(着)

目的地 浜田Cアテンド ↓ 移動中クイズ

2日 出雲C 朝8:00頃(着) 10:00頃(着)

目的地 アテンド ↓ サンレイク in 出雲

3日 松江C 朝9:00(着) 9:30(着)

目的地 ワークショップ in 松江C

※クイズ、ツアーの感想理由、魅力再発見

★ツアー内容 & クイズは各キャンパス学生が考案!

＜ルール＞

- 浜田C → アテンド 出雲C → 出雲本社 松江C → 松江城 (徒歩で行く)
- 以下のキーワードを2つ取り入れた観光プランを考案。
- 学生がアテンド

＜動機＞

※自分が住む場所を話せるようにする必要もある。

↓

観光ツアーが最適(心)

〈みんな集まれ!いもほり交流会〉 in

①目的

↳ 3キャンパスでそれぞれで学んだことを実践しながら地域の方と交流すること。

②main idea

いもほり

↓

その場で調理

EX) やきいも、おいもご飯、大学いも

③参加者

- 留学生
- 学生
- 地域の子ども/高齢者

④各キャンパスの役割

松江

総合文化
保育、健康栄養

浜田

国際、地域
社会、北東
経済、アジア

出雲

看護

投票の結果、「みんな集まれ!いもほり交流会」に決定しました。最後に各キャンパスの代表を選出し、秋学期の実施に向け思いをひとつにしました。



2) 3 キャンパス合同学生ボランティア交流会

平成 29 年 11 月 18・19 日に 3 キャンパス合同学生ボランティア交流会を開催しました。この交流会はボランティア活動に取り組んでいる 3 キャンパスの学生が交流することで繋がりを深め、異なった活動視点を相互に理解し、学生ボランティアの質の向上を図ることを目指しています。

7 月の交流会以降、3 キャンパスの代表者が中心となり、企画を練ってきました。そして、浜田市社会福祉協議会の方、山里を活かす会の方にご協力いただき、浜田市内村町の美川公民館、浜田市鍋石町の下鍋石バス停付近にてボランティア活動することになりました。この 2 日間で 3 キャンパスの学生 17 名、教職員 6 名の合計 23 名の参加がありました。

・1 日目

この日は、翌日のイベントに向けての事前準備を行いました。初めに山里を活かす会代表の方から、団体の成り立ちや今回参加させていただくイベント「芋煮会」の趣旨を伺いました。その後 4 つのグループ（里芋汁・炊き込みご飯・里芋コロッケに使う食材の下ごしらえ、会場設営）に分かれ、山里を活かす会の方々とともに活動をさせていただきました。3 キャンパスの学生間の交流に加え、山里を活かす会の方々との作業を行う中で、学生自ら積極的に活動し、山里を活かす会の方々との交流を図る姿が印象的でした。

初日の活動終了後、浜田キャンパス交流センターに移動し、交流会を行いました。自己紹介、キャンパス紹介をとおして学生間の交流を図るとともに、2 日目の活動に向けての準備としました。



・2日目

この日は前日に下ごしらえをした食材の調理、イベント会場での販売やイベントの運営のお手伝いをさせていただきました。生憎の天気ではありましたが、山里を活かす会の方々とともに精力的に活動を行い、とても活気のあるイベントとなりました。たくさんの地域の方々がご来場くださり、学生の活動に対するねぎらいのお言葉を多数頂戴しました。

2日間のボランティア活動を通じて、地域で行われるイベントに興味を持つとともに、学生間の交流にとどまらず、地域の方々との交流も図ることができた良い機会となりました。



3. 学生災害ボランティア

1) 九州北部豪雨に伴う災害ボランティア活動 2017 記録

○災害ボランティアを振りかえって

総合政策部 1年 渡利 勇哉

私は平成29年8月8日から10日にかけて福岡県の朝倉市に災害ボランティアに行きました。福岡県朝倉市は7月上旬に九州北部を襲った豪雨により被害を受けた地域の一つでした。島根県からボランティア隊を派遣するというお話があり、是非参加したいと思いました。私が今回のこのボランティアに参加した動機は二つあります。

一つ目は、今まで経験したことがないことを経験したいという思いです。

二つ目は、同じ日本に住む人が大変な思いをしているのなら私も同じ日本人として災害復興に尽力したいという思いです。

この二つの思いを抱え実際に朝倉市を訪れました。しかしそこには自分の想像をはるかに絶する光景が広がっていました。家は土砂に埋もれ、道路は破壊され、畑には瓦礫の山が存在していました。自分は今までそのような光景を実際に見たことがなく、テレビで見ている光景をただ目の前にしているだけでその現地の人の生活など想像できませんでした。ただただ朝倉市に着いた時はその光景を眺めることしかできませんでした。

天候の関係もあり実際に復興作業を始めたのは最終日からでした。自分は家の中の土砂や瓦礫を出すことを任されました。その時初めて現地の人と触れ合いました。現地の人がかつて住んでいた自分の家をなんとか元の形に戻そうと中にあった土砂や瓦礫を外に出していました。あまり話す機会がなかったので心境などは聞けませんでした。ただ黙々と作業している姿からは一刻も早く今までの生活に戻りたいという思いが伝わってきました。

また現場には現地の人や自分たちだけでなく、日本各地からボランティア隊の人が駆け付け私たちと一緒に復興作業に取り掛かりました。みんなで手分けをして作業を行いました。すると想像よりも早く作業が終わりまた一つ復興に向けた歩目を踏み出せたかなと感じました。

私は今回のボランティアを通して学んだことが二つあります。一つ目は、人々の協力する精神の強さです。2011年の東日本大震災の時に「絆」という文字が世相に選ばれました。私は今回のこのボランティアでこの日本の絆をわずかながら感じる事ができました。正直そのような言葉はきれいごとには過ぎないという考えが私の中にありました。しかし、今回のボランティアで日本各地の人と協力し、作業をし、またお互い頑張っていこうという言葉

交わすことができました。その時に絆という文字の本当の姿を体験できたと思いました。日本は災害が非常に多い国です。つらいこともたくさんあるし、大変なことだってあると思います。そんな時こそ日本の絆を大切にし、みんなで励ましあって乗り越えていけたらいいと思います。またそれを私たちのような若い世代が率先して行い、日本人のこの絆スピリッツを継承していけたらいいなと思います。

二つ目は、当たり前で感謝することです。これはありきたりな言葉だし、きれいごとって感じる人も多いと思います。実際に自分も朝倉市に行くまでそのような言葉はよく耳にするけど実際に深く考えたことはありませんでした。しかし今回その当たり前がなくなった町に足を運び、もしこれが自分の住む町で起きたらと考えると当たり前で感謝しなければならないと強く強く感じました。普段友達と遊べること、家族と同じ席で食事ができること、帰る家があり、そこに家族がいること。すべてに感謝し、その時間を大切にしようと思います。おそらくこの考えを今の周りの人に伝えても聞いてくれる人はわずかだと思ふ。しかし自分は貴重な体験をした身としてこれをどんどん周りに伝えたいです。そしてもっと多くの人がこのような思いを持ってほしいと思います。一つの災害が何か大切なものを失うという出来事ではなく、人々に大切なものを見つけさせる出来事になるように、自分は周りの人にも後世にも自分の考えを伝えていきたいと思っています。

今私のこの思いを読んでいるあなた。あなたは当たり前で感謝できていますか？絆とかつながりという言葉がきれいごとと思いませんか？今もなお災害により苦しんでいる人はたくさんいるし、今後も絶えることはありません。そんな時ふと思ってください。同じ国に住む人を助けに行こうと。そうしたらまた何か今まで考えたことのないものを見つけることができると思います。

私はこれからも復興に向けて頑張る人々、地域を応援しに現地に行きたいと思っています。

Ⅱ. 各キャンパスの活動

《浜田キャンパス》

**平成 29 年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター浜田キャンパス運営会議 名簿**

(任期：平成 29. 4. 1～平成 30. 3. 31)

職 名	氏 名	備 考
教授	藤原 眞砂	・地域連携推進センター長
准教授	西藤 真一	・地域連携推進センター副センター長 ・事業推進検討会
教授	沖村 理史	・委員(教育支援検討会)
准教授	ヘネベリー・スティーブン	・委員(教育支援検討会)
講師	豊田 知世	・委員(教育支援検討会)
講師	村井 重樹	・委員(情報発信検討会)
講師	木村 秀史	・委員(研究企画検討会)
講師	李 憲	・委員(研究企画検討会)
地域連携課 課長	河部 安男	・委員
地域連携課 主任	石倉 義生	(任期：平成 29. 4. 1～平成 29. 5. 31)
地域連携課 主任主事	藤原 晃治	(任期：平成 29. 6. 1～平成 30. 3. 31)
地域連携課 主事	山本 麻央	
地域連携課 主事	慈地 秀昭	
地域連携 コーディネーター	吉田 隆博	
嘱託員	竹根 美雪	

浜田キャンパス：地域連携活動概要

地域連携推進センター副センター長 西藤 真一

本学では、平成 25 年度から文部科学省補助事業「地（知）の拠点整備事業」を実施して参りました。平成 29 年度は、当事業の最終年度に当たり、今後の継続実施の体制固めと評価の一年となりました。

浜田キャンパスの取り組みはおもに、①学生教育、②研究、③社会貢献の 3 つの柱から構成されています。まず教育関係では、すでに昨年の平成 28 年度から「しまね地域マイスター認定制度」の根幹となる科目が本格的に開講されています。認定制度を通して本学では地域に精通し、熱意をもって課題解決にあたることのできる人材を「しまね地域マイスター」と称する独自の称号を授与することにしていますが、その取得を目指す 1 期生に加え、2 期生の学生が、それにかかわる科目を履修するようになりました。そして、それぞれのゼミ（地域共生演習）で、地域課題をテーマとした本格的な調査・研究を開始しています。

学年が進行するにつれ、制度運用上で課題の見つかった制度を精緻化する作業も進めました。3 キャンパスの学生が学ぶ共通科目も、年度を追うごとに内容が充実し、継続実施の道筋がつけられました。それぞれのキャンパスで学ぶ専門分野をまたぐ取り組みは、実施の際の調整に苦勞する面もありますが、複雑化した社会課題解決のためには、複眼的な視野をもつ人材が不可欠です。

また、研究面でも地域が抱える課題に対して、教員の専門的な知見を活かした研究活動が数多く実施されました。ローカル地域にはデータそのものが存在しないことも多いですが、データの収集から地域と連携して取り組み、分析を経た政策提言を行う研究は、ますます必要とされてくるでしょう。これは研究を通じた社会貢献の側面もあり、引き続き研究力の向上に努めてまいります。

そのほかの社会貢献分野として、引き続き「3 キャンパス合同学生ボランティア交流会」が計画どおりに実施され、学生主導で安定的に運営がなされています。各キャンパスの専門分野や地域性を考慮したテーマが選択され、毎年特徴的なボランティア内容が企画、実践されています。

以上のように、学生自身が地域との関係から学ぶとともに、教員も社会貢献の側面も持つ研究の蓄積を重ねてまいります。文科省の補助事業は、これで一段落することにはなりますが、この 5 年間にわたって構築してきた制度や各種のノウハウは今後も継続してまいります。そして、得られた「知」の共有を幅広く展開できるよう、さらに取り組みを継続してまいります。

1) 学生の地域貢献活動

(1) 学生ボランティア活動（災害ボランティア以外）

学生の地域貢献活動のひとつとして地域でのボランティア活動に従事しています。以下活動依頼者からの感想の抜粋と活動の様子の写真、参加者の感想を紹介し、さらに今年度のボランティア活動の一覧を付します。

○2017 石州浜っ子春祭りにおける運営スタッフ（4月29日開催）

たくさんの学生に手伝っていただき大変助かりました。今後ともイベントスタッフとしてお手伝いいただければ幸いです。（依頼者からの感想）

今回のボランティアは浜田市での初めての活動でした。地域の方々とうまくふれあうことができるのか、心配ではありましたが、馴染むことができています。活気ある祭に参加できてよかったです。「(参加者：1年生 小川直城)

○益田市障害者福祉協会青壮年部夏季交流会（7月16日開催）

ボランティアに参加していただいたことで、夏季交流会を円滑に進めることができました。買い出し等の事前準備から会の進行、参加者とのコミュニケーションなど積極的にかかわっていただいたことで、例年にないほど和やかな交流会となりました。（依頼者からの感想）

島根県立万葉公園オートキャンプ場で行われた身体障がい者の方の夏季交流会のボランティアに参加しました。ひとくちに障がいといっても多くの種類があり、私は一度に多くの障がいを持つ方と接することがなかったので、日常的に手話を使っているかたにうまく伝えることが出来なかったり、車いすの段差など、気を使うことがたくさんあることを学びました。次回参加させていただくことがあれば、それまでに手話を覚えたいと思いました。（参加者：1年生 鈴木帆海）



石州浜っ子春祭り
(2017. 4. 29)



益田市障害者福祉協会青壮年部夏季交流会
(2017. 7. 16)

ボランティア活動の一覧

依頼団体	活動場所	活動日	内容	人数
大平桜まつり実行委員会	浜田市三隅町	H29. 4. 2	大平桜まつり	28名
浜田市役所	浜田市内	H29. 4. 8-9	新入生浜田探索ツアー	延べ6名
長沢1町内自治協議会	長沢神社	H29. 4. 23	長沢神社 春の例大祭	13名
浜田市観光協会	浜田市内	H29. 4. 29	運営スタッフ	20名
ひきみ田舎体験推進協議会	益田市匹見町	H29. 5. 3	匹見峡春祭り	4名
島根県立少年自然の家	同左	H29. 5. 13-14	オープンデー	10名
ゴーライズ	金城ウエスタンライディングパーク	H29. 5. 20	運営スタッフ	5名
益田市立匹見中学校	同左	H29. 6. 10	中学生との交流	6名
島根県赤十字血液センター	学内	H29. 6. 2	献血呼び込み	8名
日本二分脊椎症協会島根県支部	いわみーる	H29. 6. 25	託児	2名
益田市身体障害者福祉協会青壮年部	島根県立万葉公園	H29. 7. 16	夏季交流会	1名
浜田市立石見公民館	いわみっ子まつり	H29. 7. 23	企画・運営	延べ11名
さくらえプレーパーク実行委員会	江津市市山地域コミュニティ交流センター	H29. 7. 29	プレーリーダー	5名
株式会社 ISP	島根県立石見海浜公園	H29. 8. 1-3	いわみ自然学校スタッフ	12名
CAT's	海の見える文化公園	H29. 8. 5	イベント参加の子どもサポート	2名
益田市身体障害者福祉協会青壮年部	広島市	H29. 8. 19-20	交流旅事業随行	1名
浜田地区広域行政組合	浜田・江津	H29. 8. 8-10	浜田広域圏子ども交流事業	16名
浜田医療センター	浜田医療センター	H29. 10. 15	浜田駅北フェスタ	5名
BB 大鍋フェスティバル実行委員会	お魚センター周辺	H29. 11. 4	ゴミステーションにてゴミ回収	4名
ひきみ田舎体験推進協議会	益田市匹見町	H29. 11. 12	ロードレース	1名
島根県立体育館	県立体育館	H29. 11. 12	体操競技大会補助員	3名
ことばを育てる親の会	浜田市内	H29. 12. 2	クリスマス会	2名
浜田市教育委員会	浜田市内	H30. 1. 3	浜田市成人式	2名
安城地区まちづくり推進委員会	浜田市内	H30. 3. 28-30	「やさか塾」春合宿	3名

通年ボランティア

依頼団体	活動場所	活動日	内容
浜田市教育委員会	中央図書館	指定土曜日	中学生の学習支援（マナビィはまだ）
かなぎシェアハウス	公民館/よりあい会館/金城支所	指定土曜日	中学校の学習支援（金城学習会）
オレンジカフェはまだ	ひだまりふっくら	第1木/第3土曜日	認知症本人、その家族との交流。
島根県地域若者サポートステーション	いわみーる	指定月曜日	スポーツでのコミュニケーションプログラムの手伝い
てらこ屋	雲雀ヶ丘小学校	指定金曜日	体操教室での指導補助
浜田市教育委員会	勤労青少年ホーム	不定期	不登校や行きしぶりの状態の子どもを対象とした居場所での支援員

(2) ボランティア・ポイント抽選会

平成 30 年 2 月 14 日に、学生会館（カフェテリア）2 階にてボランティア・ポイント抽選会を開催しました。抽選では、ポイント引き換えを行なった 1,780 枚の抽選券で賞品の抽選を行い、学外活動にも役立つ「旅行券」、浜田市内各所で利用できる「浜田市共通商品券」、石見地域の美味しいものをいただける「石見の選べるうまいもんセット」、浜田市での活動範囲を広げてくれる「石見交通バスカード」、浜田の魅力体験できる「アクアス入場券」「アイススケート滑走・貸靴チケット」「きんた農園ベリーネいちご狩り入園チケット」などの賞品が当選した学生に授与されました。



(3)地連 Café（ボランティア交流会）

○第21回 地連 Café OPEN！（平成29年5月10日）

浜田キャンパスカフェテリア2階にて、第21回地連カフェが開催されました。今年度はじめて開催される地連カフェだったため、主に1年生を対象として実施されました。サークル・団体が行っている地域活動についての報告や、ゲストをお招きして活動支援事業の紹介を行って頂きました。約30名の参加者が訪れて、充実した時間を共有できました。

【平成29年度学生地域活動支援】

- ・島根県西部県民センター 渡部景子さん
- ・2年 徳竹千春さん（地域密着てごねっと代表）

【ボランティア活動報告】

- ・2年 家迫秀和さん（すこっぷ代表）

○第22回 地連 Café OPEN！（平成29年10月18日）

浜田キャンパスメディアセンター1階ラーニングコモンズにて、第22回地連カフェが開催されました。今回の地連カフェでは、地域の方をお招きして、春学期に行ったボランティア活動の報告が行われました。当日は学生と一般の方約20名にご参加いただきました。

【ボランティア活動報告】

- ・4年 竹本健二郎さん 『広域圏こども交流事業について』
- ・3年 橋本賢大さん 『Let's connect in HAMADAについて』
- ・3年 中村圭佑さん 『こころのかけ橋について』

○第23回 地連 Café OPEN！ ボランティア回数上位表彰（平成30年2月14日）

今年度最後の地連 Café では、平成29年4月～平成29年12月までのボランティア回数の上位者11名を表彰し賞状と記念品を贈呈しました。上位者は以下のとおりです。

1位	中野 杏子（2年）	7位	小川 直城（1年）
2位	春若 美咲（2年）	8位	梶 瑞希（2年）
3位	伊藤 璃子（1年）	9位	余 夢秋（院生1年）
	壺内 洸希（4年）	10位	中村 圭佑（3年）
5位	小林 研太（3年）		河野 柊佑（4年）
6位	川田 芽生（2年）		

2) 地域に関する教育・研究活動

(1) 地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会

平成30年2月14日（水）に、浜田キャンパスにおいて、「第15回地域振興に関する提言を含む優秀卒業研究・論文の発表会」が開催されました。今年度は7名の学生が奨励賞を受賞し、清原学長から表彰されました。

このうち、最優秀賞、浜田市長賞に「学生による地域活動の継続性確保について ～LB-1グランプリを事例として～」を研究内容とした秋田明以莉さんが選ばれ、久保田章市市長から賞状と記念品が授与されました。

発表会の後半では、奨励賞を受賞した中から、4名が自ら得た知見と研究をしてきた内容について発表をしました。

奨励賞受賞者の研究内容は、ポスターにまとめられ、会場前で併せて紹介されました。学生、教職員を含めた大学関係者、市民の方々合わせて50名の参加があり、多くの活発な質疑応答が行われました。



氏名	卒業研究・論文タイトル
秋田 明以莉※	学生による地域活動の継続性確保について ～LB-1 グランプリを事例として～
加藤 嵩	地域の持続的発展に向けた地域資源の利活用について —益田地域、浜田地域、江津地域におけるまちづくりに注目して—
小瀧 真由	「石見神楽で浜田を盛り上げる—広島県の事例を参考にして」
新立 航也	JR 三江線の廃止決定が沿線住民に与える影響に関する研究
高橋 健太※	島根県仁多郡奥出雲町における雇用創出策と U・I ターン促進策の関連性
廣井 修平※	主要な観光地を持たない都市の観光と二次交通の整備のあり方 —浜田市における観光タクシー検討の取り組みを例に—
淀渚 史織※	旭町における地域コミュニティと刑務所のかかわりについて

※：当日の発表者

(2) フレッシュマン・フィールド・セミナー

フレッシュマン・フィールド・セミナーは、社会のさまざまな現場（フィールド）に出かけていき、そこでフィールドにおられる人々への調査を通じて課題を発見し、課題の解決策を提案するセミナーである。入学初年次から地域のさまざまな人と接し、自らの学修目的を明確化することで、自らが望んだ職業に就く能力を学生に身につけさせることを目的としている。

このセミナーは、1) 事前学習、2) フィールド調査、3) 調査結果分析、4) 課題解決策の提案、5) 成果発表、の5つのプロセスで構成されている。各セミナーの実施回数にもよるが、概ね10～13回を教室で行い、島根県内・浜田市・近隣地域に出向いてのフィールド調査を2～5回ほど実施する。春学期に実施されるフレッシュマン・スキル・セミナーで学んだアカデミック・スキルを活用しながら、課題発見と課題解決能力を身につけ、2年次から始まる専門教育への橋渡しをするセミナーでもある。また、グループ学習を実施するセミナーの場合、受講生は少人数のグループを組み、協同作業による自発的で能動的な学びを実践する。

平成30年1月25日には、このセミナーの最終プロセスである「フレッシュマン・フィールド・セミナー合同成果発表会」が開催された。はじめに大講義室2で、ゼミ単位で順番に1分間ずつの概要説明をおこなったのち、全15ゼミが各演習室に分かれて成果をポスターセッション形式で報告した。

来場者には評価シートを配付し、各ゼミのポスター等の掲出物、プレゼンテーション、研究の内容等について、3つのゼミに対する評価を記入していただいた。

この発表会には学生・教職員はもとより、取材・調査先関係、一般市民、報道関係の皆さんなどの来場もあった。



▲フィールドワークの様子



▲合同成果発表会の様子

平成 29 年度 フレッシュマン・フィールド・セミナー 授業概要一覧

クラス	テーマ・概要等	フィールド
井上(厚)ゼミ	<p>【「多様性」について考える】</p> <p>地方都市が今後生き残るためには、外部から来た人間との共生が不可欠な時代になっている。積極的に外に出て、大学の外に広がる「多様性」を学んでおきたい。具体的には、①東京からIターンした若者で活気づく津和野町のNPOとの交流、②広島市内でカンボジア料理店を営むカンボジア難民サルーンさんとの意見交換会を通して、リアルな「他者」との共生について学んでいきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県津和野町 ・広島県広島市
瓜生ゼミ	<p>【浜田の未来を探る～IT発信は、地域をどう変える!?～(仮題)】</p> <p>(株)e-Front 島根支社さんは【「旅行」「教育」の領域でイノベーションを起こす!】をテーマに、「旅行業務総合支援システム」の開発や「浜田商業高校IT人材育成事業」「スマホアプリ デザインコンテスト」などを通して、「イノベーション」をテクノロジーで加速させる「コミュニティ」作りを目指している。「旅行」の分野では海外からの観光客と「地元観光協会」「旅行会社」「旅行代理店」等をシステムティックに結合させる「訪日旅行商品販売サービス=Dokodemo Tourism」などを展開し、「教育」の分野では「遠隔教育支援サービス」で「学ぶ側=生徒」と「教える側=講師・塾」に「保護者」や「地域」をも巻き込んだ総合的なシステム・サービスをプランニングするなど、IT技術を駆使したサービス展開を行う企業として注目されている。この『ITを地域に活かす』試みの活動内容を把握すると共に、その将来性にも着目してみたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(株) e-Front 島根支社
川中ゼミ	<p>2004年に犯罪被害者等基本法が成立し、犯罪被害者支援はより良いものへと変化しつつあると言われている。しかし、被害者支援がどのように行われているのかということ、当事者以外にはあまり知られておらず、現在の在の被害者支援には多くの課題がある。犯罪が起こると、被害者や家族の方々が周囲の人の言動や行動でさらに傷つくことが多々あるようだ。これは、犯罪が起こると、マスコミも支援者も自分の立場を優先させてしまい、被害者の気持ちや状況に思いを及ぼすことが出来なくなってしまうからだろう。そのような中で、犯罪被害者やその家族の方々の中には、犯罪を少しでも減らしたり犯罪被害者支援システムを築くために、社会に向けてご自身の体験やお考えを発信し続けている方が少なくない。そこで、本ゼミナールでは、犯罪被害者やその家族の方々のお話を伺ったり、ミニいのちのメッセージ展への協力や見学をすることで、犯罪被害者支援に実際とその課題を知り、犯罪被害者中心の支援について考えていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・江角弘道様、由利子様 ・三浦由美子様 ・市原千代子様(於: 島根県立浜田高等学校) ・ミニいのちのメッセージ展(於: 島根県民会館)
久保田ゼミ	<p>日本では、全企業の99%を中小企業が占め、全従業員の約70%が中小企業に勤務するなど、中小企業はわが国経済の活力の源泉であり、地域経済を支える大きな存在である。本ゼミナールでは、島根県を代表する漁業者である株式会社浜田あけぼの水産を調査対象として取り上げる。株式会社浜田あけぼの水産は浜田漁港において複数の船団を有する唯一の事業者で、地域では最大規模の沖合底引網漁業者である。また、同社は1924年に創業し、水産物缶詰加工、石州瓦の製造・販売、冷凍倉庫事業などを行っていた株式会社室崎商店が中核事業である漁業を同社に事業譲渡で事業再生させたことよって誕生した経緯があり、地域企業の事業再生の観点からも注目される企業である。本ゼミナールでは同社の取組を調査することを通じて、企業を調査するうえでの手法を学ぶとともに、企業の抱える課題やその解決策、企業の事業展開の取組みについて学ぶことを目的とする。調査対象企業の事業所の見学や関係者へのインタビューを通じて、同社の強みや課題、今後の方向性などを考察し、最終的にその成果を学内や関係者に向けて発表を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)浜田あけぼの水産
齋藤ゼミ	<p>昨今の日本の高齢者福祉施策の大きな流れとして、「地域ケアシステム」の強調があります。これは、公助(自治体による高齢者福祉事業)や共助(介護保険制度などの社会保険サービス)だけでなく、互助(高齢者同士の支え合い、ボランティア)、自助(高齢者の健康管理)によって、高齢者福祉を支えていこうという考えです。本セミナーでは、「地域における高齢者福祉の現状と課題」をテーマに、全国的にも高齢化が進む浜田市で「地域ケアシステム」がどのように実践されるのかをフィールドワークを通じて考えていきます。具体的には、公助の主体である自治体と公助・互助・共助・自助すべてにかかわる社会福祉協議会へのインタビュー調査、高齢者の互助の場である高齢者サロンへの参与観察調査を実施します。フィールドワークを通じて、それぞれの視点からみえてくる地域ケアシステムの課題を明らかにし、今後の地域の高齢者福祉の可能性を検討します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市健康長寿課 ・浜田市社会福祉協議会 ・浜田市内の高齢者サロン(和泉サロン、ほがらか会、松原笑えみ会)
田中ゼミ	<p>地元から常に信頼されるリーダー企業として、酪農業を今なお成長させ続ける松永牧場の地域循環型農業モデルおよび食の安全への取り組み、6次産業化事業につきヒアリング調査を実施し、関連企業との連携を通じて松永牧場が提供する顧客価値と、これを実現させている事業の仕組みについて考えることを目的としています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)松永牧場、楓ジェラート
豊田ゼミ	<p>島根県西部(石見地方)には、地元の人も知らないとても素敵な地域資源があります。この授業では隠れた地域資源の一つ「石州犬」を取り上げ、事前学習、現地視察、文献調査、アンケート調査を実施し、石州犬の価値について調査しながら、地域資源の利活用について地元の方と一緒に考えることを目的とします。日本には、現在6犬種が国の天然記念物として認定されています。大型の秋田犬、中型の甲斐犬、紀州犬、四国犬、北海道犬、そして小型の柴犬ですが、柴犬だけ地名がありません。しかし、この柴犬のルーツを遡ると、一頭の雄犬にたどり着きま</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本犬保存会島根支部 ・石州犬研究室

	す。その犬こそ、石見地方に生息していた「石州犬の石(いし)」です。いま、柴犬のルーツはこの地域にあるのではないかと、誰がどのように日本全国にまで広げていったのだろうか、といった研究が始まったところです。FFS では、地域資源としての「石州犬」の価値を評価するとともに、認知度を上げるための具体的な取り組みについて、石州犬研究室や日本犬保存会の方々と一緒に考えていきたいと思ひます。	
林ゼミ	【地場産業としての地酒・食文化としての日本酒の振興】 地酒(日本酒)は、それぞれの地域の地場産業であり、地域文化とも密接に関係していると考えられる。その日本酒は、近年、世界的に注目されているにもかかわらず、日本国内ではさまざまな理由で需要が伸び悩んでいるのもまた事実である。この授業では、酒蔵や酒類販売業者などを訪問し、見学や聞き取り調査などをおしてそれぞれの現状や課題を学び、地場産業としての地酒、食文化としての日本酒の振興について考える。また、受講者のほとんどが未成年であることを想定し、適正飲酒の啓発や酒税の理解についても意識して授業を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・酒舗いたもと ・株式会社桑原酒場 ・日本海酒造株式会社 ・株式会社右田本店
福原・佐藤 合同ゼミ	本ゼミは、福原教授と佐藤准教授が合同実施し、「戦争・戦時の記憶と体験」および「北東アジアの人びととの交流と共生」をテーマとする。今年度は、①戦中・戦後を生きた在日コリアンと日本社会および島根県内地域との関わり、②出雲市在住の日系ブラジル人と地域社会について現地調査をおこなった。本ゼミの受講生は、外国籍・外国にルーツを持つ住民が日本社会の少数派であるがゆえに直面する困難や社会的障壁、差別の実態を把握し、その歴史的背景について理解を深め、多様な文化的ルーツを尊重し合う共生のあり方を考察した。	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲市国際交流室 ・出雲市社会福祉センター日本語教室 ・都茂丸山銅山跡 ・千原取水堰堤 ・澄川発電所
藤原ゼミ	紺屋町空き店舗を利用し、アイデアを練り、起業し、サービスの立ち上げ過程を経験する。創意工夫する喜びと苦しみを体験する。学生の地域に対する貢献のあり方を学ぶ。また学問的にはコミュニティアクション研究の分析枠組み中で、行動を分析し、社会科学のあり方を学ぶ。そこでは目標達成、目標の正当化、資源の動員などの過程を意識しながら実験を実施する。	・浜田市紺屋町
別枝ゼミ	「ふるさと納税」(浜田市では「ふるさと寄付」とは納税額の一部を好みの自治体に納めると減税措置を受けられる仕組みです。話題になったのは、自分の自治体を「寄付先」に選んでもらおうと、各自治体が寄付をした納税者にさまざまな「返礼品」を贈るからです。浜田市は2015年に約21億円、2016年は約15億円の「納税」を集めました。浜田市は3年連続全国のベスト10にランク入りしています。カタログの中から納税者が希望で選べる返礼品で人気を集めたのは、浜田産のノドグロや島根和牛などでした。昨年度は返礼品業者のヒアリングを中心に、浜田市に対しては納税者(合計で15万人程度)に対して毎年2回程度の印刷物(ふるさと納税だより)を郵送し、その中で浜田及び近隣の観光案内を行う。また「はまだ応援団」への勧誘を行うことなどを提言しました。今年度は、これまで浜田に寄せられたふるさと寄付がどのような使われ方をしたかを点検し、今後の望ましい使途を浜田市に対して提案しようと考えています。	・浜田市
光延ゼミ	2016年7月の参議院選挙から18歳以上の若者も選挙に参加できるようになった。これに伴って全国で240万人もの新有権者が誕生した。この意味で2016年は、政治参加の制度が大きく前進した歴史的な年(メモリアルイヤー)にもなった。しかし、この選挙での新有権者の投票率は期待されたほど高くはなかった。従来、非都市部が高く都市部が低い、通説的な若者の投票傾向とは逆に、非都市部の方が低く、しかも、19歳の投票率は20歳以上に比べても全国的に低かった。そこで、このクラスでは、政治参加の拡大を目指した制度と、新有権者の投票選択との間に潜む、地域社会における「選択のジレンマ」について、選挙を実施した行政機関とそれを報道したメディアを対象に、近年、政治学などで注目を浴びている因果関係推論を意識して考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・広島県議会 ・中国新聞社 ・岡山県議会 ・岡山市 ・倉敷市 ・広島市
山本ゼミ	今日、ロシアの国際社会における存在感は、誰にとっても無視しえないものになりつつある。日本はロシアの隣国であり、領土をめぐる対立もある。しかし、他方では経済を中心に極東ロシアとの発展させている地域がある。島根県もその一つである。本セミナーでは、島根県におけるロシアの存在感を見つめ、島根県とロシアの関係の実情を理解し、問題点を発見する。さらにはその解決策について考え、提案することを目指す。そのために、実際に浜田市役所、浜田港湾振興センター、(株)エル・アイ・ビー等を調査する。また、その過程で、研究の基本的な方法を学ぶとともに、地方自治体も国際社会の重要なアクターであることを実感していただく。	<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市役所 ・浜田港湾振興センター ・(株)エル・アイ・ビー
渡部ゼミ	このセミナーのフィールドは津和野町です。津和野町は島根県の西部、山口県との県境に位置する山間の小さな都市ですが、古い町並みを残す「小京都」として知られ、県内有数の観光地となっています。このセミナーの目標は、津和野町における歴史を活かしたまちづくりの取組みを調査し、課題を発見し、解決策を提案することです。津和野町は交通の便が必ずしもよくなく、観光客の減少や過疎化などさまざまな課題を抱えています。しかし昨年、津和野町は文化庁によって日本遺産に指定されました。町はこれを好機に、歴史的な文化財を活用した観光振興にこれまで以上に力を入れようとしています。このセミナーでは、3回の現地調査を行い、現場の観察と、まちづくりに携わっている人びとへの聞き取り調査を通じて観光振興のための真の課題はどこにあるかを考え、津和野町の町づくりに役立つ提言を考えてもらいます。	・津和野町

(クラスは五十音順)

(3) 浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会と島根県立大学の共同研究成果報告会（浜田キャンパスのみ）（平成30年2月16日開催）

平成30年2月16日（金）に浜田キャンパスを会場にして開催された、文部科学省平成29年度「地(知)の拠点整備事業（大学COC事業）」成果報告会 第5回全域フォーラムの中のプログラムとして、浜田市と邑南町との「食」を通じた観光・文化交流協議会と島根県立大学の共同研究成果報告会がおこなわれました。

当日の会場には、市民の皆様や行政関係者など、多数のご参加がありました。

なお、研究テーマは以下のとおりです。

《研究テーマ》

○特色ある浜田と邑南の食の提供 次世代へ繋ぐ郷土料理「日常に融合した郷土料理の伝え方」 ～子育て世代へのニーズ調査～

島根県立大学 田中恭子 准教授（浜田キャンパス）



3) 地域から／地域への応援・情報発信

(1) 公開講座

浜田キャンパスでは、地域に開かれた大学として地域の方々の知的好奇心に応えるため、毎年度公開講座を開催しています。

表：平成 29 年度公開講座 受講者数一覧

No.	テーマ カテゴリ	講師	所属	講座名	日時	受講者数	平均	
1	学校では 教えて くれない ○○の 世界	大森智彦・大森由紀	株式会社 オレンジハーモニー 代表取締役	石見にトランして実現した夫婦の夢 ～本気の思いと人との繋がりが生んだ事業のお話～	5月10日	16	50	
2		中根光敏	広島修道大学 教授	魅惑のコーヒー文化	5月24日	28		
3		和田裕子	株式会社necco 代表取締役	島根発！スイミー作戦 繋いで魅せるクラシゴト	6月7日	133		
4		陳幼竹	島根県立大学北東アジア地域研究センター 非常勤研究員	浜田市の侵入種(植物)とその影響	6月21日	22		
5	浜田 キャンパス 国際 ターミナル ～優先 搭乗の ご案内～	ナタリア・ボルホドールエワ	島根県国際交流員	遠くて近い国、ロシア	5月24日	25	31	
6		ニユン グエン ティー ゴク	浜田市国際交流員	ベトナムの魅力	6月21日	39		
7		于清	浜田市国際交流員	中国を旅する	7月19日	34		
8		パメラ・スリヤチャイ	浜田市国際交流員	アメリカを旅する	12月13日	27		
9	聴いて 得する！ 大学 教員の "ちょっと ココだけ" の話	福原裕二	本学浜田キャンパス教員	朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の現在	5月17日	49	27	
10		岡本寛	本学浜田キャンパス教員	立憲政体と議院内閣制—統治システムから診る日本憲法	5月31日	27		
11		松尾哲也	本学浜田キャンパス教員	公共哲学とは何か？	6月14日	20		
12		久保田典男	本学浜田キャンパス教員	中小企業のマネジメント面の診断 ～フレッシュマン・フィールド・セミナーの取組から～	6月28日	20		
13		村井洋	本学名誉教授	あの人と和歌する・あの国と和歌する	11月1日	21		
14		ケイン・エレナ・アン	本学浜田キャンパス教員	中国人の姓とその由来	7月12日	25		
15		瓜生忠久	本学浜田キャンパス教員	イギリスの児童文学：ロアル・ダールの人生と作品	7月19日	27		
16		松尾哲也	本学浜田キャンパス教員	マス・コミ報道とSNSに観る「反・知性」主義への対応 ～無関心層拡大傾向への懸念～	9月27日	19		
17		張忠任	本学浜田キャンパス教員	政治哲学と生活世界	10月4日	19		
18		木村秀史	本学浜田キャンパス教員	ゼロからわかる資産運用入門 シーズン2	10月11日	20		
19		藤原真砂	本学浜田キャンパス教員	時間でみる人の一生	10月25日	26		
20		西藤真一	本学浜田キャンパス教員	だまされないための経済学	12月22日	31		
21		松田善臣	本学浜田キャンパス教員	だまされないための統計学	11月15日	29		
22		八田典子	本学浜田キャンパス教員	文化的地域資源を活かした個性豊かな「まちづくり」 —「芸術」と「景観」の魅力に注目して—	11月22日	21		
23		井上治	本学浜田キャンパス教員	「元寇」を探索する (全3回)	・第1回「元寇と山陰」 (井上治)	11月29日		38
24		井上厚史	本学浜田キャンパス教員		・第2回「歴史書に記された元寇」 (井上厚史)	12月6日		35
25		石田徹	本学浜田キャンパス教員		・第3回「対馬宗家文庫史料に見る元寇」 (石田徹)	12月13日		30

受講者数 計781人(1講座あたり31名)

平成 29 年度は 25 回の講座が開講され、延べ 781 名の参加者を得ました。前年の参加者は 30 回、1,502 人だったため、参加者が減少しています。最も出席者が多かった講座は、和田裕子氏(株式会社 necco 代表取締役)による「島根発！スイミー作戦 繋いで魅せるクラシゴト」で 133 名の参加がありました。次いで、福原裕二(本学浜田キャンパス教員)による「朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の現在」であり、参加者は 49 名でした。

また、学生によるゼミ研究報告を市民向けに公開する学生研究発表会を秋学期に行い、田中恭子ゼミ、豊田知世ゼミが報告しました。

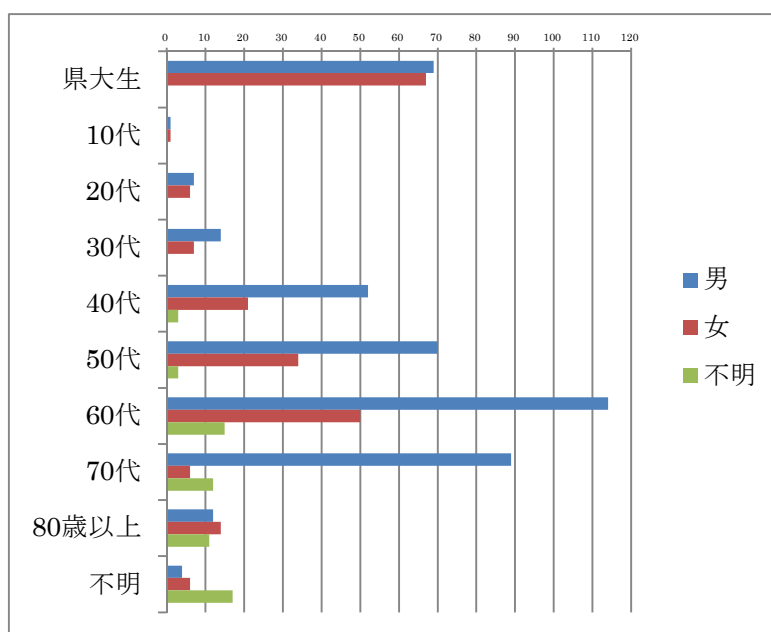
受講者には、できる限りアンケートに回答していただくことにしています。その結果について、以下、概要を報告します。

表：アンケートに回答した段階での参加回数

1回目	227名
2回目	89名
3回目	62名
4回目	34名
5回以上	145名
不明	148名
合計	705名

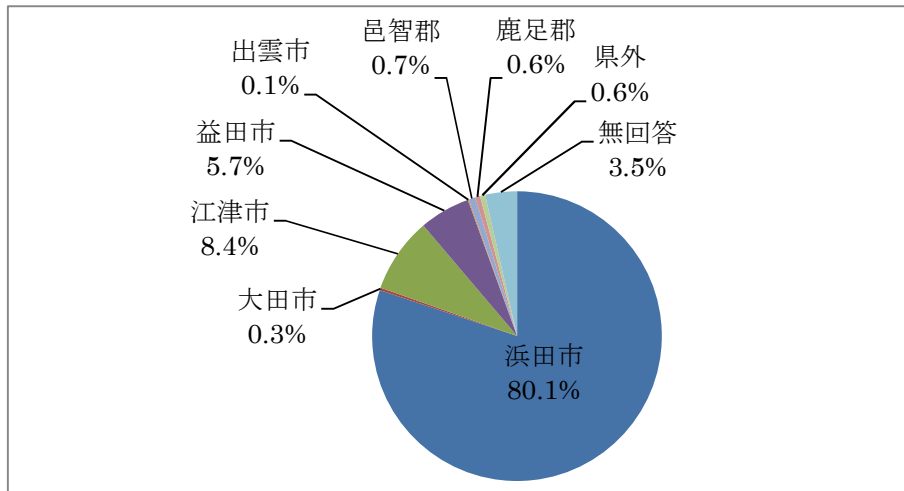
公開講座のリピーター獲得は重要です。この点について、上の表で示される参加者数を確認すると、複数回参加している受講者も比較的多くなっています。

図：回答者の年齢と性別（単位：人）



回答者（出席者）の年齢層は本学学生を除き、比較的中高齢者に偏っています。受講者の掘り起しが必要であると考えています。

図：回答者の居住地 (N=705)



回答者（受講者）のほとんどは浜田市内に在住する方々です。昨年度よりも隣接する益田市在住者の参加者が増えましたが、それでも 8 割以上が浜田市の在住者である事から、浜田市内からの参加者を探る必要があると考えています。

表：公開講座会員登録の有無

有	355 名
無	304 名
不明	46 名

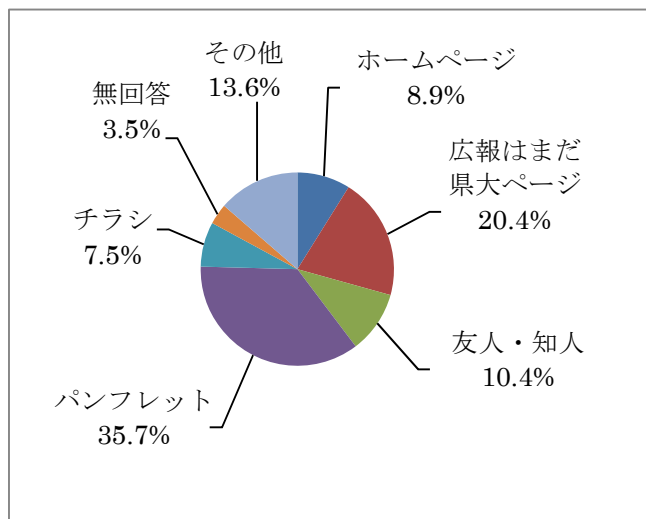
昨年度、公開講座会員登録者は 209 人でしたが、今年度は 213 人に増加しました。なお、公開講座参加者の内、公開講座会員は 50%となっています。

表：公開講座に出席する理由

① 知識を深めたいから	424 名
② このテーマについて勉強をしているから	71 名
③ 知識を獲得し、仕事や地域活動に活かしたい	92 名
④ 生涯学習として関心があったから	123 名
⑤ 講師(またはゼミ活動)に関心があったから	94 名
⑥ 大学主催の行事だから	95 名
⑦ 交友関係を広げたいから	71 名
⑧ 公開講座に出席することが楽しいから	78 名
⑨ その他	40 名

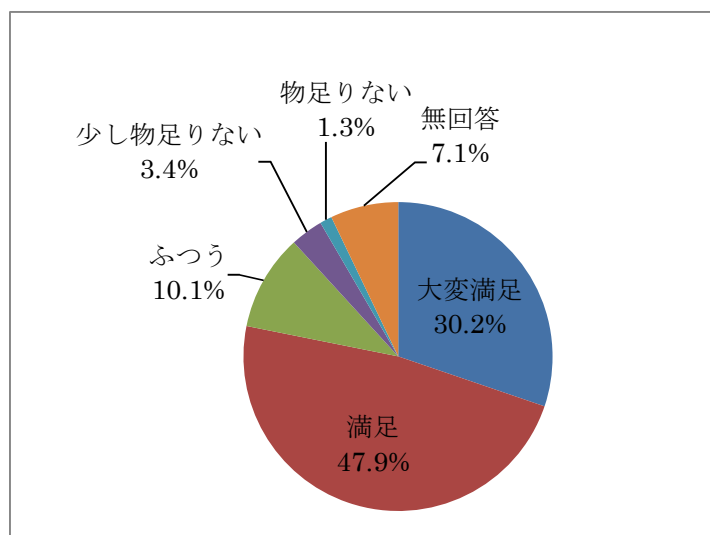
公開講座への参加理由は、「知識を深めたいから」という項目が最も高く、「生涯学習として関心があったから」、という項目が続きました。昨年度と比べると、特に「交友関係を広げたいから」という理由による参加者が増加しています。

図：公開講座を知った経緯 (N=829)



公開講座を知った経緯は、「広報はまだ」「パンフレット」と回答する方が 56.1%に上り、ホームページ等電子媒体を通じて情報を得る人は少なくなっています (8.9%)。これは受講者が比較的中高齢者に偏っていることも一つの要因であると考えられます。

図：公開講座の満足度 (N=705)



公開講座に出席する人の満足度は、「大変満足」「満足」と答えた方が 78.1%にのびりました。このことから概ね、公開講座の内容は参加者の皆様に好評を得たとの判断をしています。

(2) 学生研究発表会

○第8回学生研究発表会

平成30年2月16日、浜田キャンパスにおいて、学生研究発表会が開催されました。本発表会は、本学「大学COC事業」における、浜田キャンパス「キャンパス・プラットフォーム」の研究発表の場のひとつとして位置づけられており、今回は、平成29年度の成果報告となる「第5回全域フォーラム」のプログラムの一つとして開催いたしました。

本発表会を通じて、学内での学生の研究成果を地域の方々へ報告する機会を設け、より広く地域市民の皆さまに知っていただくと同時に、地域の皆さまからの質問やアドバイスを受けつけることによる学生の教育への効果も期待しています。今回は、田中恭子准教授のゼミから1組、豊田知世講師のゼミから1組の報告がありました。



テーマ：

- 1) 「産学官連携の新しいお土産の開発 ～浜田水産加工品「はまぼこ」～」
島根県立大学 田中恭子 准教授 (浜田キャンパス)
- 2) 「柴犬のルーツを探る：島根県石見地域の隠れた地域資源とその可能性」
島根県立大学 豊田知世 講師 (浜田キャンパス)

(3) 大学生による小中学校学習支援事業の取り組み

大学生による小中学校学習支援事業は、浜田市内の小中学校に学生（学習支援員）を派遣し、週1～2回程度、放課後の補習時間に学習指導を実施する事業となっている。この事業は島根県立大学と浜田市との連携協力協定（平成19年5月18日締結）に基づき、学力向上を目的として平成19年度から中学生を対象として開始し、平成24年度からは小学生も対象に含め、実施している。平成29年度は小学校6校、中学校6校の計12校が参加し、延べ566名の学生が従事した。

平成29年度派遣先	
浜田市立第一中学校	浜田市立松原小学校
浜田市立第二中学校	浜田市立石見小学校
浜田市立第三中学校	浜田市立原井小学校
浜田市立東中学校	浜田市立雲城小学校
浜田市立金城中学校	浜田市立今福小学校
浜田市立三隅中学校	浜田市立旭小学校



(4) 匹見中学校学習等支援

総合政策学部 2年 津田 智子

6月10日に私を含む2～4年生の6名で匹見中学校の生徒と交流しました。

まず匹見中学校に到着したら、生徒と大学生がお互いに自己紹介をしました。この時、みんな緊張をしている様子でした。

そして、匹見中学校には2つの部活動があります。陸上部と総合文化部です。私たちは2つに分かれ、匹見中の生徒たちと交流しました。

私は総合文化部の方で交流活動を行いました。総合文化部では、箏を演奏します。始めに、総合文化部の生徒たちに今練習している曲を披露してくれました。この演奏をするにあたってとても緊張している様子でしたが、一生懸命楽しそうに演奏する姿はとても可愛く、美しい箏の音色に感動しました。その後、大学生を含めて「ふるさと」を演奏するために箏の弾き方や曲について教えてくれました。とても上手に弾くことはできませんでしたが、優しく笑顔で教えてくれた生徒たちのおかげで、凄く素敵な演奏ができました。

また、「ふるさと」をみんなで演奏した後、総合文化部の生徒たちとお話をたくさんしました。普段の学校生活や趣味、友達、勉強、これからの高校生活はどうするのかなど話題が尽きず、本当に楽しい交流ができました。

陸上部の方では、私たちが箏を弾いているとき、すごく元気な声が運動場からたくさん聞こえてきました。この日はとても良い天気で、最後のみんなが集まる時陸上部の生徒たちはいい汗をかいていて、見ていて気持ちよかったです。

交流が終わり、最後の挨拶をするときには、はじめの緊張していた様子も無くなり、みんな打ち解けて笑顔がたくさんありました。

私はこのような素敵で心が温まる交流ができて、すごく嬉しかったです。交流事業を行う前、私は上手くコミュニケーションがとれるか不安でした。しかし、匹見中学校の生徒は気さくで優しい子ばかりでした。そのため、色々お話をしていく中でコミュニケーションを楽しむ自分がいました。匹見中学校の生徒たちもお互いのことが知れることで打ち解け、楽しんでくれたと思います。また、このような中学生と大学生が交流できる事業というのは、多くはありません。だから、この貴重な機会がこれからもあるのならばまた参加したいし、これからも続けてほしいです。

(5) 中学生の島根県立大学訪問

○益田市立匹見中学校との交流事業

平成 29 年 6 月 19 日(月)、益田市立匹見中学校の 2 年生 8 名が浜田キャンパスを訪問し、以前より交流のあった本学ソフトボール部の学生と交流を行いました。

【ランチ交流】

はじめに匹見中学生とソフトボール部の学生と一緒に昼食。自分の好きなメニューの食券を購入し、談笑しながらのランチタイムを楽しみました。



【学生発表・意見交換】

ランチのあとはソフトボール部の川本晃太さんと森裕康さんが大学生活についてお話をしました。授業の合間に多くの自由時間があり、自分でやりたいことを見つけて勉強やサークル、ボランティア活動などを行っているといったお話をしました。



【キャンパス見学】

学生発表の後はキャンパス内の見学を行いました。匹見中学校の生徒さんは「ずっと通ってみたいところを通ることができてうれしい」と目を輝かせていました。



【記念撮影】

最後に本学マスコットキャラクターのオロリンと記念撮影。匹見中学生にとっても本学学生にとっても、大変貴重な時間を共有することが出来ました。



○益田市立横田中学校との交流事業

平成 29 年 6 月 20 日 (火)、益田市立横田中学校の 3 年生 24 名が浜田キャンパスを訪問し、本学学生とも交流しました。

【記念撮影】

最初に本学マスコットキャラクターのオロリンと記念撮影。横田中学校の皆さんにも大人気でした。



【学生発表・意見交換】

本学 4 年生の竹本健二郎さんが自身の大学生活での経験談を発表しました。大学でどのようなことを学ぶのか、中学生がイメージしやすいようにお話ししました。

その後 4 班に分かれ、本学学生の岡田尚也さん、平田拓海さん、岩見しおりさんとの意見交換を行いました。



【キャンパス見学】

次に施設見学を行いました。中学生にはめずらしい階段教室で着席し大学を体感しました。



【インタビュー】

最後に、大学での勉強や生活について、聞いてみたいことをカフェテリア内にいた大学生に突撃インタビューしました。



(6) はまだ灯 2017 (平成 29 年 10 月 26 日開催)

総合政策学部 1 回生 小川 直城

浜田市の安心で安全な町を目指し、市民と大学生がつくる市民団体「はまだを明るく照らし隊」が主催となり、今年も「はまだ灯」が開催された。「はまだ灯」は 2009 年 10 月の同時期に、当時、島根県立大学 1 回生であった平岡都さんの痛ましい事件を契機として、事件を繰り返さないこと、事件の風化を防ぐことを目的に始まったイベントである。今年で 6 回目を迎え、当キャンパスの講堂前に 1200 個の明かりを灯し、平岡さんの冥福を祈った。当時の事件を知る学生が少なくなったが、市民の方を中心に多くの方々にお越しいただいた。また、企画運営には多くの学生、市民が携わり、地域と学生、市民との繋がりの大切さを考える機会になった。



【浜田市安心安全まちづくり推進大会】

この大会は 2 年に 1 度、この日に合わせて浜田市内で行われるものであり、今年は当キャンパス講堂で行われた。そこでは、本学学長の挨拶や防犯サークル SCOT の活動発表、神楽サークルである石見神楽舞濱社中による演舞、浜田警察署の講演などが行われ、平岡さんの冥福を祈るとともに浜田のまちづくりについて意見が交わされた。

【はまだ灯 2017 セレモニー】

セレモニーは、本学学長、浜田市長、学生代表、「はまだを明るく照らし隊」の市民代表の挨拶が行われ、安心、安全な町を誓う思いを述べられた。また、事件発生の 1 年後に大学が整備し、月に一度手入れをしている花壇「Garden of hope」の植栽が行われた。平岡さんの追悼の意を込めて学生代表、学長、市長が参加者の前で葉ボタンなどを植えた。参加者はキャンドルの明かりを頼りに歩き、安心安全について考えていた。平岡さんの事件は今年春に解決したとされているが、これからも浜田市の安心で安全なまちづくりにつながるように風化防止活動が続けられるようにと願っている。

(7) MAKE DREAM 2017

平成 29 年 12 月 15 日（金）に、本学交流センターコンベンションホールにて本学の学生が浜田の地域資源を活用したビジネスプランを提案する島根県立大学浜田を元気にするアイデアコンテスト「MAKE DREAM 2017」最終プレゼンテーションが開催された。

「MAKE DREAM」は、地域の企業や行政などに学生の発案する若者ならではの自由な発想を聞いてもらい、新産業や新事業創出の参考にしてもらう「アイデア提供型」の企画であり、今回で 7 年連続 7 回目の開催となる。

同コンテストの運営は主催であるはまだ産業振興機構をはじめ、行政、支援機関の幅広い協力を得て行われている。審査にあたっては、久保田章市浜田市長を審査委員長とし、浜田商工会議所、石央商工会、日本政策金融公庫浜田支店、島根県商工会連合会石見事務所といった各協力機関からトップクラスの方々が審査員として参画した。

コンテストには合計 17 組からの応募があり、書類選考を通過した上位 5 組が最終プレゼンを実施した（表）。

その結果、2 年の下元謙信さんが発表した、浜田市三隅町にある「室谷棚田」に小水力発電機を設置し、発電した電気を売電及び鳥獣被害を防止する電気柵に使用するプランである「現代版さとやま」が最優秀賞を受賞した。また、3 年の上代美帆さんが発表した「美又の黒米染めもの」が優秀賞及び共感大賞（来場者が最も共感したプランへ投票し、その得票数が最も多いものに対して贈られる）を受賞した。

また今年度は、昨年度のコンテストでの共感大賞受賞後、発表したプランを実践し浜田市紺屋町商店街の空き店舗を活用して缶詰バーを起業した 3 年の松永稜太郎さんの発表も行われた。

表 「MAKE DREAM 2017」最終プレゼンテーション発表者とテーマ（発表順）

氏名	学年	発表テーマ
早川結衣	4年	規格外野菜の活用
梅津彩生・藤内ひかる	1年	若者向けのおしゃれなリユースショップ
下元謙信 (最優秀賞)	2年	現代版さとやま
伊藤希美花	3年	浜田の魅力を巡る2泊3日体験ツアー
上代美帆 (優秀賞・共感大賞)	3年	美又の黒米染めもの

(教授 久保田典男)

(8) 高大連携の取り組み

島根県立大学と島根県立浜田高校及び島根県立江津高校とはそれぞれ平成16年、平成19年に高大連携包括協力協定を締結し、相互の特色を活かした連携活動を行っている。

■ 島根県立江津高等学校との取組の一例

12月6日(水)『多文化理解特別演習Ⅱ』を大学生と一緒に受講しました。

島根県立江津高等学校2年生の皆さんが、ペルーの大学生とのビデオリンクで交流をしている様子です。

～『多文化理解特別演習』とは?～

グローバル化した社会に必要な「多様な文化の理解」を、実践を通じて身につける科目です。最先端のビデオ会議教室は、インターネットを通じて、海外大学とリアルタイムで結ばれています。この演習では、英語を用いた諸問題のディスカッションや共同で取り組むプレゼンテーションを行い、お互いの文化や価値観について学びを深めます。

"We have the courage to make mistakes."

REAL REPORTER

No. 34Japan & Korea EditionFebruary 22, 2018



Real Time Discussion in English

Naomi Miyauchi, Gotsu Senior High School

Senior high school students participated in real time English discussion with college students in Peru via videoconferencing at the University of Shimane on December 6, 2017. Ten second year students from Gotsu Senior High School, located in Gotsu city in Shimane prefecture, presented their high school life in English using PowerPoint slides, and answered questions by the Peruvian college students.

"I felt nervous at first, and I had no idea what it's like to communicate with Peruvian students via videoconferencing. But they seemed to understand our presentation and asked a lot of questions, and I was happy and enjoyed the class so much," said Nanako Nanbara excitedly.

"I couldn't speak English very well, but I was able to express what I wanted to say. I feel like studying English more," said Honami Hirano.

With the help of instructors, the participating students decided what topics they should introduce to the

My Country Life in Kanagi, Hamada

Miho Jodai, University of Shimane

I live in a share house, which is in the center of Kanagi. The share house is effort by Hamada City and the University of Shimane, so there are five university students in the house. I was taken with the life in the local town, so I decided to move into the house when I was a second year student. I have lived in the house for about two years. The life is different to life in a city apartment.

Kanagi is about 20 minutes by car from the university. Two of us have their own cars, but the other two and I don't. So we go to school together. We lease a share car city government. The car is the electric car by Nissan. Thanks to the car, we can go to school and perform ordinary tasks.

Kanagi is local town, so the local residents have strong local community. There is an elderly couple in our next house. They are very kind, they often invite us to their house and cook a meal for us. Their meals are all delicious because the old man works as a cook. Also, other people in the neighborhood often give us some food. For example, an elderly man gave us some dried kelp and another elderly woman gave us some date plum. All of them are kind.

There are some community events in the town. We often take part in the events. In October we took part in the athletic festival. Because the lack of the players, we participated in 4 events. We were enthusiastically cheered by the local residents.

There are some hot springs in Kanagi, so we go often to Mimata and Yuya hot spring. We can go there about 10 minutes by car. In Kanagi, the winter is very cold, so it is happy to go in the hot spring. I bought the season ticket of Mimata hot spring, and I go there every day. If I lived in a Hamada city apartment, I couldn't do so.

I live in Kanagi and have experiences like these. It is happy for me to live there and communicate with many local residents. I want to keep enjoying my life in Kanagi.



February 22, 2018 REAL REPORTER より抜粋

64

(9)NEAR センター市民研究員制度

日本海をはさんで北東アジア地域に接する島根県とその周辺には、様々な視点からこの地域に強い興味を抱き、知識を蓄えている市民がいる。島根県立大学北東アジア地域研究センター（NEARセンター）では、日本を含む北東アジア地域の研究に強い興味を持っている市民の方々にNEARセンターの市民研究員として共に研究していただく「NEARセンター市民研究員制度」を平成18年度に創設した。



市民研究員研究発表会の様子

市民研究員はNEARセンターに所属し、研究会等への参画を通じて自らの興味関心に基づく研究活動に取り組むほか、研究テーマで意気投合した本学の大学院生と研究計画書を練り上げ、学内審査のうえ研究助成を受けて共同研究を行うなど、大学院生の研究に刺激を与えていただいている。平成23年度に立ち上げたグループ・リサーチ・サロンは、平成25年度に「北東アジア地域の歴史と文化」・「北東アジア地域の現代的課題」の2つに再編成され、関連する領域の共同研究や情報交換を行う場となっている。

NEARセンター研究員（本学教員・NEARセンター嘱託助手などで構成）は、「NEARアカデミック・サロン」に登壇し、専門研究分野の最前線を市民研究員向けにわかりやすく解説するなどして市民研究員制度を通じた地域への「知」の還元を心がけている。

平成29年度における成果として、市民研究員自らの企画により以下の研究会を開催した。

1. 日時：平成29年7月15日（土）14:00～17:00

場所：講義・研究棟1階 中講義室3

内容：第1部：（1）NEARセンター・アカデミック・サロン

濱田泰弘 NEAR 研究員

「地方自治体議会存続の危機—高知県大川村『町村総会』設置検討をめぐる問題」

（2）「大学院生と市民研究員の共同研究」審査結果発表と講評

第2部：市民研究員による研究発表

・岡崎秀紀（市民研究員）

「調査報告：チベット仏教求法僧・能海寛の第二次探検ルート」

・小林久夫（市民研究員）

「イスラム教シーア派に関する一考察」

・田中文也（市民研究員）

「日本書紀 1300 年を目指して：北東アジア地域古代史研究の
新局面」

2. 日時：平成 29 年 11 月 25 日（土）13:15～16:40

場所：講義・研究棟 1 階 中講義室 3

内容：(1) NEAR センター・アカデミック・サロン

山本健三 NEAR 研究員

「ロシア革命から 100 年目に〈アナキスト〉について考える」

(2) 市民研究員による研究報告

・福原孝浩（市民研究員）「生田長江について」

・森須和男（市民研究員）

「近世日朝漂流民共同研究以後の継続研究について—新史料による—」

・若林一弘（市民研究員）「ネパールと日本の『破戒』仏教」

・阿部志朗（市民研究員）

「新旧地図と位置情報を連動させたスマホ・PC 上の「まち歩きマッ
プ」の作成について」

(3) 大学院生との共同研究経過報告

・湯屋口初實（市民研究員）、牛尾昭（市民研究員）、大橋美津子（市
民研究員）、坂東朋子（市民研究員）、田中幹人（大学院生）

「上海市及び浜田市の友好都市真如鎮におけるニーズ調査と浜田地域
におけるインバウンド戦略について」

・河野美里（市民研究員）、湯屋口初實（市民研究員）、左暁晴（大学
院生）

「中国における移民社区の共棲・共生実態研究」

また、年度内に 3 回開催する市民研究員全体会の一環として毎年度行っている「市民研
究員研究発表会」及び「市民研究員と大学院生の共同研究成果報告会」を以下のとおり開
催した。

○平成29年度 市民研究員研究発表会

日時：平成30年1月27日（土）13:00～15:30

場所：交流センター2階 コンベンションホール

内容：市民研究員による研究報告・発表

- ・田中文也(市民研究員)
「北東アジア古代史解明の第2段階と第3段階の取り組みについて」
- ・若林一弘(市民研究員) 「生ける少女神クマリと日本」
- ・福原孝浩(市民研究員) 「生田長江について」
- ・岡崎秀紀(市民研究員)
「能海寛著『世界に於ける佛教徒』(明治26年)の研究～19世紀の哲学・宗教研究者の人物・著書調査から見えるもの」
- ・湯屋口初實(市民研究員) 「中国からの訪日観光客のニーズの意見交換」
張紹鐸氏(上海外国語大学研究生院副院長・副教授/NEARセンター客員研究員)

○平成29年度 市民研究員と大学院生の共同研究成果報告会

日時：平成30年3月3日(土)13:00～16:50

場所：講義・研究棟1階 中講義室3

内容：市民研究員と大学院生の共同研究成果報告

- ・田中幹人氏(大学院生)、湯屋口初實(市民研究員) 大橋美津子(市民研究員)、坂東朋子(市民研究員)、牛尾昭(市民研究員)
「上海市及び浜田市の友好都市真如鎮におけるニーズ調査と浜田地域におけるインバウンド戦略について」
- ・石楊(大学院生)・岡崎秀紀(市民研究員)
「環境支払意思額により新退耕還林政策を導入する可能性に関する研究—ホルチン砂地におけるフシン市を事例として」
- ・左暁晴、(大学院生)、湯屋口初實(市民研究員)、河野美里(市民研究員)
「中国における移民社区の共棲・共生実態研究—煙台の韓国人社区を事例に」

(10) 講演会講師等・審査会委員等

◇講演会講師等

教員名	依頼元	名称	期間
藤原 眞砂	島根県	島根県立石見高等看護学院 非常勤講師	H29. 9. 1～H29. 10. 6
陳 仲奇	国立病院機構浜田医療センター	非常勤講師「倫理学」	H29. 5. 1～H29. 6. 1
張 忠任	国立病院機構浜田医療センター	非常勤講師「情報科学演習」	H29. 6. 1～H29. 7. 31
孟 達来	島根県立大学	非常勤講師	H29. 4. 1～H29. 9. 30
久保田 典男	法政大学	プロジェクト兼任講師（論文指導）	H29. 4. 1～H30. 3. 31
メリッサ・ハントリー	島根県立大学	非常勤講師「英語」	H29. 4. 1～H30. 3. 31
高 一	早稲田大学	朝鮮半島研究β	H29. 4. 1～H30. 3. 31
井上 厚史	人間文化研究機構	比較の中の東アジア王権論と秩序構想	H29. 4. 1～H30. 3. 31
李 曉東	人間文化研究機構	比較の中の東アジア王権論と秩序構想	H29. 4. 1～H30. 3. 31
井上 厚史	島根県社会福祉協議会	くにびき学園西部校社会文化科での講義	H29. 4. 14
井上 治	島根県社会福祉協議会	シマネスクくにびき学園講師	H29. 5. 26
久保田 典男	連合島根松江隠岐地域協議会	行政・企業・労働者・住民などを対象とした参加型 地域フォーラム講師	H29. 9. 16
久保田 典男	近重勉税理士事務所	地域の経営者、後継者を対象として開催する経営支 援セミナー講師	H29. 10. 30
八田 典子	島根県社会福祉協議会	くにびき学園西部校社会文化科講師	H29. 10. 6
村井 重樹	松江市立女高等学校	松江市立女子高「大学の先生による出前講義」の講 師	H29. 7. 18
久保田 典男	島根県高等学校国際教育研究協議会	島根県高校教員を対象とした国際教育研究大会に おける講演会講師	H29. 8. 8
別枝 行夫	島根県自治研修所	若手職員地域づくりセミナー講師	H29. 12. 19～H29. 12. 20
岡本 寛	島根県憲法会議（実務：松江保健生協労働組合）	市民を対象として開催する憲法シンポジウム講師	H29. 11. 18
清原 正義	浜田市地域政策部 まちづくり推進課地域づくり推進係	平成29年度浜田市市民憲章推進大会における記 念講演講師	H29. 11. 23
久保田 典男	日本海信用金庫	「せがれ塾」第8期生セミナー講師	H29. 12. 6
河部 安男	山口県生活改善実行グループ連絡協議会 （山口県農林水産政策課）	「わが地域の自慢の知恵・技 大集合」講演会講師	H30. 1. 22
久保田 典男	日本海信用金庫	「せがれ塾」第8期生セミナー講師	H30. 2. 7
久保田 典男	益田市	第6回益田市景観シンポジウムパネリスト	H30. 2. 3
久保田 典男	日本海信用金庫	後継経営者育成塾「せがれ塾」セミナー第8期生セ ミナー講師	H30. 3. 6
別枝 行夫	島根県自治研修所	市町村若手職員の地域づくりセミナーの講師	H30. 6. 25～H30. 6. 26
藤原 眞砂	紺屋町商店街振興組合	振興組合会員を対象として開催する講演会の講師	H30. 2. 6

◇審査会委員等

氏名	発令元	名称	期間
岩本 浩史	浜田市	浜田市情報公開審査会並びに浜田市個人情報保護法審査会及び浜田市個人情報保護審議会委員	H25.10.1～H29.9.30
岩本 浩史	大田市	大田市情報公開審査委員ほか	H26.10.30～H29.10.29
岡本 寛	浜田市	浜田市情報公開審査会並びに浜田市個人情報保護法審査会 及び浜田市個人情報保護審議会委員	H25.2.14～H29.9.30
光延 忠彦	益田市行革推進課	益田市行財政改革審議会委員	H28.3.1～H30.2.28
岡本 寛	益田市総務管理課	益田市行政不服審査会委員	H28.4.1～H30.3.31
久保田 典男	江津市政策企画課	江津市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会	H28.3.1～H30.2.28
大橋 敏博	島根県芸術文化センター	島根県芸術文化センター協議会委員	H28.3.1～H30.2.28
八田 典子	島根県土木部都市計画課	しまね景観賞審査委員	H28.4.1～H30.3.31
本田 雄一	独立行政法人国立病院機構浜田医療センター	治験審査委員会委員及び倫理審査委員会委員	H28.4.1～H30.3.31
豊田 知世	浜田市	浜田市環境清掃対策審議会 副会長	H28.4.1～H30.3.31
豊田 知世	浜田市	浜田市環境審議会委員	H28.4.1～H30.3.31
岩本 浩史	浜田市	浜田市行政不服審査会委員	H28.4.1～H29.10.29
岡本 寛	浜田市	浜田市行政不服審査会委員	H28.4.1～H29.10.29
小林 明子	浜田市	男女共同参画推進委員	H28.4.1～H30.3.31
大橋 敏博	浜田市	浜田市文化財審議会委員	H28.4.1～H30.3.31
藤原 真砂	国土交通省中国地方整備局	中国地方整備局事業評価監視委員会委員	H28.4.6～H30.3.31
久保田 典男	浜田市	浜田港拠点化形成協議会（仮称）委員	H28.5.20～H30.3.31
別枝 行夫	浜田市	浜田市図書館協議会 委員	H28.4.1～H30.3.31
久保田 典男	島根県	島根県雇を表彰委員会「いきいき雇用賞」委員	H28.5.20～H30.3.31
久保田 典男	特定非営利活動法人石見銀山協働会議	石見銀山基金事業公開審査会、報告会等	H28.4.1～H31.3.31
川中 淳子	浜田市	浜田市保健医療福祉協議会 審議委員	H28.5.20～H30.3.31
久保田 典男	島根県	島根県芸術文化センター指定管理業務評価委員	H28.6.24～H32.5.31
齋藤 暁子	江津市中心市街地活性化協議会	江津市中心市街地活性化協議会 構成員	H28.6.24～H30.3.31
沖村 理史	島根県	島根県環境審議会委員	H28.7.1～H30.6.30
久保田 典男	公益財団法人ちゅうごく産業創造センター	調査事業推進委員会 委員	H28.6.9～H30.3.31
豊田 知世	大田市	大田市公共施設適正化計画策定委員会	H28.8.1～H30.3.31
小林 明子	公益社団法人日本語教育学会	公益社団法人 日本語教育学会 審査・運営協力員	H28.7.1～H29.6.30
小林 明子	独立行政法人国際交流基金日本語試験センター	日本語能力試験 作業部会 作題部会委員（聴解）	H28.9.1～H29.8.31
久保田 典男	大田市	大田市仁摩地区 道の駅整備推進委員会	H28.8.17～H30.3.31
久保田 典男	益田市	道の駅整備検討委員会 委員	H28.9.5～H30.3.31
赤坂 一念	島根県	スーパーグローバルハイスクール 運営指導委員	H28.10.11～H31.3.31

氏名	発令元	名称	期間
大橋 敏博	浜田市	浜田市行財政改革推進委員会	H28. 9. 29～H30. 9. 28
光延 忠彦	浜田市	浜田市行財政改革推進委員会	H28. 9. 29～H30. 9. 28
光延 忠彦	全国健康保険協会島根支部	全国健康保険協会島根支部評議会評議員	H28. 11. 1～H30. 10. 31
齋藤 暁子	島根県	島根県営住宅浜田中央団地（仮称）福祉施設運営事業者選定委員会	H28. 12. 1～H29. 11. 30
久保田 典男	益田市	益田市商工振興会議委員	H29. 1. 27～H30. 3. 31
林田 吉恵	島根県	島根県固定資産評価審議会委員	H28. 12. 15～H30. 12. 14
岩本 浩史	中国地方整備局	中国地方整備局道路協力団体指定委員会	H28. 12. 27～H31. 12. 26
岩本 浩史	美郷町	美郷町情報情報公開審査委員会（会長）	H29. 2. 1～H31. 1. 31
岩本 浩史	美郷町	美郷町個人情報保護審査委員会（会長）	H29. 2. 1～H31. 1. 31
岩本 浩史	美郷町	美郷町個人情報保護審議会（会長）	H29. 2. 1～H31. 1. 31
林 秀司	島根県	島根県中山間地域等振興対策検討会	H28. 12. 19～H30. 12. 18
藤原 眞砂	江津市	江津市立地適正化計画策定検討委員会 非常勤委員	H29. 2. 28～H31. 2. 28
豊田 知世	島根県	島根県公共事業再評価委員会委員	H29. 4. 1～H31. 3. 31
齋藤 暁子	浜田市	浜田市男女共同参画推進委員会	H29. 4. 1～H30. 3. 31
豊田 知世	浜田市	浜田市行財政改革推進委員会委員	H29. 3. 31～H31. 2. 5
寺田 哲志	島根県	島根県公共事業再評価委員	H29. 7. 1～H30. 10. 15
八田 典子	浜田市	浜田市景観審議会委員	H29. 4. 1～H31. 3. 31
西藤 真一	浜田市社会福祉協議会	浜田市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会委員	H29. 4. 1～H31. 3. 31
西藤 真一	浜田市地域公共交通活性化協議会	浜田市地域公共交通活性化協議会委員	H29. 4. 1～H31. 3. 31
松田 善臣	浜田市地域公共交通活性化協議会	浜田市地域公共交通活性化協議会委員	H29. 4. 1～H31. 3. 31
田中 恭子	島根県（財政課）	改革推進会議	H29. 4. 1～H30. 3. 31
小池 律雄	一般財団法人島根県教職員互助会	一般財団法人島根県教職員互助会評議員	H29. 4. 1～H33. 3. 31
豊田 知世	公益財団法人しまね自然と環境財団	しまね環境アドバイザー	H29. 4. 24～H30. 3. 31
沖村 理史	公益財団法人しまね自然と環境財団	しまね環境アドバイザー	H29. 4. 24～H30. 3. 31
藤原 眞砂	島根県商工労働部	島根県中小企業・小規模企業振興推進協議会委員	H29. 4. 1～H30. 3. 31
小池 律雄	島根県教育委員会	島根県立学校学校評議員	H29. 5. 1～H30. 3. 31
李 憲	島根県環境生活総務課消費とくらしの安全室	島根県消費生活審議会委員	H29. 5. 15～H30. 7. 26
川中 淳子	学校法人益田永島学園	多様な学習支援推進事業検討会議委員	H29. 5. 1～H30. 3. 31
岡本 寛	平和フォーラムますだ	フォーラム会員を対象とする学習会の講師	H29. 5. 24～H29. 5. 24
清原 正義	浜田国際交流協会	特別顧問	
岡本 寛	公益財団法人しまね女性センター	公益財団法人しまね女性センターの運営に関する審議を行う非常勤の評議員	H29. 7. 1～H33. 6. 30
林 秀司	益田市	益田市景観審議会委員	～H31. 3. 31

氏名	発令元	名称	期間
別枝 行夫	浜田市	ヨシタケコーヒー認証審査委員会副委員長	H29.4.1～H31.3.31
田中 恭子	浜田市産業政策課	「BUY浜田運動」推進フォーラムコーディネーター	H29.5.23～H29.5.23
斎藤 暁子	島根県商工労働部商工政策課	島根県商工労働部指定管理業務評価委員	H29.7.1～H32.3.31
久保田 典男	島根県商工労働部産業振興課	しまね地域産業活性化協議会委員	H29.6.15～H32.3.31
久保田 典男	はまだ産業振興機構	島根県立大学浜田を元気にするアイデアコンテスト「MAKE DREAM2017」コーディネーター等	H29.4.27～H30.3.31
豊田 知世	はまだ産業振興機構	島根県立大学浜田を元気にするアイデアコンテスト「MAKE DREAM2018」コーディネーター等	H29.12.15～H29.12.15
藤本 早織	はまだ産業振興機構	島根県立大学浜田を元気にするアイデアコンテスト「MAKE DREAM2019」コーディネーター等	H29.4.27～H30.3.31
久保田 典男	公益財団法人ふるさと島根定住財団	公益財団法人ふるさと島根定住財団 理事（非常勤）	H29.6.1～H31.6.30
八田 典子	島根県芸術文化センター	島根県芸術文化センター協議会委員	H29.6.1～H30.2.28
金野 和弘	鳥取県元気づくり総本部参画協働課	平成29年度鳥取・島根広域連携協働事業審査委員会委員	H29.6.1～H30.3.31
久保田 典男	中国地方整備局港湾空港部	中国地方国際物流戦略チームの有識者委員会	H29.8.1～H31.3.31
赤坂 一念	江津市都市計画課	江津市都市計画審議会非常勤委員	H29.7.18～H31.3.31
沖村 理史	上智学院	学位論文審査委員会委員	H29.5.1～H30.3.31
犬塚 優司	広島大学大学院文学研究科	学位論文審査委員会委員	H29.9.28～H29.9.28
田中 恭子	島根県土木部用地対策課	島根県事業認定審議会 非常勤審議委員	H29.9.20～H32.9.19
久保田 典男	島根県商工労働部雇用政策課	優良取組企業・活躍している女性の紹介事業に係る指導者	H29.8.30～H30.3.31
榎野 康一	浜田市総務部情報政策課	平成29年度就業構造基本調査	H29.8.18～H29.10.31
藤原 眞砂	浜田河川国道事務所	高津川河川整備アドバイザー会議における学識経験者	H29.9.14～H30.3.31
岩本 浩史	浜田市総務課法令文書係	浜田市情報公開審査会 非常勤委員	H29.10.1～H31.9.30
岡本 寛	浜田市総務課法令文書係	浜田市情報公開審査会 非常勤委員	H29.10.1～H31.9.30
岩本 浩史	大田市役所総務課法令係	大田市情報公開審査委員、個人情報公開審査委員、行政不服審査会委員	H29.10.30～H32.10.29
中田 美津枝	浜田市役所	期日前投票事務（金城支所）臨時職員	H29.10.9～H29.10.29
藤原 眞砂	国土交通省中国地方整備局	江の川河川整備計画アドバイザー	H29.10.13～H30.3.31
寺田 哲志	国土交通省中国地方整備局	江の川河川整備計画アドバイザー	H29.10.13～H30.3.31

氏名	発令元	名称	期間
岩本 浩史	国土交通省中国地方整備局	江の川河川整備計画アドバイザー	H29. 10. 13～H30. 3. 31
田中 恭子	島根県中山間地域研究センター	島根県中山間地域研究センター運営協議会研究課題評価専門委員	H29. 10. 19～H31. 3. 31
田中 恭子	島根県	島根県職業能力開発審議会委員	H29. 11. 1～H31. 10. 31
清原 正義	大田市教育部社会教育課	難波利三・ふるさと文芸賞審査員	H29. 10. 23～H29. 10. 23
大室 メリッサ・ハン トリー	浜田市立第四中学校	英語キャンプの補佐	H29. 11. 1～H29. 11. 18
豊田 知世	持続可能な地域社会総合研究所	「道の駅瑞穂」整備検討委員	H29. 8. 10～H30. 3. 31
田中 恭子	島根県	島根県雇用対策推進会議委員	H29. 11. 1～H31. 10. 31
陳 仲奇	島根大学外国語教育センター	第3回島根大学中国語技能コンテスト審査委員長	H29. 12. 16～H29. 12. 16
西藤 真一	島根県浜田県土整備事務所	平成29年度浜田・江津地域づくり調整会議オブザーバー	H29. 12. 8～H30. 3. 31
豊田 知世	島根県税務課	島根県固定資産評価審議会委員	H29. 12. 13～H30. 12. 14
林 秀司	国土交通省中国地方整備局	斐伊川河川整備アドバイザー会議 委員	H29. 12. 14～H30. 3. 31
豊田 知世	島根県都市計画課	島根県都市計画審議会委員	H30. 2. 1～H32. 1. 31
久保田 典男	大田市	大田市総合計画審議会委員	H30. 1. 12～H30. 4. 30
豊田 知世	島根県中山間地域研究センター	島根県中山間地域研究センター運営協議会委員	～H31. 3. 31
岡本 寛	益田市総務部総務管財課	益田市行政情報不服審査会委員	H30. 5. 14～H32. 5. 13
岡本 寛	益田市総務部総務管財課	益田市行政不服審査会委員	H30. 4. 1～H32. 3. 31
八田 典子	江津市都市計画課	江津市景観審議会 景観形成に関する事項について審議を行う非常勤の委員	H30. 2. 20～H32. 2. 20
八田 典子	江津市都市計画課	江津市新庁舎設計有識者会議 江津市新庁舎の整備に係る設計内容に関する協議及び検討を行う非常勤の委員	H30. 2. 8～H30. 10. 末
八田 典子	島根県芸術文化センター	島根県芸術文化センター協議会委員 センター運営に関する審議を行う非常勤の審議委員	H30. 3. 1～H32. 2. 29
西藤 真一	川本町	弓市地区魅力化検討委員、弓市地区の魅力化に向けた取り組みについて検討を行う非常勤の委員	H30. 1. 25～H31. 3. 31
豊田 知世	浜田地区広域行政組合	エコクリーンセンター長寿命化等検討委員会委員	H30. 2. 1～H30. 12. 31
光延 忠彦	益田市	益田市行財政改革審議会 行政経営に関する審議を行う非常勤の審議委員	H30. 3. 1～H32. 2. 28
豊田 知世	浜田市	浜田市環境清掃対策審議会 委員	2018. 4. 1～2020. 3. 31
藤原 真砂	益田市	益田市総合戦略審議会 委員	H27. 11. 11～H29. 3. 31
藤原 真砂	益田市	益田市総合戦略審議会 委員	H29. 4. 1～H30. 3. 31
藤原 真砂	益田市	益田市総合戦略審議会 委員	H30. 4. 1～H31. 3. 31

《出雲キャンパス》

平成 29 年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター出雲キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成 29. 4. 1～平成 30. 3. 31)

職 名	氏 名	備 考
教 授	吉川 洋子	<ul style="list-style-type: none"> ・しまね看護交流センター長 ・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携推進委員会委員長
准教授	高橋 恵美子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：生涯学習に関すること
准教授	落合のり子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：広報・広聴活動に関すること 生涯学習に関すること
講 師	林 健司	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：生涯学習に関すること
講 師	阿川 啓子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：学生ボランティアに関すること 教育機関との連携に関すること
講 師	川瀬 淑子	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：産公学連携に関すること 生涯学習に関すること
講 師	渡邊 克俊	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：教育機関との連携に関すること 学生ボランティアに関すること
助 教	松本 祐香	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員 担当：産公学連携に関すること 広報・広聴活動に関すること
管理課 主任主事	工藤 祐司	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員
管理課 地域コーディネーター	安食 里美	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携推進委員会委員

出雲キャンパス：地域連携活動概要

しまね看護交流センター長

(地域連携推進センター副センター長) 吉川 洋子

しまね看護交流センターは、COC事業「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」の出雲キャンパスプラットフォームとして事業を実施してきた。平成29年度は、「しまね地域共生学入門」を遠隔講義システムを活用して1年次生が受講し、授業に対する満足度は高かった。また、「地域課題総合理解」には、2年次生17名が受講し、「島根県における防災・減災を目指した健康課題とその対策」をテーマに意見交換や発表を行い浜田キャンパスの学生と活発な交流ができた。「しまね地域共育・共創研究助成金」による研究活動では、1件の島根県の特性を活かした研究に取り組み、「全域フォーラム」等において研究成果を地域に向けて報告した。

COC事業とともに、しまね看護交流センターでは、「地域連携推進部」、「キャリア・看護研究支援部」、「認定看護師養成部」の3部門をおき、市民向け、専門職向けの多くの事業を展開し、地域のニーズに応えてきた。

「地域連携推進部」では、市民を対象とする生涯学習、学生の地域交流・地域貢献、教育機関との連携、産公学連携、広報・広聴活動の5つの事業を展開した。大学での「公開講座」、サテライトキャンパスでの「いずも健康市民大学」、「論語教室」、「いきかたカフェ」において受講者の延べ人数は1,372名と多くの市民に参加していただいた。また、学生の地域貢献としてボランティア活動を推進し、多岐にわたる学生のボランティア活動が報告されている。

「認定看護師養成部」において、緩和ケア分野の専門性の高い看護師を育成する教育課程を運営し、14名が修了した。また、1期生19名が認定審査を受け、18名が資格を得、県内の医療機関を中心に活躍している。さらに、平成30年度から認知症看護分野の開講に向け、教育機関としての申請を行い日本看護協会の認定を受けた。

「キャリア・看護研究支援部」においては、現場の看護職の実践力、教育力、研究力の向上に向けて5つの事業を継続して展開し、参加者から今後への活用など高い評価を得た。

センター事業には、学内教職員だけでなく、自治体や関係機関等との連携により実施している。学外の関係者との協議を行う「出雲キャンパスプラットフォーム会議」を2回開催した。さらに、外部委員会を開催し外部評価を受けた。センター事業に対する地域からの意見を今後の事業の改善に活かしていきたい。

1) 生涯学習

(1) 公開講座

◇目的

本学がもっている専門的、総合的な教育・研究機能を広く社会に公開することにより、健康に関する知識・技術及び一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供することを目的とした。

◇事業内容

「平成 29 年度公開講座・いずも健康市民大学 実施要領」に基づき運営

*担当教員：助教以上の教員 *講座内容：健康に関するもの、一般教養など

*受講対象：一般 *開催時期：原則平成 29 年 5 月～12 月

*開催場所：本学、その他県内の施設

*開催時間：本学の場合は 9:00～21:00。学外の場合は当該施設と要相談。

*開催方法：

- ① 原則として担当教員が運営するが、求めに応じて地域連携推進部（地域連携推進委員会）が支援する。
- ② 参加申込みの受付はしまね看護交流センターが行う。応募を受け付けられない事態については担当教員が判断し、センターから申込み者に通知する。
- ③ 客員教授に公開講座に参加していただくこともある。
- ④ 修了証書は講座の担当教員が発行の有無を決定し、準備する。
- ⑤ 手話通訳・託児の希望者の受け入れは担当教員の判断により決定し、手配は担当教員が行う。託児を行う場合、大学で傷害保険に加入する。
- ⑥ 出雲キャンパスを会場とする場合、担当教員は、「受講者入館証」を事前に管理課から受け取っておき、当日受付で受講者に配布する。

◇事業実施状況

平成 29 年度は、計画していた 7 講座に加え、島根県訪問看護ステーション協会との共同開催として「地域包括ケアシステムにおける看護の役割～未来につなぐ訪問看護の力～」(鈴木妙氏)を第 8 講座として実施した。各講座の詳細については表中に記載する。

広報としては、リーフレットを県内 85 施設に送付した。昨年度に引き続き、5 講座を出雲市市民活動支援課生涯学習係と、1 講座をしまね模擬患者の会と共催講座とした。第 5 講座は参加申込がなく開催を中止した。

◇成果

今年度は、東京スカイツリーのデザインを手がけた澄川客員教授の特別講義を公開講座

とし、健康のみに限らず文化的な内容の講座を開催した。参加された受講者のアンケート調査から、講座は概ね高い評価を得た。受講者人数は、延べ521名であり、昨年をやや下回った。公開講座の様子は、ホームページにて速やかに公開し、情報提供に努めた。

◇課題

客員教授の講座、島根県訪問看護ステーション協会と共同開催した講座は参加者が100名以上であり盛会であった。しかし、その他の講座は、各種団体と共催講座としたが、参加者数が伸びなかった。今後は、住民のニーズに合ったより魅力的なプログラムを企画し、多くの参加者が公開講座に足を運びたいくなるような工夫が必要だと考える。

表1 平成29年度公開講座実施状況

講座番号	開催日時	講師	講座名	場所	受講者数
1	5月24日(水) 10:40～12:10	グラントワ館長 澄川喜一 (客員教授)	千三百年の歴史を未来につなぐ 「東京スカイツリーの秘密を語る」	出雲キャンパス 大講義室	242
2	7月15日(土) 10:00～12:00	松本玄智江	アロマで心と身体のリフレッシュPart.12 ①アロマを楽しむための基礎知識について	出雲キャンパス 209講義室	19
	7月22日(土) 10:00～12:00		アロマで心と身体のリフレッシュPart.12 ②精油を使った小物作りにチャレンジ	出雲キャンパス 215実習室	17
	7月29日(土) 10:00～12:00		アロマで心と身体のリフレッシュPart.12 ③精油を使ったマッサージにチャレンジ	出雲キャンパス 215実習室	17
3	8月1日(火) 13:30～15:00	濱村美和子	ママと赤ちゃんのヨガ教室 ①ベビーヨガ	出雲キャンパス 107演習室	13 (親子6組)
	8月8日(火) 13:30～15:00	植田恵	ママと赤ちゃんのヨガ教室 ②マタニティヨガ	出雲キャンパス 107演習室	4
4	6月22日(木) 10:30～12:00	藤田小矢香	出産前後のからだ作り講座～温活塾～ ①(妊娠期):心と体を温めて分娩に向けたリラクセス法①	出雲キャンパス 214実習室	4
	7月13日(木) 10:30～12:00		出産前後のからだ作り講座～温活塾～ ②(妊娠期):心と体を温めて分娩に向けたリラクセス法②	出雲キャンパス 214実習室	4
	8月3日(木) 10:30～12:00	井上千晶	出産前後のからだ作り講座～温活塾～ ③(妊娠期):心と体を温めて赤ちゃんと暮らしはじめる準備	出雲キャンパス 214実習室	1
	10月18日(水) 10:30～12:00	秦幸吉	出産前後のからだ作り講座～温活塾～ ④(産褥期):心と体を温めるベビーマッサージ 基本編	出雲キャンパス 107実習室	2
	11月8日(水) 10:30～12:00		出産前後のからだ作り講座～温活塾～ ⑤(産褥期):心と体を温めるベビーマッサージ 応用編	出雲キャンパス 107実習室	4
5	9月1日(金) 9月8日(金) 9月15日(金) 9月22日(金) 18:00～20:00	高橋恵美子 小田美紀子 小田香澄	前向き子育てのための親講座①～④	出雲キャンパス 215実習室	申込者〇にて開催中止
	5月23日(火) 16:30～18:00	松本玄智江	模擬患者(SP)養成講座 ①	出雲キャンパス 220演習室	7
	6月20日(火) 16:30～18:00	吉川洋子	模擬患者(SP)養成講座 ②	出雲キャンパス 215実習室	5
	7月13日(火) 16:30～18:00	岡安誠子 平井由佳	模擬患者(SP)養成講座 ③	出雲キャンパス 215実習室	9
6	9月19日(火) 16:30～18:00	川瀬淑子	模擬患者(SP)養成講座 ④	出雲キャンパス 215実習室	11
	10月17日(火) 16:30～18:00	梶谷麻由子	模擬患者(SP)養成講座 ⑤	出雲キャンパス 215実習室	11
7	8月30日(水) 10:00～11:30	佐藤公子	口からの生活習慣病の予防～歯科保健～	出雲キャンパス 215実習室	10
8	11月29日(水) 14:00～15:30	公益社団法人 鳥取県看護協会 在宅支援部 部長 鈴木妙	地域包括ケアシステムにおける看護の役割 ～未来につながる訪問看護の力～	出雲キャンパス 大講義室	141
合 計					521

(2) サテライトキャンパス公開講座

【いずも健康市民大学】

◇目的

市民の専門的な健康に関する学習要求に応え、学習機会を提供することにより豊かな市民生活に資するとともに、学習の成果を地域に還元し、出雲市民としての誇りを持って自立する市民を育てていくことを目的とする。

◇事業内容（「いずも健康市民大学実施要綱」に基づき運営）

*講座内容：市民大学に複数の講座を置く。市民の要求と社会的要請を考慮し、運営委員会の意見を聴いて、学長が決定する。

*学習形態：1年を前期及び後期の2期に分け、各期内で継続した構成とする。

*受講対象：一般市民20名程度（受講者は一般公募）

*開催場所：島根県立大学出雲キャンパスサテライトキャンパス

*開催時期：前期課程〈平成29年5月～7月〉 後期課程〈平成29年9月～12月〉

*その他：各課程において、全開講回数のうち3分の2以上受講した者に修了証を授与する。

◇事業実施状況

前期後期それぞれに全12回の講座を計画し、予定通り実施した。

参加者は、前期課程22名、後期課程24名であり、修了証は前期11名、後期17名の参加者に授与した。実施状況の詳細については表に示す。

◇成果

参加者は、60代70代を中心とした年齢層であり、女性が90%以上であった。講座の内容に対しては、前期80%、後期94%の方が「良かった」「まあまあ良かった」と回答しており、昨年度と同様で全体の満足度は高かった。特に好評だった講座は、前期は「生活習慣病予防のための正しい食生活」「レクリエーションで心も身体もリフレッシュ」「認知症予防最前線」、後期は「知って得する皮膚の知識」「レクリエーションで心も身体もリフレッシュ」「足元の宝を見つめて暮らしを楽しむ」「中高年と薬膳」であった。自由記述にも「バラエティに富んだ講座で、健康への関心がより高まった」「楽しく学べた」という意見が複数聞かれた。

いずも健康市民大学は、「多様な分野の専門的な内容を継続的に学習し、健康づくり等の自主的な活動や豊かな市民生活について考える機会とする」という目的を達成していると同時に、参加者が楽しく、いきいきと学ぶ機会になっていると評価する。

◇課題

今後の講座への期待としては、「認知症予防や生活習慣病予防」「食に関する話し」「糖質

制限食ダイエット、認知症の詳しい話し」「油に関する最新常識」「お菓の話し」などが挙げられている。次年度は、看護栄養学部が開始となるため、栄養に関する講座や調理実習をする講座を開講する予定である。

表2 いずも健康市民大学実施状況

前期課程

回	開催日	講座名	講師	変更点	参加者数
1	5月11日	認知症予防最前線	出雲キャンパス 副学長 山下一也		13
2	5月18日	生活習慣病予防のための正しい食生活	出雲キャンパス 教授 秦幸吉		11
3	5月25日	伝統芸道の中の香道 Part.1	公益財団法人お香の会 理事 大谷香代子		14
4	6月1日	ジャワの暮らしと人々のつながり	松江キャンパス 准教授 塩谷もも		13
5	6月8日	レクリエーションで心も身体もリフレッシュ	島根県レクリエーション協会 レクリエーションインストラクター 梶谷清美		13
6	6月15日	伝統芸道の中の香道 Part.2	公益財団法人お香の会 理事 大谷香代子		13
7	6月22日	おいしいワインの選び方	わいんのお店「萬」 代表 鳥屋尾恭一		12
8	6月29日	ゼロからわかる資産運用入門	浜田キャンパス 講師 木村秀史		14
9	7月4日	がん講座「増えています！乳がん～病気と検診～」	出雲キャンパス 教授 若崎淳子		9
10	7月11日	がん講座「増えています！大腸がん～病気と予防～」	出雲キャンパス 助教 伊藤奈美		11
11	7月18日	がん講座「がん患者の家族の思い」	出雲キャンパス 教授 掛橋千賀子		9
12	7月25日	がん講座「がん医療とサポート」	岡山ろうさい病院 がん看護専門看護師 坂井淳恵		11
		合計(延べ人数)			143

後期課程

回	開催日	講座名	講師	変更点	参加者数
1	9月7日	知って得する皮膚の知識	高垣皮膚科クリニック 院長 高垣謙二		15
2	9月14日	椿ハンドケアの方法と椿における地域資源の活用	椿セラピー協会 認定講師 志賀早奈江		16
3	9月21日	レクリエーションで心も身体もリフレッシュ	島根県レクリエーション協会 レクリエーションインストラクター 梶谷清美		13
4	9月28日	食を楽しむ～味覚に影響する要因を解き明かす～	出雲キャンパス 教授 吾郷美奈恵		17
5	10月5日	認知症予防最前線	出雲キャンパス 副学長 山下一也		14
6	10月12日	油に関する最新常識 ～コレステロール性善説を中心に～	出雲キャンパス 教授 秦幸吉		20
7	10月19日	足元の宝を見つめて暮らしを楽しむ	株式会社 石見銀山生活文化研究所 代表取締役所長 松場登美		18
8	10月26日	人と地域を元気にする「芸術の力」	浜田キャンパス 教授 八田典子		17
9	11月9日	コーチングで「質問力」を高めよう！	出雲キャンパス 講師 小田美紀子		14
10	11月30日	大規模災害に強くなるヒントとは	林防災危機管理事務所 防災・危機管理アドバイザー 林繁幸	開催日	15
11	12月7日	中高年のヨガ～ゆったりヨガで健康づくり～	出雲キャンパス 准教授 狩野鈴子		14
12	12月14日	中高年と薬膳～薬膳としての柚子～	出雲キャンパス 講師 藤田小矢香		17
		合計(延べ人数)			190

【いきかたカフェ】

◇目的

生き方や逝き方について考える場を提供し、自分自身や大切な人のいのちについて考えることを目的とする。

◇事業内容

*講座主催：出雲いのちをみつめる市民の会

*受講対象：一般市民

*開催場所：島根県立大学出雲キャンパスサテライトキャンパス

*開催時期：毎月第3土曜日 14:00～16:00

◇事業実施状況

事業計画に沿って表の通り実施した。

表3 いきかたカフェ実施状況

	開催日	テーマ	ファシリテーター	会場	参加者数
1	5月21日(日)	模擬セミナー 援助的コミュニケーション (ユマニチュードとエンドオブライフケアについて) 「認知症高齢者とのコミュニケーション」	花田梢	サテライトキャンパス	23
2	6月10日(土)	講演会 「わたしがみつめたいのちー離島・ミャンマーでの看護体験」	講師: 藤井祐美子	サテライトキャンパス	10
3	7月23日(日)	がん医療フォーラム2017出雲 「がん患者と家族を支える在宅療養について考える」 ○基調講演 ・「がん患者さんを支える情報づくりと地域づくり」 講師: 帝京大学医学部内科学講座 腫瘍内科 准教授 渡邊清高 ・「在宅緩和ケアの現場から 仙台での取り組み」 講師: 爽秋会岡部医院 在宅診療医 河原正典 ・「出雲市の在宅医療の現場から」 講師: すぎうら医院 在宅診療部 副部長 花田梢	・出雲いのちをみつめる市民の会 ・地域におけるがん患者の緩和ケアと療養支援情報 普及と活用プロジェクト	出雲市役所 くにびき大ホール	210
4	8月19日(土)	模擬セミナー 援助的コミュニケーション (ユマニチュードとエンドオブライフケアについて) 「認知症高齢者とのコミュニケーション」	今田敏宏	サテライトキャンパス	10
5	10月21日(土)	いのちの輝きを考える日 「終末期の医療・ケアにおける自己決定について考えよう！」 ○基調講演Ⅰ 「いきいきと生きて逝くために～自分の最期を考えること～」 講師: 北広島町雄鹿原診療所長 東條環樹 ○基調講演Ⅱ 「老衰に医療どこまで～改めて『平穏死』を考える」 講師: 特別養護老人ホーム芦花ホーム常勤医 石飛幸三	「いのちの輝きを考える日」 実行委員会	島根県立中央病院 大研修室	180
6	11月18日(土)	模擬セミナー 援助的コミュニケーション (ユマニチュードとエンドオブライフケアについて)	中止	サテライトキャンパス	
7	12月16日(土)	グリーフケアについて	加藤さゆり	サテライトキャンパス	4
8	平成30年 1月20日(土)	講演会 「こどもがいのちをみつめるとはーCLSの立場から」	講師: 黒崎あかね	サテライトキャンパス	8
9	3月24日(土)	看取りのコミュニケーション: セミナー	今田敏宏	サテライトキャンパス	13
		合計 (延べ人数)			458

◇成果

カフェでは、様々な角度から死を考えることのできるテーマで運営をした。昨年から継続していた島根日日新聞社のコラム「いきかたカフェ」、7月のフォーラム開催で一般の人に広く看取りに関する場の提供を行った。さらに、教育的な関わりとして、認知症関連、看取りのコミュニケーション、子どもの看取りなどの専門職を対象とした教育も行った。

◇課題

昨年からの課題である看取りを経験している専門職業人向けの教育プログラムの構築

を目的とした教育体制を今年度に構築した。今後は対象者を検討し運営に活かせる準備が必要と思われる。

【論語教室】

◇目的

論語の素読を中心に、古典に親しみ古典を学ぶことにより、これからの生き方を考えることを目的とする。

◇事業内容

*講座内容：論語の素読を中心に、古典に親しみ古典を学ぶ。

*講師：小倉雅介氏（ごうぎん島根文化振興財団「尚風館」講師）

*受講対象：市内小学生 4年生以上 20名以内

*開催場所：島根県立大学出雲キャンパスサテライトキャンパス

岡山県青少年教育センター閑谷学校（7月30日、31日）

*開催時期：平成29年4月～7月 土曜日 14:00～15:45 全12回

表4 論語教室開催日程

回	開催日	参加者数	回	開催日	参加者数
1	4月 8日	6	8	6月17日	5
2	4月15日	4	9	6月24日	5
3	4月22日	2	10	7月 8日	6
4	5月 6日	2	11	7月15日	6
5	5月13日	6	12	7月22日	5
6	5月27日	3	宿泊研修	7月30日	8
7	6月 3日	2		～31日	

◇事業実施状況

サテライトキャンパスでの全12回の講座と、7月30日～31日にかけての岡山県青少年教育センター閑谷学校における宿泊研修を開催した。

参加児童は、市内小学校4年生から中学1年生までの6名で、8回以上参加した児童は4名であった。講座の内容は、論語の素読を中心とする論語学習の他に、コミュニケーションゲームや「気」を集中する呼吸法、偉人に学ぶ「永井隆」などを学習した。宿泊研修では、特別史跡旧閑谷学校にある国宝の講堂で論語の素読をしたり、スポーツや備前焼の陶芸作品作り、木工教室でのキーホルダー作りなどを体験した。

◇成果

受講生からは、「論語教室に入る前よりも読む力がついた。」「論語の中で大切な言葉は、

人との思いやりという意味の『仁』だということが分かった。自分も人を大切にしたい。」といった感想や、講師への感謝の気持ちを聞くことができた。

また、平成 28 年度から継続して受講している児童からは、論語に対する理解がより深まり、論語の章句を自分の生活の様々な場面で思い出すようになったといった感想もあった。「論語」を学ぶことにより、子どもたちが、心のよりどころになる言葉に出会い、人としての生き方を考える機会となっていると考える。

◇課題

平成 28 年度と同様に、受講生が少なく、日によっては、学校の行事と重なり、参加者数が 2 名といった日もあった。次年度の開催に向けて、広報活動を工夫し、参加児童の確保に努めるとともに、講師の協力を得て魅力ある講座づくりに取り組んでいく。

(3) 地域、団体主催による出前講座

◇目的

本学の専門的、総合的な教育・研究機能を幅広く社会に公開するため、地域や各種団体からの依頼に対応し、看護に関する知識・技術及び一般教養を身につける学習の機会を提供する。

◇事業内容

しまね看護交流センター窓口への講師派遣依頼に対応し、希望テーマや教員、条件などを詳細に聞き取りした後で出雲キャンパス教員の中から適任者を選び、承諾を得た後、依頼者に紹介する。出前講座の実施状況について、講座担当教員に実施報告書の提出を求め、ホームページに出前講座の様子を掲載する。次年度に開講可能な一般向けテーマ登録の募集を行い、一覧をホームページに掲載する。

◇事業実施状況

出雲キャンパスの教員が平成 29 年度に開催可能なテーマを一覧表にして、依頼方法の詳細とあわせてホームページに掲載した。また、テーマ一覧のチラシを作成し PR を行った。

講師派遣依頼は平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月まで継続的にあり、しまね看護交流センター地域連携推進部にて受け付けた依頼は 38 件であった。そのうち 2 件は講師の調整困難のため断り、計 36 件の出前講座を実施した。

平成 30 年度の準備として、地域貢献登録カードにより教員から開催可能なテーマの事前登録を募り、提出されたテーマを一覧表にしてホームページに掲載し、チラシ原稿を作成した。

◇成果

今年度、36件の実施を行った。依頼元は、地域のコミュニティーセンターや健康クラブ、中学校、NPO法人、社会福祉協議会等があり、内容は、認知症や介護予防、ロコモ、リラクゼーション等多岐にわたった。出前講座が地域や各種団体に対し、健康や看護に関する知識や技術、一般教養を学ぶ機会に込められていると考えられる。

◇課題

地域からの希望テーマに偏りがあり、今年度も実施教員に偏りがみられた。依頼元との話し合いの中で、他の講師や関連テーマを紹介するなど調整を行い、特定の教員に過度な負担がかかることがないようにしていく必要がある。

また今後も、地域から依頼しやすいよう交流センター窓口の周知に努めるとともに、事業報告等を通して、大学としての出前講座の実績について、全体の把握をしていく必要がある。

表5 平成29年度 地域連携推進部 出前講座実施一覧

番号	依頼元	実施日	実施教員	内容
1	直江コミュニティーセンター	6月3日	高橋恵美子准教授	直江地区青少年育成協議会委員、直江子ども見守り会研修会 講師
2	NPO法人 なないろネット	6月29日	伊藤智子教授	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」 講師
3	出雲市	7月2日	長島玲子教授 井上千晶講師 中谷陽子助教	出雲市男女共同参画センター講座「プレパパ・ママ講座」 講師
4	隠岐の島町立都万中学校	7月14日	小田美紀子講師	隠岐の島町立都万中学校・都万小学校の保護者を対象とした講演会 講師
5	NPO法人 なないろネット	7月20日	祝原あゆみ助教	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」 講師
6	すぎうら医院	7月23日	加藤典子講師	「がん医療フォーラム2017in出雲」講演会 パネリスト
7	NPO法人 なないろネット	8月17日	林健司講師	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」 講師
8	川跡長生会連合会	8月25日	伊藤智子教授	川跡長生会連合会理事会での講演会 講師
9	知夫村	9月8日	松本玄智江准教授	平成29年度第1回介護予防教室「お達者教室」 講師
10	知夫村	9月8日	松本玄智江准教授	平成29年度第1回介護予防教室「いきいき体操教室」 講師
11	美郷大学運営委員会	9月20日	石橋照子教授 日野雅洋助教	美郷大学 講師
12	NPO法人 なないろネット	9月21日	小川智子助教	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」 講師
13	宍道地区社会福祉協議会	10月1日	山下一也教授	「認知症予防」に関する講演会 講師
14	神門クラブ	10月14日	山下一也教授	「神門クラブ」研修会 講師
15	NPO法人 なないろネット	10月19日	加藤典子講師	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」 講師
16	雲南市立加茂中学校	10月20日	小田美紀子講師	保護者を対象とした講演会 講師
17	川跡長生会連合会	10月25日	吉川洋子教授	川跡長生会連合会理事会での講演会 講師
18	境港市社会福祉協議会	11月5日	山下一也教授	平成29年度第40回境港市民社会福祉大会 記念講演 講師
19	知夫村	11月10日	松本玄智江准教授	平成29年度第2回介護予防教室「お達者教室」 講師
20	知夫村	11月10日	松本玄智江准教授	平成29年度第2回介護予防教室「いきいき体操教室」 講師
21	NPO法人 なないろネット	11月16日	祝原あゆみ助教	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」 講師
22	島根県社会福祉協議会	11月17日	石橋照子教授	平成29年度シマネスクくにびき学園（東部校） 講師
23	(公社) 島根県看護協会	11月18日	長島玲子教授 井上千晶講師	両親学級 講師
24	NPO法人 なないろネット	12月21日	松本玄智江准教授	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」 講師
25	塩冶地区民生委員児童委員協議会	1月16日	山下一也教授	塩冶・今市・大津の民生委員・児童委員対象の講演会 講師

26	高松コミュニティセンター	1月18日	阿川啓子講師	地区民（主に高松地区寿会会員）を対象とした健康講演会	講師
27	川跡長生会連合会	1月25日	落合のり子准教授	川跡長生会連合会理事会での講演会	講師
28	上遙塔健康クラブ	2月14日	小田美紀子講師	上遙塔健康クラブでの講師	
29	NPO法人 なないろネット	2月15日	小川智子助教	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」	講師
30	雲南市三刀屋町鍋山地区 「躍動と安らぎの里づくり鍋山」	2月18日	松本亥智江准教授	雲南市三刀屋町鍋山地区 殿河内自治会学習会	講師
31	雑賀地区社会福祉協議会	2月23日	梶谷みゆき教授	雑賀地区住民を対象とした講演会	講師
32	知夫村	3月13日	山下一也教授	「認知症予防」講演会	講師
33	川本町社会福祉協議会	3月15日	山下一也教授	認知症講演会	講師
34	出雲医療生活協同組合	3月19日	吉川洋子教授	出雲医療生活協同組合員を対象とした健康教室	講師
35	島根県雲南保健所	3月20日	山下一也教授	平成29年度難病ボランティア養成講座	講師
36	NPO法人 なないろネット	3月29日	伊藤智子教授	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」	講師

(4) ぎんざんテレビ出前講座

◇目的

石見銀山テレビ放送が放映する健康講座を通して、地域住民に健やかな生活をおくるために役立つ幅広い知識を普及することにより、地域に貢献する。

さらに、石見銀山テレビ放送および大田市役所との連携により「かかりつけ医紹介」の番組を制作し、大田市住民の地域にある「かかりつけ医」の認知度・関心を上げる。

◇事業内容

- ①石見銀山テレビ放送と共同し、ケーブルテレビ番組「ぎんざんテレビ健康講座」を制作し、放映する。
- ②石見銀山テレビ放送および大田市役所と協働し、ケーブルテレビ番組「かかりつけ医紹介」番組を制作し、放映する。

◇事業実施状況

平成29年度は「ぎんざんテレビ健康講座」を6講座（表6）、「かかりつけ医紹介番組」を14本（写真）収録し、放送した。

表6 ぎんざんテレビ健康講座リスト

	出演者	テーマ		出演者	テーマ
1	助教 伊藤奈美	かくれ歯周病にご用心	4	教授 山下一也	認知症予防について
2	教授 梶谷みゆき	高齢者に優しい生活環境を考える	5	准教授 落合のり子	インフルエンザ
3	講師 阿川啓子	介護支援専門員の仕事について	6	教授 平野文子	緩和ケア



写真 「かかりつけ医紹介」番組 収録の様子

◇成果

今年度は、「ぎんざんテレビ健康講座」に加え、新たに「かかりつけ医紹介」番組を制作した。「かかりつけ医紹介」番組は平成28年度のCOC事業の取り組みの中で、大田市のニーズとして出されたものであり、地域のニーズに沿った番組となった。また、「かかりつけ医」紹介は、島根県立大学出雲キャンパスの学生がインタビューアールとしてかかりつけ医を訪問し、施設を紹介する番組構成であることから、学生の地域貢献にもつながったと評価する。

◇課題

石見銀山テレビ放送との連携事業も9年が経過した。今後は、制作した番組を効果的に活用する方法や、更なる地域のニーズに沿った番組作りを工夫していく必要がある。

2) 学生の地域交流・地域貢献

(1) 学生ボランティア活動の促進：学生ボランティア研修会

◇目的

研修を通して「ボランティアとは何か?」「学生がボランティア活動をする意義」について学ぶ。また、本学学生が実際に取り組んでいる活動を知り、「自分たちにできることは何か」「大学生活を通して何がしたいのか」について考える機会をもち、ボランティア活動への参加意欲を高める。

◇事業内容

出雲キャンパスの学生を対象に以下の内容で研修会を計画した。

◇事業実施状況

*日時：平成 29 年 5 月 17 日（水） 10：40～12：10

*場所：島根県立大学出雲キャンパス 大講義室

*内容

I 部 NHK で放送された「きらりキャンパス」の上映

在宅ボランティアサークルの活動紹介

副島彩希、若葉志保、他サークルメンバー

II 部 講演「ボランティア活動の魅力」

講師：島根県立青少年の家（サン・レイク）

濱野 健一 氏

III 部 学生によるボランティア活動の報告

① 3 キャンパス合同学生ボランティア交流会の報告

岩田雅衣、齋藤萌、鈴木佐江子、田中千尋、土山晴加、福島彩花、藤原理恵

② スポーツ活動や子どもとふれあうボランティア活動の報告

小泉幸ノ輔、南侑希

③ 経験や今後参加する予定のボランティアについて発表



◇成果

研修には、174 名（学生 164 名、教職員 10 名）が参加した。研修内容について、参加した学生の 8～9 割は「ボランティアに魅力を感じた」、「興味をもった」、「ボランティアをしたいと思った」とアンケートに回答していた。1 年次生は、ボランティア経験の報告をする 2 年次生の姿（話し方や立ち振る舞い）から、ボランティア活動が人間としての成長に繋がると実感していた。研修会の目的は達成できたと思われる。

◇課題

研修会では、多くの学生がボランティアへの参加意識が高まったと回答し、実際のボランティア活動にもつながっていた。

ボランティアの活動報告には、実際に経験している学生の経験談が一番心に響いている様子であった。1年次生は2年次生の姿をモデリングしボランティア活動のモチベーションが上がったと評価していた。このことから、次年度は学生同士の発表の機会を増やしていくことが活動の活性化に繋がると考えている。

(2) 学生ボランティア活動の促進：学生ボランティア・マイレージ制度・ボランティア活動保険の実施

◇目的

学生ボランティア・マイレージ制度とボランティア活動保険は、学生が地域でのボランティア活動等に積極的に参加するための学生ボランティア活動促進の制度である。マイレージ制度およびボランティア活動保険への学生登録を促し、適切な運用を実施する。

◇事業内容

- ①学生ボランティア・マイレージ制度とボランティア活動保険の説明と加入
- ②学生のボランティア活動実績に対しての、適切なポイントの付与
- ③ボランティア活動中の事故に対する保険の手続き

◇事業実施状況

- ①学生ボランティア・マイレージ制度とボランティア活動保険について説明し、1年次生、2年次生は全員登録、3年次生4年次生は任意登録とした。

- ②学生ボランティア・マイレージ制度実績（平成30年3月31日現在）

〈学生ボランティア・マイレージ登録者数〉

看護学科1年：86名、2年：80名、3年：82名、4年：82名、別科助産学専攻：18名
合計348名（前年比：109%）

〈ボランティア活動保険加入者数〉

看護学科1年：86名、2年：80名、3年：68名、4年：78名、別科助産学専攻：18名
合計330名（前年比：145%）

〈ボランティア活動報告書提出実人数〉

看護学科1年：41名、2年：27名、3年：3名、4年：2名、別科助産学専攻：0名
合計73名（前年比：109%）

前年度に比べ、1年次生の活動報告書の提出実人数は57名から41名に減少したが、2年次生は2名から27名と増加傾向にあり、全体では前年比109%と増加した。

〈ボランティア活動保険利用実績〉0件

◇成果

1、2年次生は、ボランティア活動の機会が多いため、ボランティア活動保険は、1、2年次生全員が加入することとした。安全性を確保することに繋がり、活動に参加しやすい環境になった。

◇課題

学生の活動報告に関して全学年共に少ない。報告書を多くの学生が提出するように、発表の機会を設けることや提出した報告書の活用をする等の工夫が必要と思われた。

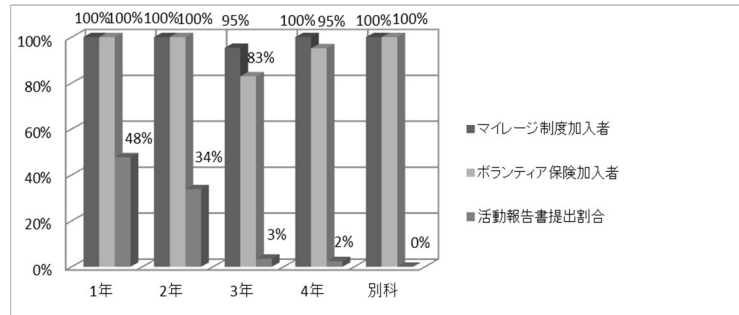


図1 学年別登録状況

(3) 学生ボランティア活動の促進：学生へのボランティア情報提供

◇目的

地域からのボランティア募集の情報を学生に周知しコーディネートすることで、学生ボランティア活動の推進をはかることを目的とする。

◇事業内容

地域からの学生ボランティア募集に対し、しまね看護交流センターを窓口、学生に対し情報を学内掲示およびメール等で発信し、ボランティア参加学生を募る。その結果を、地域の依頼団体へ連絡する。

◇事業実施状況

地域からの学生募集の実績（平成29年4月1日～平成30年3月31日）：センター窓口を通じての依頼は、59件であった。学生に対し、ボランティア活動を支援する目的で、学生が取り組んだボランティア活動を紹介する報告書を作成した。

◇成果

福祉関係のボランティア参加者は約100名いた。また、今年度はスポーツなどの文化に関するボランティア参加や、ブラジル人を対象とした日本語教室への協力など、国際交流に関するボランティアに参加した学生もいた。

また、学生自ら出雲市総合ボランティアセンターへボランティア活動をする目的で問い合わせに出向き、ボランティアセンターと参加する団体との調整も実施した。

◇課題

福祉、子どもに関するボランティア活動依頼は多くあり、看護系大学であることの強み

を活かし学生自身も積極的に参加している。しかし、広い視野形成を目的にするならば様々な活動に参加することも重要と考える。そのような様々なボランティア活動への参加という目的からすると環境や国際に関する募集依頼が無いことが課題と思われる。

表7 学生ボランティア活動状況

(H29. 4. 1～H30. 3. 31)

ボランティア募集依頼・参加件数(センター受付)			募集依頼件数	参加者数	報告書提出件数
番号	内	容			
1	福祉	福祉・・・高齢者・障がい者などさまざまな生活環境を抱える人たちへの支援 障がいのある子どもの支援 医療、保健・・・病院でのボランティア活動。心に病を持つ人への支援、相談援助	29	97	49
2	子ども	子育て・・・乳幼児保育サービス、共同保育、育児サークル等 健全育成・・・青少年非行防止活動、子ども会等の育成活動等	11	26	23
3	環境	自然環境保全・自然保護、森林保全、地域環境保全、河川のクリーン活動等 公害・エネルギーリサイクル活動、ゴミの減量化、公害の防止等	0	0	2
4	地域	まちづくり・・・都市計画や公共施設建設などでの市民参加、福祉まちづくり、 地域おこし、観光ボランティア 災害支援・・・防災活動、災害時の救護、支援活動	9	12	33
5	文化	芸能文化・・・美術館、博物館での活動。地域文化の保全、育成 スポーツ・・・スポーツ活動への支援、障がい者スポーツへの参加協力 教育・・・学校教育や社会教育、生涯学習活動への協力	10	36	45
6	国際	国際協力・・・海外協力、日本にいる外国人の支援、難民支援 国際交流・・・国際文化交流、通訳ボランティア、外国語講座、日本語講座等	0	0	10
7	その他	どれにも分類しがたいもの	0	0	5
合 計			59	171	167

(4) 学生ボランティア活動の促進：3キャンパス合同学生ボランティア交流会

◇目的

島根県立大学の松江、出雲、浜田の3つのキャンパスは、学部、学科が違うことからそれぞれのキャンパスに特色がある。継続的なキャンパス間の学生交流の一環として、3キャンパス合同でそれぞれのキャンパスの特色を活かしたボランティアを企画、実行することを目的とする。

◇事業内容

3キャンパスの学生有志で構成されるメンバーが集い、平成29年度に実施する3キャンパス合同学生ボランティア活動を企画して実施した。

◇事業実施状況

【3キャンパス合同学生ボランティア交流会】

*日 時：平成29年7月2日（日） 11：00～16：00

*場 所：浜田キャンパス

*参加者：〈学生〉出雲キャンパス：5名、浜田キャンパス・松江キャンパス：20名

合計25名

〈教職員〉 3キャンパス合計8名

*内 容：交流会&ボランティア企画

各キャンパスからボランティア活動の報告をする。各班に分かれて、どのようなボランティア活動を行うか企画案を作成する。

【3キャンパス合同学生ボランティア活動&交流会】

*日 時：平成29年11月18日（土）、19日（日）

*場 所：美川公民館（浜田市）

*参加者：〈学生〉17名（出雲キャンパス：7名）
〈教職員〉6名



*主 旨：3キャンパスの学生がボランティア活動に

よるつながりをつくることを目的とする。春の交流会で企画した案を基に実際にボランティア活動に取り組み、ボランティアの意義を考える。

*ボランティア活動内容：地域活性プロジェクトの運営（芋煮会）の運営補助活動

◇成果

学生は、他キャンパスの学生と企画・運営・実施をすることで看護学部以外の大学生と交流を深めていた。さらに、高齢化率42.5%の美川地区という島根県の中山間地域の人々と触れ合うことで、高齢化が進むことに伴う日常生活の困難な点も学修し、学生自身ができる事について検討する機会にもなった。

◇課題

参加するボランティア企画を決定するのに時間を要したため急遽日程が決定した。その為に、当初参加を希望していた学生が参加できなかった。次年度は、学生主体で活動し運営できるような支援が必要と思われる。

活動報告書からの抜粋

第61回出雲市消防団出雲方面隊消防操法大会

看護学科2年 岡村 京香・倉橋 彩香

消防士さんの活動を間近に見たことがなかったのでとても新鮮でかっこ良かったです。ボランティア活動では、開会式の入場行進でのプラカード持ち、ホースの水を拭き取るなど様々な活動をすることができました。消防士さんは300~400人くらい集まっていました。優勝候補の分団が行うときには会場がシーンとなっているのを感じました。毎日仕事終わりに集まって訓練をしておられる方々に感謝をしなければいけないと感じました。普段みることのできない貴重な体験をすることができて良かったです。



さんべ冬ステージ・準備編

看護学科2年 田中千尋

準備編では、全てが自由だった。

さんべ冬ステージに参加する子ども達の危険リスクを考えたり、参加者がどのようにしたら楽しめることができるのかを考えるのは、大変だったけど、やりがいがあった。



フィジー：栄養と糖尿病保健プログラムに参加して

看護学科1年 石田 菜々美 2年 鈴木恵美子 3年 加藤諄美
ヤヌヤ島にて、村の住民を対象に健康教育（食事のバランス/活動（運動）の必要性/ブラッシングの手順、歯ブラシの持ち方）や村の小学校の先生方の身体計測を行った。また、子ども達の学習環境が整うように清掃の実施をした。主な活動場所は小中学校であり、子ども達には分かりやすく伝えるために紙芝居風での発表にした。また、同時に日本についても紹介したことで子ども達の視野を広げることができた。健康”についてあまり目を向けることができない環境（離島であり、保存食品が主食）の中で、どのように村の住民の意識を変えればいいのか非常に難しかった。今は学生であることから基本的な生活習慣病予防対策しかできない。今後より実践的な知識を見つけ、医療従事者の目から健康対策を行いたいと改めて感じた。



私たちは、グローバル・ドリーム・ハントの助成金でボランティア活動に参加しました。

3) 教育機関との連携

(1) 小中高校等出前講義

◇目的

小中高校生のための保健医療福祉に関する講義の依頼に応じる。

◇事業内容

センターあるいは教員に小中高校から講師依頼があった場合、講師を調整し講義を実施した。

◇事業実施状況

表 8 平成 29 年度 小中高校等出前講義実施一覧

実施日	テーマ・内容	実施教員	場 所
6月22日	島根県助産師会バースディプロジェクト いのちの楽習出前講座	植田恵助教	荒茅保育園
7月13日	島根県助産師会バースディプロジェクト いのちの楽習出前講座	植田恵助教	出雲市立直江保育所
7月14日	「寝る子は育つ」～睡眠の大切さについて～	小田美紀子講師	隠岐の島町立都万中学校
10月6日	性について一緒に考えてみましょう	狩野鈴子准教授	島根県立三刀屋高等学校
10月17日	「寝る子は育つ」～睡眠の大切さについて～	小田美紀子講師	益田市立東陽中学校
11月1日	島根県助産師会バースディプロジェクト いのちの楽習出前講座	植田恵助教	ひかり保育園
12月19日	こころが「前向き・やる気・元気」になるためには！	小田美紀子講師	美郷町立邑智中学校
1月23日	エイズに対する理解と予防	狩野鈴子准教授	浜田市立金城中学校
1月31日	体のはたらきや心の変化	狩野鈴子准教授	出雲市立荘原小学校
2月15日	いのちの大切さ、自分を大切に	狩野鈴子准教授	出雲市立第二中学校

◇成果

今年度は、バースディプロジェクト「いのちの楽習出前講座」、「寝る子は育つ～睡眠の大切さについて～」、「性に関するテーマ」など延べ10件の講義に3人の講師を派遣した。講義を受講した児童・生徒や保護者からは、多くの質問や感想がでており、講座に対する関心の高さが伺えた。



◇課題

今年度も助産領域に関するテーマのニーズが多くみられ、担当教員に偏りが生じた。多くの教員が出前講座のテーマを設定しているが、今後は小中高校生の健康維持に関する課題を捉え、出前講座を計画していくことも必要と考える。

(2) 小中学校体験学習

◇目的

小中学生のための保健医療福祉に関する体験学習の依頼に応じる。

◇事業内容

小中学校からの依頼により、保健医療福祉に関する体験学習の内容を計画し、小中学校の教員と連携して実施する。

◇事業実施状況

〈第1回〉

*日時：平成29年6月16日（金） 10:00～11:30

*対象：出雲市立神西小学校3年生 37名

*内容：①高齢者の眼の見え方と指先の動き ②車椅子体験

③ブラインドウォーク&視覚障害者へのてびき

〈第2回〉

*日時：平成29年9月12日（火） 9:00～12:00

*対象：出雲市立高松小学校5年生 99名

*内容：①高齢者の眼の見え方と指先の動き ②車椅子体験

③ブラインドウォーク&視覚障害者へのてびき

◇成果

今年度は、2件の依頼に対し体験学習を実施した。体験の中から、困っている人に対して安心してもらえるための声かけや工夫をみんなで考えることができた。

◇課題

体験型の学習には複数の教員配置が必要となる。例年、依頼が秋学期に偏り、本学教員のスケジュール調整が難しいことから、今年度は、実施時期を教員のスケジュールが比較的確保しやすい4月～9月に限定し、その中で小学校と調整して実施した。

今後も多くの教員で安全に体験学習をサポートできるよう、依頼先には時間的な余裕をもって実施希望日を知らせてもらうよう周知を図る。



4) 産公学連携

(1) 包括協定締結自治体との連携

◇目的

包括協定を締結している自治体との連携を図ることにより、地域社会のニーズや課題に対応する事業を協働で企画・実施する。

◇事業内容

包括連携協定を締結している松江市・出雲市・浜田市・益田市及び隠岐の島町との連携協定に基づく具体的事業について、個別に協議しながら取り組みを展開する。自治体との協力について、具現化のために学内調査を行い、合意に至った事業から順次実施する。

◇事業実施状況

- ①出雲市と協働で児童虐待防止推進研修事業を行った。
- ②出雲市と協働で平田地区介護予防教室事業を行った。
- ③出雲市消防本部からの協力要請に応え、出雲市消防団の活動をPRする「出雲市消防団学生ボランティアサポート隊」の発足にあたり、出雲市消防本部と連携を図った。本学の学生が、出雲医療看護専門学校の学生と共にサポート隊として、消防操法大会の運営の補助や、全国火災予防運動の啓発活動等に参加した。
- ④出雲市から支援を受けているサテライトキャンパスの活用事業について検討し、出雲市の保健師等の協力を得て、学生の企画による、市内在住のブラジル人を対象とした医療機関受診講座の実施を支援した。
- ⑤隠岐の島町の協力を得て、看護学部2年次生、看護学研究科生のフィールドワークを実施し、人材育成のための連携を図った。

◇成果

出雲市との協働事業については、P. 95～P. 98 参照。

◇課題

出雲市と協働で実施している児童虐待防止推進研修事業、介護予防教室事業については、これまで数年間継続して実施している事業であり、認知度も上がり、成果も現れている。

ブラジル人への支援については、今後も、出雲市をはじめ関係団体と連携を図りながら、サテライトキャンパスを拠点に、具体的な取組につながるよう事業を検討していく。

他の自治体についても、事業の具現化に向け、更なる連携を図る必要がある。

(2) 受託研究

◇目的

自治体、関係団体、企業等からの受託研究についての依頼に対し、調整し、実施につなげる。

◇事業内容

平成 29 年度は、以下の研究を受託し、実施した。

*委託元：株式会社しちだ・教育研究所

*内容：「七田式いきいき脳開発プログラム」（江津市嘉久志地区）実施支援

上記の事業で計画されている被験者の認知機能検査等の結果解析

研究受託費 192,430 円

*出雲キャンパス研究担当者：伊藤智子（教授）

◇事業実施状況

5 か月間「しちだ脳トレ」（デイリープリントと集合研修）を行った人の認知機能評価を行った。

*評価内容：1) HDS-R 長谷川式簡易知能検査

2) MMSE ミニメンタルステート検査

3) FAB 前頭葉機能検査

4) やる気指数 Apathy

5) うつ指標 SDS

*調査時期：平成 29 年 6 月～10 月

*参加者：22 名（男 9 名 女 13 名） 平均年齢 73.5 歳

◇成果

4 か月の「しちだ脳トレ」にて、22 名の参加者の認知機能に有意な変化はほとんど見られなかったが、見当識、遅延再生の得点は上昇した。MMSE、FAB の総合点も有意な差はなかったが、上昇した。やる気指数得点については、有意に低下していたことから脳トレ前後でやる気が上昇したことがわかった。

◇課題

今後も結果解析の委託希望があれば、対応する。

(3) 受託事業：出雲市 児童虐待防止推進研修事業

◇目的

年々深刻化する児童虐待の現状を市民一人一人が理解し、適切に対応できる力量を高め

ること、また、児童虐待が複雑、多様化する中で当事者を支援する地域の支援ネットワークづくりの強化が必要とされている。今年度は、日常の親子関係のあり方や虐待を予防する日常の子育て支援について理解を深め、また、保健医療福祉のネットワークづくりの強化に向け、関係者の行動につながる研修会とする。

◇事業内容

出雲市要保護児童対策地域協議会（事務局；出雲市子ども政策課）と出雲キャンパス（スタッフ6名）協働による、3回の児童虐待防止と対応講座の企画・実施を行う。会場は、島根県立大学出雲キャンパスの大講義室および217講義室を利用した。

事業受託料：400,000円

◇事業実施状況

表9 プログラム概要と参加者数

	第1回	第2回	第3回
日時	平成29年6月17日(土) 13:20～16:30	平成29年10月15日(日) 13:20～16:30	平成29年12月23日(土) 13:20～16:30
テーマ	地域で子どもの育ちを支援する	妊娠前から切れ目のない支援のために	子どもも大人も安心して暮らせる地域づくり
内容	<p>【講演】 「育てにくさ・育ちにくさにどう向き合っていくか —どのように地域をつくっていくか—」 ・講師：牧 真吉氏 （日本福祉大学教授 精神科医）</p> <p>【報告】 「島根県における児童虐待対策について」 ・講師：三成 洋氏 （島根県出雲児童相談所 所長）</p>	<p>【パネルディスカッション】 「妊娠前から切れ目のない支援のために」 〈パネラー〉 ・吉野 和男氏 （吉野産婦人科医院 院長） ・小村 俊美氏 （小村臨床心理士事務所 所長） ・福間 紀子氏 （出雲市役所健康増進課 課長 補佐） 〈コーディネーター〉 ・牧野 由美子氏 （島根県出雲保健所 所長）</p>	<p>【講演】 「子どもの貧困と地域づくり」 ・講師：湯浅 誠氏 （法政大学現代福祉学部 教授）</p> <p>「島根県におけるひとり親の支援対策について」 ・講師：松浦 恭子氏 （島根県健康福祉部青少年家庭課 母子福祉グループリーダー）</p>
参加者数	111名	70名	105名

◇成果

今年度は「子どもの育ちを支援する地域づくり」をテーマに講座を組み立て、第1回目に精神科医の牧氏、第3回目に社会活動家の湯浅氏に来ていただいた。いずれも100名を越える参加者があり、関心の高さがうかがえた。第2回目のパネルディスカッションは、あえて昨年度と同様のテーマにし、今年度出雲市に開設された、子育て世代包括支援センターの紹介も含めて行い、地域におけるネットワークの構築について考える機会となった。

◇課題

本事業は今年度で7年目を迎えた。事業としては、その周知度が上がり、比較的安定した参加人数が得られるようになった。しかし、専門職を中心に繰り返し参加する人が多い一方で、一般の参加者はそれほど多くないのが現状である。今後は、一般市民向けの企画も充実させ、児童虐待に対する、市民全体の意識を高くするような研修会を工夫する必要がある。

◆詳細については、「平成29年度児童虐待防止推進研修事業報告書第7巻」参照

(4) 共同事業：出雲市 平田地区介護予防教室事業（平田いきいき会）

◇目的

出雲市と島根県立大学出雲キャンパスの協働により、平田地区の一般健常高齢者を対象とした認知症予防プログラム（回想法やボールやラダーを用いた脳トレ）、セラバンド運動などの介護予防教室を実施し、認知機能や身体機能の維持改善、事業実施後の継続した取り組みにつなげる。また活動を通して地域での活動に関わる人材の育成、地域のネットワークづくりを図ることを目的として実施している。

◇事業内容

*期間：平成29年6月7日～平成30年3月14日

*共同事業経費：660,000円

*関連機関：出雲市医療介護連携課介護予防係、平田支所市民福祉課

*出雲キャンパス事業担当者：7名（山下一也、平松喜美子、吉川洋子、川瀬淑子、
林健司、松本祐香、工藤祐司）

今年度は参加者が増えたために回想法を開催するときは2名の非常勤者を依頼した。

◇事業実施状況（★詳細については、平成29年度「平田いきいき会報告書」参照）



*参加者：31名 延べ出席者は307名(1月10日まで)。80歳代が22%であった。

平均年齢75.6歳（60歳～91歳）。

*介護予防教室：測定と報告会等を含め19回開催した。最初にオロリン体操や出雲市いきいき体操でストレッチを行い、テーマを設定した「グループ回想法」と「ミニ講和+セラバンド運動と脳トレ運動」を交互に月2回のペースで実施した。最後に全員で唱歌を歌った。会員同士の交流を図るために、参加者の住所録の配付や、一畑薬師寺にトレッキングの目的でバスツアーを実施した。また、参加者に出席簿にカラーのシールを貼ってもらい、参加が継続できるための動機付けとした。

◇成果

現在も進行中のため、「社会の関心」、「身近な社会参加」、「長谷川式認知症機能評価」の結果がでていない。6ヶ月後の身体機能は、内臓脂肪レベルや体脂肪率は増加し、骨量は

低下した。筋肉量や脚点の平均値に変化はなかったが、個々の変化をみると増加した人の割合が多くなった。血圧は安定していた。

◇課題

参加者の年齢層が広いため、回想法のテーマや運営方法などについて再検討を要する。

(5) N P O 法人・関係団体・企業との連携：いずも産業未来博 2017 への出展

◇目的

N P O 法人・関係団体・企業との連携を図る。

◇事業内容

N P O 法人 21 世紀出雲産業支援センター主催「いずも産業未来博 2017」に出展した。

◇事業実施状況

*日時：平成 29 年 11 月 3 日（金）、4 日（土） 10:00～16:00

*場所：出雲ドーム（出雲市矢野町 999）

*参加者：3 日（金）教職員 5 名、学生 5 名、4 日（土）教職員 4 名、学生 4 名

*展示内容：「島根県立大学看護学部 しまね看護交流センター」として 2 ブース使用

■島根県立大学紹介 大学案内パネル展示、大学のぼり、交流センター紹介ポスター

■地域貢献活動 骨密度測定、各種パンフレット配布

■本学の教育の紹介 血圧測定、赤ちゃんのモデル人形

■研究 研究成果ポスター展示：山下一也、石橋照子、松本亥智江
小田美紀子、藤田小矢香、川瀬淑子
林健司、松谷ひろみ、梶谷麻由子

エゴマに関する開発品の展示：山下一也

オロリン体操映像放映：石橋鮎美

■子供のナース服の試着

■配布 大学オリジナルクッキー、広報誌オロリン、大学案内（大学入
学生募集要項）、しまね看護交流センター・認定看護師教育課
程リーフレット、大学院リーフレット

◇成果

*ナース服試着体験、赤ちゃんのモデル人形体験は、子供から大人まで大勢の来場者で賑わい好評であった。

*骨密度測定は測定希望者が多く、関心の高さが伺えた。短時間で測定できたため、待ってもらわなくてスムーズに行えた。

*学生は、測定や子供たちへの対応を笑顔で積極的に行ってくれた。学生からも「楽しか

った。また来年も参加したい。」と感想が聞かれた。

*研究ポスターや、エゴマ商品に関心を示す来場者もあり、大学の研究成果を広く紹介することができた。

*フェアのイベント「あなたが選ぶNo.1 ブース選挙」の「学校、行政・公的機関部門」において昨年同様優秀賞を受賞した。副賞賞金は学生自治会へ寄付をした。

◇課題

運営にあたり学生の協力を得ることで、来場者に大学の教育・研究を広く紹介することができた。一方で、学生の確保が困難だったことから、今後、学生自身が関心を持ち、自ら学習成果を発表したいと思えるような企画を検討していく。



(6) 各種審議会・委員会等への参加

◇目的・事業内容

教職員が各種審議会・委員等の委員活動を通して地域に貢献する。

◇事業実施状

平成 29 年度は 68 件の各種審議会、委員会等へ所属し、活動を行った。

表 10 平成 29 年度に教員が参加した審議会・委員会

依頼元	名 称
文部科学省初等中等教育局	教科用図書検定調査審議会専門委員
国土交通省中国地方整備局	斐伊川水系河川整備アドバイザー会議委員
島根大学医学部	島根大学医学部医の倫理委員会委員
	島根大学医学部等臨床研究利益相反マネジメント委員会委員
島根県総務部	島根県公務災害補償等審査会委員
	島根県行政不服審査会委員
島根県環境生活部	島根県人権施策推進協議会委員
	しまね働く女性きらめき応援会議構成員
島根県健康福祉部	島根県国民健康保険運営協議会委員
	島根県医療勤務環境改善支援センター運営協議会委員
	島根県自死総合対策連絡協議会委員
	島根県障がい者自立支援協議会 退院支援部会委員

	島根県准看護師試験委員
	島根県福祉サービス第三者評価推進委員会委員
	介護職員の行う医療的ケア関係業務に関する検討委員会委員
	島根県緩和ケア総合推進委員会委員
	島根県社会福祉審議会委員
	島根県がん対策推進協議会委員
	島根県看護教員継続研修検討会委員
島根県出雲保健所	出雲圏域健康長寿しまね推進会議委員
	平成 29 年度出雲圏域母子保健推進協議会構成員
島根県商工労働部	島根県ヘルスケア産業推進協議会委員
島根県土木部	島根県河川整備計画検討委員会委員
	島根県建築審査会委員
	島根県都市計画審議会委員
	島根県営住宅浜田中央団地（仮称）福祉施設運営事業者選定委員会委員
	島根県水防協議会委員
島根県出雲県土整備事務所	出雲地区新型インフルエンザ等対策推進会議構成員
島根県企業局	島根県企業局経営計画評価委員会委員
島根県立中央病院	島根県立中央病院地域医療支援病院運営委員会委員
	島根県立中央病院臨床研究・治験審査委員会委員
島根県教育委員会	島根県立松江南高等学校学校評議員
島根県立青少年の家	島根県立青少年の家運営委員会委員
出雲市総合政策部	出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員
出雲市子ども未来部	出雲市子ども・子育て会議委員
出雲市市民文化部	出雲市男女共同参画推進委員会委員
出雲市経済環境部	出雲市環境審議会委員
出雲市都市建設部	出雲市建築審査会委員
出雲市教育委員会	出雲市特別支援教育推進委員会委員
	出雲市社会教育計画査定委員会委員
出雲市上下水道局	出雲市水道事業推進懇話会委員
大田市健康福祉部	大田市障がい者自立支援協議会委員
雲南市健康福祉部	雲南市健康づくり推進協議会委員

(公社) 島根県看護協会	島根県看護協会 緩和ケア推進委員会委員
	助産師出向支援導入事業協議会委員
	島根県看護協会 教育事業委員会委員
	島根県看護協会 学会委員会委員
	島根県看護協会 日本看護学会－精神看護－学会準備委員
	島根県看護協会 看護師職能委員会 I 委員
	島根県看護協会 保健師職能委員会委員
	島根県看護協会 助産師職能委員会委員
	島根県看護協会 男性看護師委員会委員
	島根県ナースセンター運営協議会委員
	島根県ナースセンター看護相談員
(公社) 鳥取県看護協会	鳥取県看護協会 看護研究学会委員会委員
(公社) 島根県看護協会出雲支部	島根県看護協会 出雲支部役員
(公社) 日本産業衛生学会	日本産業衛生学会産業看護部会幹事
日本産業看護学会	日本産業看護学会産業看護学体系化検討委員会中国地方ワーキンググループリーダー
日本医学看護学教育学会	日本医学看護学教育学会役員
(一社) 川本 6 次産業化ネットワーク	一般社団法人川本 6 次産業化ネットワーク理事
(公財) 島根県環境保健公社	健診データ活用委員会委員
(公財) ヘルスサイエンスセンター島根	がん対策募金審査委員会委員
(学) リハビリテーションカレッジ島根	リハビリテーションカレッジ島根あり方検討委員会委員
島根県住宅供給公社	島根県住宅供給公社理事
島根県土地開発公社	島根県土地開発公社理事
邑智郡食事栄養支援協議会	邑智郡食事栄養支援協議会役員(顧問)
(株) 海産物のきむらや	技術顧問
特定非営利活動法人なないろネット	特定非営利活動法人なないろネット役員

5) 広報・広聴活動

(1) ホームページ等を活用した最新情報発信

【ホームページによる情報発信】

◇目的

センター事業の全体を把握し、情報発信の方針に基づきタイムリーに情報の精選と発信を行う。

◇事業内容

地域連携推進部の事業内容について適宜ホームページにアップするよう、各事業担当者に働きかける。

◇成果

各事業担当者が、事業実施内容についてタイムリーに情報発信するように心がけ、年間を通じてセンターの取り組みについて広く紹介することができた。

◇課題

事業実施後の情報発信がタイムリーに行えないときがあったため、今後も定期的に事業担当者に成果報告についての情報発信を促していくことが課題である。

【ラジオ番組による情報発信】

◇目的

島根県立大学出雲キャンパスの教員、学生達が、FMラジオを通じて、等身大の話題や「看護学部」としての活動、研究内容等の情報を広く届けることにより、地域住民の方々に出雲キャンパスをより理解していただく機会とする。さらに、学生が「社会に向けて発信する」ことの楽しさ、難しさを学ぶことにより、人材育成を図る。ラジオによる継続的な情報発信を実施している大学は、大手の大学に限定されている状況であり、今後も大学の広報活動の一環として関わっていく予定である。

◇事業内容

出雲キャンパスの山下研究室において収録し、「FMいずも」(80.1MHz)で週1回、放送している。毎回、山下一也副学長と1～3名の学生が出演し、様々なテーマを取り上げ、学生の視点でメッセージを発信している。テーマは、時事問題から若者が日ごろ考えている世の中の悩みや疑問まで幅広く扱っている。

◇事業実施状況

番組名：IZUキャンLife (毎週金曜日 20:30～21:00 放送)

◇成果

4月から1月まで、女子学生35名、男子学生3名に、学年も1年から4年、別科学生にも登場していただいた。さらに、学生の関係でアルバイト先の人にも登場してもらった。

今年度については、学生生活、異文化理解研修、ドリームハント事業などの多岐にわたり、また大学祭の宣伝のために自治会にも出演してもらった。リスナーからも時々肯定的なご意見をいただいた。

◇課題

定期試験期間中などは学生に登場していただくことが難しく、確保が課題である。今後、本番組を通じてさらに本学の広報を行えるように努力している。

(2) キャンパスモニター会議

◇目的

大学近隣の出雲キャンパスモニターの方々へ、本キャンパスの運営や事業、地域貢献活動について説明し、理解を深めていただくと同時に、出された意見を本学の今後の活動に反映させることを目的とする。

◇事業内容

本キャンパスの看護教育活動や地域貢献活動を紹介し、学生の教育環境や安全対策について意見交換を行う。

◇事業実施状況

〈第1回キャンパスモニター会議〉

*日 時：平成29年6月23日（金） 13:10～14:40

*場 所：島根県立大学出雲キャンパス 大会議室

*参加者：キャンパスモニター7名、副学長、しまね看護交流センター長、看護学部長、別科長、地域連携推進委員会委員、事務室長、管理課長、教務学生課長

〈第2回キャンパスモニター会議〉

*日 時：平成30年2月20日（火） 10:30～12:00

*場 所：島根県立大学出雲キャンパス 大会議室

*参加者：キャンパスモニター7名、副学長、しまね看護交流センター長、看護学部長、別科長、地域連携推進委員会委員、事務室長、管理課長、教務学生課長

◇成果

モニター会議では、学生の教育環境や安全対策について質問があり、本学に関心を持って参加していただいた。モニターの果たす役割等について活発な意見交換が行われ、貴重な意見をいただいた。

◇課題

今後も意見や感想をいただき、さらに地域に開かれた大学を目指していく。



(3) ジュニア・シニアキャンパスツアー

◇目的

ツアーをとおしてキャンパスの広報活動を行うとともにシニア・ジュニアの健康学習の場とする。

◇事業内容

看護職および出雲キャンパスの概要説明、施設見学を行い、本学の理解を深める。

◇事業実施状況

【ジュニアキャンパスツアー】

依頼なし

【シニアキャンパスツアー】

〈上遥堪健康クラブ（大社地区）〉

*日 時：平成 29 年 9 月 15 日（金）

*参加者：14 名

*内 容：講義「ロコモティブシンドロームのお話」：林健司講師

学内見学（216 実習室、パソコン実習室、大講義室）

〈大社町民生委員児童委員協議会〉

*開催日：平成 29 年 10 月 17 日（火）

*参加者：15 名

*内 容：大学の紹介：吉川洋子しまね看護交流センター長

講義「認知症について」：梶谷みゆき教授

学内見学（216 実習室、図書館）

〈えにしの会（高浜地区）〉

*開催日：平成 30 年 2 月 13 日（火）

*参加者：14名

*内容：大学の紹介：吉川洋子しまね看護交流センター長

講義「こころを元気にする『自分流』ストレス解消法」：落合のり子准教授

学内見学（216 実習室、5号館中講義室、図書館）、学食体験

◇成果

本キャンパスへの理解を深めるとともに、健康意識を向上する機会となった。

◇課題

多くの方に本キャンパスの魅力を知っていただくために、ホームページ等の広報活動で広くPRしていく必要がある。



《松江キャンパス》

平成 29 年度 公立大学法人島根県立大学
地域連携推進センター松江キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成 29. 4. 1～平成 30. 3. 31)

職 名	氏 名	備 考
教 授	山下 由紀恵	<ul style="list-style-type: none"> ・しまね地域共生センター長 ・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携推進委員会委員長
教授	名和田 清子	地域連携推進委員会委員 (公開講座・学生ボランティアの推進)
助手	川谷 真由美	
講師	梶間 奈保	地域連携推進委員会委員 (教育連携協議会・連携協定機関を含む教育機関、並びにその他高大連携及び地域志向教育の推進)
講師	渡部 周子	地域連携推進委員会委員 (研究連携協議会・COC 研究紀要発行を含む地域志向研究の推進)
地域連携課長	的場 好信	事務局委員
主事	錦織 彩	事務局委員
嘱託員	藤原 香緒里	事務局委員
コーディネーター	赤名 文	COC 事業担当

松江キャンパス：地域連携活動概要

しまね地域共生センター センター長 山下 由紀恵

平成 29 年度の松江キャンパス地域連携推進センターでは、(1) 地域自治体との共同研究を含む地域志向研究事業、(2) 新たな「社会人の学び」体制構築に向けた「履修証明プログラム」開設および公開講座推進、(3) 学生地域ボランティア活動を含む地域教育連携事業の 3 つを軸に活動した。正課授業・卒業プロジェクト・サークル活動を通して、あるいは学科、グループ・個人の単位でも、活発な地域貢献活動が行われた。

文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」の推進にむけて、キャンパス・プラットフォームとして設置された「しまね地域共生センター」により、地域連携活動の窓口の一本化をはかり、地域志向の研究と教育活動の推進につとめた。以下の目次に従って、松江キャンパスの地域貢献活動をまとめることにする。

1. 地域に関する教育・研究活動
2. 「社会人の学び」体制構築、公開講座・講演会等の開催
3. 地域活性化支援
4. 教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携
5. 教育課程のための地域の施設・機関との連携
6. 学生による地域貢献活動
7. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動

平成 29 年度の特筆すべき活動は、「しまね地域共生センター」による「履修証明プログラム」の体制構築であった。履修証明プログラム単元受講者は平成 28 年度からの 2 年間コースでのべ 190 名、単元修了者は 156 名であった。履修証明プログラム受講者のうち 3 名が 120 時間以上のプログラム履修を達成し、学校教育法上の履修証明書交付の対象となった。うち 2 名は 120 時間中 68 時間以上を COC2-Net による e-ラーニングで達成した。COC2-Net の社会貢献での実績は大きかったといえる。

学生のボランティア活動についても、「しまね地域共生センター」で統括し、ボランティアを含む学生の「地域活動」の強化支援を図った。学生主体のボランティアサークルによる、地域自治体との連携ボランティア活動、学生と地域団体による地域活性化のためのネットワーク作りなど、学生の自主的な活動が成果を発揮した。今後とも、「地域をキャンパスに」「キャンパスを地域に」の精神を念頭に置き、地域のニーズにこたえる地域貢献活動を継続していきたい。

1) 地域に関する教育・研究活動

(1) 地域志向科目の位置づけ

3 キャンパス共通必修科目「しまね地域共生学入門」を平成 28 年度から松江キャンパスでも開講し、遠隔講義システム・エニキャストにより授業を運営している。平成 29 年度の松江キャンパスからの分担教員は 3 名、総括は副学長であった。エニキャストによる授業中継は円滑に行われた。平成 29 年度は 3 学科 1 年 231 名が単位を取得し、3 キャンパスでの地域志向教育を着実に推進することができた。松江キャンパスでは最終回出席者 207 名に「しまね地域共生学入門を学んだ感想」をアンケート集計したが、201 名 (97%) が肯定的な授業評価を行っていた。

「地域志向」を含む科目は、COC 事業 5 か年後の終了時の目標を 25 科目に定めて事業を推進してきたが、平成 26 年度以降は、35 科目以上の「地域志向科目」が既設されている。平成 29 年度は 36 科目であった。平成 27 年度 28 年度に引き続き、平成 29 年度も「地域志向科目」についての学生の履修後アンケートを実施し、担当教員他キャンパス会議で結果を通知して改善につなげた。授業評価を開始した平成 27 年度は、山陰の出雲地方について「地域志向科目」が集中している実態があり、学生はより広範な地域学習を希望していることが分かったため、その結果をキャンパス会議で周知させ、各担当教員にもデータを渡す等連絡したが、平成 29 年度の授業アンケートの結果、学生の希望により、より広域の地域志向教育へと改善が行われていたことがわかった。「地域志向科目」の開発上、授業評価による改善検討が有意義に行われたといえる。これらの改善を踏まえて、平成 30 年度以降、新学部では「しまね地域マイスター認定制度」の運用を開始する。

平成 29 年度「地（知）の拠点整備事業」における地域に関する学修を行う授業科目一覧

分野区分		科目名
基礎科目	人間と世界の理解	しまね地域共生学入門
		読み聞かせの実践

健康栄養学科

分野区分		科目名
専門科目	専門基礎	栄養士スキル I
		栄養士スキル II
	食品と衛生	食品機能論
	地域と食生活	地域の特性と食材利用
	卒業研究	卒業研究

保育学科

分野区分		科目名
専門科目	福祉・保育	社会的養護
		障害児保育Ⅰ
		障害児保育Ⅱ
	卒業研究	卒業研究

総合文化学科

分野区分		科目名
共通専門科目	世界を知る	アジア文化交流
		アジア文化演習
	山陰を知る	小泉八雲入門
		へるん探求
		へるん作品鑑賞
		島根の祭りと芸能
		山陰の民話とわらべ歌
	基幹科目	出雲古代史
文化資源学系	地域を「知る」「考える」	卒業プロジェクト
		地域文化研究
		地域探検学
		ミュージアム論
		しまねツーリズム論
		住生活学
	観光資源学	

総合文化学科

分野区分	科目名	分野区分
文化資源学系	地域を「歩く」「書く」	文化情報誌制作
		歴史的建造物の検証
		地域デザイン論
英語文化系	英語とコミュニケーション	文化とガイド
	英語コミュニケーションの実践	観光フィールド・トリップ
日本語文化系	日本のことばと文学	日本古典文学入門
		日本古典文学を歩く
		社会言語学
	日本の文化と歴史	松江の文化と歴史
		しまね歴史探訪

(2) 『しまね地域共生センター紀要』刊行

「地域志向研究」の公表の場としてのセンター紀要第4号は、平成30年1月30日に刊行された。平成26(2014)年度第1号から平成29(2017)年度第4号まで、COC事業期間中の地域研究成果発表の場として刊行され、その間、以下の通り研究成果の地域発信を行ってきた。(学科別の集計は、筆頭執筆者の所属による。)

・平成26(2014)年度第1号

発表件数11編(研究論文5編・実践報告4編・調査報告1編・研究ノート1編)(健康栄養学科3件・保育学科4件・総合文化学科4件)

・平成27(2015)年度第2号

発表件数14編(研究論文8編・実践報告4編・調査報告1編・研究ノート1編)(健康栄養学科3件・保育学科4件・総合文化学科5件、学外2件)

・平成28(2016)年度第3号

発表件数5編(研究論文4編・実践報告1編)(健康栄養学科2件・保育学科2件・総合文化学科1件)

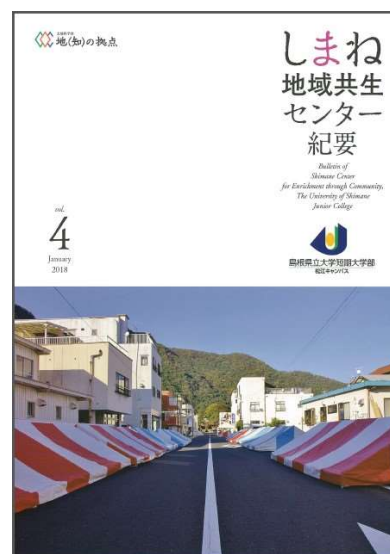
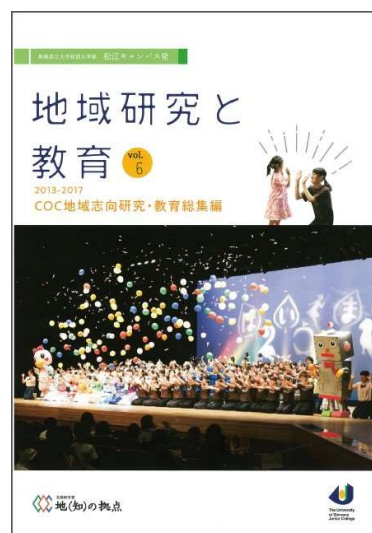
・平成29(2017)年度第4号

発表件数5編(研究論文1編・研究ノート4編)(保育学科4件・学外1件)

「しまね地域共生センター紀要」の、学内外に開かれた地域志向の研究誌としての特徴は、COC期間中維持されてきた。学外の専門職との連携を中心にした4年間の35編の研究論文等の地域研究の成果は、本学の島根県立大学短期大学部紀要と相まって、3学科の地域貢献に向かう教育研究のエネルギーを示すものとなり、平成30年度に迎える島根県立大学人間文化学部という新学部開設にも力を与えるものであったといえる。

(3) 『地域研究と教育』の作成

今年度はCOC事業の5か年間の総集編として編集し、本学の過去5年間の地域と共同した研究や地域とつながる授業の取り組みをセンターが取りまとめ、紹介した。巻末に、平成25年度からの5か年間の本学の地域志向研究と教育のリストをまとめ、連携先の地域や団体を明示した。



(4) 研究連携協議会

平成 30 年 3 月 2 日には、松江キャンパス研究連携協議会を開催し、しまね地域共育・共創研究助成金採択研究の成果を中心に、口頭発表 3 件、ポスター発表 1 件、計 4 件の研究発表が行われた。今年度はこのうち益田市共同研究事業「保小中地域連携による『ふるさと基盤教育』の実証研究」において、共同研究者である地域団体・自治体からの発表者による成果報告があり、共同研究事業間の情報交換が活発に行われた。講師として松江市観光協会観光文化プロデューサー・高橋一清氏、ふるさと島根定住財団顧問・藤原義光氏を迎え、松江キャンパスの地域志向研究の位置づけを振りかえる協議会となった。



2) 「社会人の学び」体制構築、公開講座・講演会等の開催

(1) 履修証明プログラム

拠点となるキャンパス・プラットフォーム「しまね地域共生センター」は、地域研究に関しては「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を目指すことを掲げた大学憲章に合わせ、「健康・保育・文化・観光」の専門分野を活かした共同研究を推進している。平成 25 年度以降、その成果を活かした社会人向け「履修証明プログラム」の開発に着手していたが、平成 29 年度は、2 年間のコースの最終年度講習が行われた。

履修証明プログラム単元受講者は平成 28 年度からの 2 年間コースでのべ 190 名、単元修了者は 156 名であった。教職更新講習を兼ねた単元履修を COC2-Net による e-ラーニングと最終対面講習・試験で実施した。必修講習・選択必修講習は、それぞれ 4 時間の e-ラーニングと 2 時間の対面講習・試験で実施した。選択講習は、14.5 時間の e-ラーニングと 3.5 時間の対面講習・試験で実施した。平成 28・29 年度の 2 年間における COC2-Net の e-ラーニングによる更新講習修了者はのべ 127 名であった。履修証明プログラム受講者のうち 3 名が 120 時間以上のプログラム履修を達成し、学校教育法上の履修証明書交付の対象となった。うち 2 名は 120 時間中 68 時間以上を COC2-Net による e-ラーニングで達した。これ

らの受講者は、地域専門職がほとんどであり、就労の合間を縫って COC2-Net による e-ラーニングで履修を進め、更新講習等の社会人としての学びを深めていた。

履修証明プログラムは、Moodle を使った e-ラーニングの部分で COC2-Net 環境を利用しているが、予めネット上で Moodle 環境設定の案内を行い、受講者の質問等にコーディネーターと職員が綿密に対応して問題解決を行う等の運営が成果を上げ、受講者のプログラム参加は円滑に進められた。

特に、平成 28 年度の受講者の講習評価から ICT 環境の見直しを行い、平成 29 年度は PC からのネット利用ではなくモバイル端末からの COC2-Net 利用を推進するよう改善を行ったところ、受講者の講習評価の満足度が「十分満足した」80%「満足した」19%で計 99%が「満足した」となり、成果を上げることができた。

平成 28 年度 29 年度に実施した COC 履修証明プログラムのうち、単元履修者の集中した教員免許状更新講習を兼ねた履修プログラムについては、平成 30 年度以降の「教職センター」に移管して実施する。島根県教育委員会と企画協議を進め、成果を引き継いだ準備を行っている。平成 28 年度 29 年度に実施した COC 履修証明プログラムのうち、公開講座を兼ねて広報した PC による情報発信プログラムに成果があったことから、PC スキル講座を、公開講座「樫の道アカデミー」の企画講座とするよう、成果を引き継いだ準備を行っている。



(2) 公開講座の開催

【平成29年度の実績】

松江キャンパスでは、生涯教育、地域教育の拠点として公開講座を実施している。受講者は「樫の道アカデミー」の会員に登録することで、公開講座のほか松江キャンパス図書館の利用、公開授業等への参加が出来る。平成29年度は「履修証明プログラム」としての公開講座が加わり、全19講座を開講した。会員登録数は248名、延べ受講者数は2,110名と昨年度を上回った。（参照：平成29年度公開講座「樫の道アカデミー」開催状況）



また、今年度も受講者へのアンケートを実施し、開催時間やニーズなど、次年度講座計画へ反映させた。広報にも重点を置き、松江市主催のまつえ市民大学生への案内に加え、島根県の協力を得て、情報テレビ番組内やラジオ番組内等で宣伝を行った。

【NPO 法人松江ツーリズム研究会との連携】

例年、多数の申込みがある NPO 法人松江ツーリズム研究会との連携講座「文化資源探求講座」は、今回で 4 年目を迎えた。行程や訪問先との調整に協力をいただき、「『小泉八雲と水木しげるの面影』を訪ねる」と題して、主に美保関町や境港市など、小泉八雲と水木しげるのゆかりの地を訪問した。



(3) 客員教授による講演会

平成 29 年度も各学科で客員教授による講演会を実施し、椿の道アカデミー会員や一般に公開した。各学科の客員教授講演会の概要は以下のとおりである。

①健康栄養学科

テーマ：「専門職の役割と倫理綱領～管理栄養士・栄養士の将来像を見据えて～」、「栄養の指導～管理栄養士・栄養士の将来像を見据えて～」

講師：公益社団法人日本栄養士会会長、同志社女子大学生活科学部食物栄養科学科特任教授 小松 龍史 氏

日時：平成29年11月23日（木） 参加者：約111名（学外26・学生66・教職員10）

②保育学科

テーマ：「発達障がいのある子どもとその家族に対するライフステージに応じた支援」

講師：神戸大学大学院保健学研究科教授 高田 哲氏

日時：平成29年11月25日（土） 参加者：約156名（学外41・学生106・教職員9）

③総合文化学科

テーマ I 「日本住居の起源—アジアの伝統的建築とその系譜」

講師：日本大学生産工学部特任教授 布野 修二氏

日時：平成 29 年 7 月 5 日（水） 参加者：178 人（学外 6・学生 157・教職員 15）

テーマⅡ 「三島由紀夫と映画・演劇」

講師：広島大学大学院文学研究科教授 有元 伸子氏

日時：平成 29 年 10 月 25 日（水） 参加者：180 人（学外 10・学生 157・教職員 13）

3) 地域活性化支援

(1) 企業・団体・NPO法人等との連携

松江キャンパスでは、平成 29 年度も NPO 法人等、学外団体との協力を継続的に推進した。今年度は、健康栄養学科による食育推進での連携活動、島根県特産品の振興を図る取り組み、総合文化学科の「おはなしゼミ」による県内各地での読み聞かせ活動等、多彩な連携事業を実施した。

平成 29 年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	担当者	期間	事業内容・参加者他
食育の情報発信に関する研究 ー若い世代が県内各地の郷土料理及び家庭料理を調理ー	名和田 清子（健康栄養学科教授） 石田 千津恵（健康栄養学科助教） 世良 希美（健康栄養学科嘱託助手）	平成 29 年 10 月～ 平成 30 年 3 月	協力者：島根県食生活改善推進協議会 学内参加者：健康栄養学科学生 25 名 および教員 3 名
日本財団「海と日本プロジェクト」助成事業 日本さばけるプロジェクト	名和田 清子（健康栄養学科教授） 石田 千津恵（健康栄養学科助教） 世良 希美（健康栄養学科嘱託助手） 堂本 真由美（健康栄養学科嘱託事務）	平成 29 年 12 月 4 日	講師：石田周三氏（本学非常勤講師） 松江キャンパスの学生 19 名および教員 4 名
産学官連携企画しまね三味ジビエ炊き込みご飯試食会実施（まつえ農水商工連携推進協議会、宮本食肉店との連携企画）	籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	平成 29 年 7 月 24 日	鳥獣対策の一環としてしまね三味ジビエ・炊き込みご飯の試食会実施 松江市職員、その他報道関係機関など出席
島根県農業技術センター有機農業グループ	籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月	有機米の特性分析 健康栄養学科 2 年生 2 名参加
島根県農業協同組合石見銀山地区本部 共同研究	籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	平成 29 年 12 月～平成 30 年 3 月	「石見銀山和牛」の特性を生かす加工食品開発の研究 健康栄養学科卒業研究ゼミ生 2 名参加
島根県産業技術センター浜田技術センターとの共同研究	籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月	食肉の特性を生かした調理加工方法の検討 健康栄養学科卒業研究ゼミ生 2 名参加

平成 29 年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	担当者	期間	事業内容・参加者他
株式会社ローソンとの連携によるパンとスイーツの開発・発売	籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	平成 29 年 4 月～平成 30 年 11 月	島根県産いちじく、出雲抹茶、木次牛乳を使用した 7 品のスイーツとベーカリーを共同開発 健康栄養学科卒業研究ゼミ生 6 名参加
株式会社ローソンとの連携によるパンとスイーツの島根県知事試食会	籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	平成 29 年 10 月 16 日	島根県産いちじく、抹茶、木次牛乳を使用したスイーツとベーカリーを島根県知事試食会へ 健康栄養学科卒業研究ゼミ生 6 名参加 株式会社ローソン上部執行役員、島根県職員、その他報道関係機関など多数出席
H29 年産米の食味ランキング（日本穀物検定協会主催）出品材選定のための最終選抜審査会	籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	平成 29 年 12 月 12 日	H29 産米の食味ランキング（日本穀物検定協会主催）出品材選定のための最終選抜審査会への参加協力（島根県農業協同組合斐川地区本部）
島根県農産園芸課、島根県農業技術センター 受託研究	籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	平成 29 年 5 月～平成 30 年 3 月	「つや姫」のおいしさの見える化に係る物性及びテクスチャーを中心とした官能評価試験 健康栄養学科 2 年生 3 名参加
安心・安全な児童福祉施設環境の構築に向けた連携	藤原 映久（保育学科准教授）	平成 27 年 4 月～必要な期間	児童養護施設安来学園及び島根県中央児童相談所との協働の下、児童養護施設職員向け養育支援プログラムの開発と実践を行う。
里親支援における連携	藤原 映久（保育学科准教授）	平成 29 年 4 月～必要な期間	松江地区里親会及び島根県中央児童相談所との協働の下、子育て支援の勉強会の開催等、里親支援を展開する。
「第 44 回ほいくまつり」開催 島根県民会館との連携事業	保育学科全教職員	平成 29 年 6 月 24 日	島根県民会館大ホールにて「第 44 回ほいくまつり」を開催 参加学生：106 名 来場者：乳幼児とその保護者、保育関係者 1,650 名
「身体と美術 トークセッション 田畑真希×福井一尊」 島根県民会館との連携事業	福井 一尊（保育学科准教授）	平成 30 年 1 月 28 日	コンテンポラリーダンサーである田畑真希氏と、現代美術作家でもある福井一尊准教授が、ジャンルを超えて、表現についてトークセッションを行った。 会場：島根県民会館中ホール
島根県児童養護施設協議会への協力	福井 一尊（保育学科准教授）	平成 29 年 8 月 10 日	島根県内の児童養護施設の入所児童が制作した、第 37 回児童文化奨励賞絵画展出品作品の県内審査を本学にて行った。島根県代の表作品は、全国展に出品され、全国展において金賞を受賞した。
鳥取県子育て王国局子育て支援課への協力 「保育所保育指針実践研修会」	福井 一尊（保育学科准教授）	平成 29 年 10 月 15 日	鳥取県内全域の保育所、幼稚園等の保育従事者を対象として開催した、新・保育所保育指針の保育実践研修会において講師を務める。会場：倉吉未来中心大ホール 参加者：649 名
保育士キャリアアップ研修への協力	小山 優子（保育学科准教授） 矢島 毅昌（保育学科准教授） 梶間 奈保（保育学科講師） 前林 英貴（保育学科講師）	平成 29 年 10 月～	社会福祉法人島根県社会福祉協議会が行う保育士のキャリアアップ研修において、各専門分野と関連した講義及び演習の講師を務める。

平成 29 年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	担当者	期間	事業内容・参加者他
民間の児童養護施設職員等の処遇改善に係る研修への協力	藤原 映久（保育学科准教授）	平成 29 年～	島根県青少年家庭課が主催する民間の児童養護施設職員等の処遇改善に係る研修において、専門分野と関連した研修講師を務める。
放課後児童支援員認定資格研修への協力	藤原 映久（保育学科准教授） 前林 英貴（保育学科講師）	平成 28 年～	社会福祉法人島根県社会福祉協議会が行う放課後児童支援員認定資格研修において、専門分野と関連した研修講師を務める。
29 くまっ子交流七夕の集いへの協力	梶間 奈保（保育学科講師）	平成 29 年 7 月 9 日	雲南市下熊谷の下熊谷の子どもを事件から守る会と連携し、リズム遊びのワークショップ及び実践を行う。保育学科卒業研究ゼミ 7 名参加。
うた遊び手帳の作成	山下 由紀恵（保育学科教授） 梶間 奈保（保育学科講師） 秦 昌子（松江市立揖屋幼稚園・保育園） 福頼 美恵子（松江市立城東保育所）	平成 29 年 3 月～	うた遊び手帳は全 5 巻からなり、大学と保育所・幼稚園で協力し、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と関係づけながら内容を検討した上で、保育現場のみならず、小学校低学年向けのうた遊びの展開方法についてもテキストに取り入れた。
NPO 法人松江ツーリズム研究会への協力	小泉 凡（総合文化学科教授）	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月	NPO 法人松江ツーリズム研究会が管理・運営する小泉八雲記念館の館長として、企画展「文学の宝庫アイルランドーハーンと同時代を生きた作家たち」の実施、来賓案内、館長のアイルランド・トーク（7 月 15 日、8 月 6 日、11 月 11 日）、ミステリーツアー（9 月 9 日）の講師をつとめる。
焼津小泉八雲記念館（焼津市教育委員会）への協力	小泉 凡（総合文化学科教授）	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月	焼津小泉八雲記念館の名誉館長として、焼津ゴーストツアー（9 月 10 日）、同館 10 周年記念事業シンポジウム講師（10 月 8 日）、文芸作品コンクールへのメッセージの執筆等を行う。
子ども塾—スーパーヘルンさん講座—（松江市観光文化課主管、子ども塾実行委員会主催）への協力	小泉 凡（総合文化学科教授）	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月	子どもの五感力を育む教育実践、第 14 回子ども塾塾長をつとめる。内中原小学校と連携し、2 学期・3 学期に 6 回程度活動を行う。（講義・まち歩き・発表会）
アイリッシュフェスティバル in 松江 2018（松江市国際観光課主管、アイリッシュフェスティバル in 松江実行委員会主催）	小泉 凡（総合文化学科教授）	平成 29 年 10 月～平成 30 年 3 月	3 月 11 日開催の同事業の実行委員長として企画・運営、当日のスピーチ、来賓案内などにあたる。本学の小倉佳代子非常勤講師、ティン・ホイッスルサークル学生約 5 名もボランティアとして運営をサポートする。

①健康栄養学科の地域活性化支援

健康栄養学科では、食育に関する情報発信や教育媒体等の開発、食文化の継承に係る研究等を積極的に行い、ライフステージを通じた食育に取り組んでいる。また、難病患者会の活動支援や各種コンクール等への協力を行っている。さらに、島根県産品の振興を図る

継続的な取り組みとして、松江市、島根県などの自治体や地域の事業者と連携して共同開発および共同・受託研究を実施している。今年度は、松江市や益田市の事業者と連携して西条柿熟柿ピューレを利用した食品開発、松江市の事業者と協働して西条柿熟柿ピューレと西条柿干し柿を用いた食品開発、しまね和牛や猪肉の機能性分析とその成果を活かした食品加工への提案、出西生姜などとのコラボレーションによる食品開発を行った。また、今年度は、島根県産米「つや姫」や、有機栽培米「きぬむすめ」の分析を行い、品種や栽培方法の違いによる特性について検討した。

【食育の情報発信に関する研究】

島根県では、「若い世代への食育の推進」を重点課題として食育の取り組みを進めている。健康栄養学科では、平成27年度から島根県の委託を受け、学生と教員が共同して、若者から若者へ、「おいしい・たのしい・ためになる」食育体験の情報発信を行っている。今年度は、島根県7圏域の郷土料理・家庭料理の調理を体験し、調理実習レポートとレシピを紹介した。若い世代が食を通して島根の魅力を再発見してくれることを目的として、今後もその効果を検証する。

松江圏域



ご飯、鯖の塩焼き、柿とかぶの酢の物、のっぺい汁

【患者会への参加】

難病患者会の活動支援のため、健康栄養学科教員および学生がボランティアとして活動した。今年度は、炎症性腸疾患患者のための食事会（主催：雲南保健所）に教員1名、学生2名（6月24日）が、小児糖尿病患者会「第44回小児糖尿病大山サマーキャンプ（主催：日本糖尿病協会島根県支部「大山家族）」にて教員1名、学生6名（8月6日～8月13日）がボランティアとして参加した。

【「伝え継ぐ日本の家庭料理」島根県調査研究】

日本調理科学会活動の一環として伝え継ぐ日本の家庭料理を全国一斉に発信する取り組みを石田千津恵助教が行っている。島根県栄養士会、島根県食生活改善推進協議会と共に「食つくり」や島根県 HP 掲載のレシピを参考に、東部、西部、隠岐地域に分けて伝え継ぐべき家庭料理 40 品を選定した。今後現地で実際に調理、撮影を行い、出版物の完成を目指す。

【西条ガキを使った商品開発】

西条柿熟柿ピューレを利用した食品開発では、松江市東出雲町の柿農家と赤浦和之教授が協力し、西条柿干し柿と熟柿ピューレを用いたパン 2 種を商品化した。次年度も引き続き、地域の活性化の観点から、西条ガキ干しと干し柿や熟柿ピューレを用いた加工食品の開発を行う。

【「しまね和牛肉」の食味研究と商品開発】

「しまね和牛」の中でも、「石見銀山和牛」の生産に係る牛肉品質の評価について、籠橋有紀子准教授および学生 2 名が JA 石見銀山との受託研究において協力し、「石見銀山和牛」の「おいしさ」について機器測定による客観的データにより牛肉の食感、保水性等を評価し、「おいしさ」評価基準に利用可能な評価項目の特定及びその結果を踏まえた加工品開発を行った。今年度は、「石見銀山和牛」の得られたサンプルについて、理化学分析（物性解析・成分分析）を実施し、供試肉のもも、バラともに、保水性が高いなどの特徴を活かし、「石見銀山焼き（仮称）」を開発した。平成 29 年 12 月 27 日には、JA 石見銀山において、島根県関係者および地域住民を対象とした試食会を実施し好評であった。



【鳥獣対策研究の一環としてのジビエ商品開発】

猪肉について、その加工方法の提案を籠橋有紀子准教授および学生2名が行った。松江市八雲産の猪肉の特性を活かした、しまね三昧ジビエ炊き込みご飯やまつえ宝刀鍋スープを、籠橋有紀子准教授および学生2名で作成した。食の機能性と松江の文化の融合によるオリジナリティあふれる調理加工品の提案となった。



平成29年5月23日には島根大学教育学部附属小学校との連携により学校給食への展開が実現した。また、同時期に県内企業との連携でレトルト食品化を検討し、試食会ならびにイベント等での販売が実施された。

【(株) ローソンとの産学官連携によるスイーツ&ベーカリー商品化】

昨年度に引き続き第2弾として、コンビニエンスストアでの販売を前提として島根の農産物を使ってスイーツとベーカリーを考案した。籠橋有紀子准教授および籠橋研究室ゼミ生が卒業研究の一環で(株)ローソンへの発案・試作の依頼、連携して試作品を絞り込んだ。「木次牛乳」「抹茶」「いちじく」などの島根県産の材料を使い7品のスイーツとベーカリーを開発した。いずれも島根県産品のおいしさを活かした商品。平成29年10月16日に知事へ報告を行うとともに試食会を行い、平成29年10月24日から順次、中四国全域のローソン店舗(1385店)で発売された。



- 「いちじくチーズムースプリン」「抹茶のメロンパン」
- 「もちもちとした抹茶コッペパン」「秋の抹茶パフェ」
- 「抹茶のロールケーキ」「いちじく&ブラウニーパフェ」
- 「ほうじ茶パフェ」の7品



【島根米の品質評価】

島根県農業技術センターと籠橋有紀子准教授および学生2名との連携により、有機農産物の中でも今年度より有機米に着目し、食味について官能評価、理化学分析等を行い、有機米の特性について検討した。平成24年から継続して行ってきた成果の一部は水稻有機栽

培技術指針へ掲載された。また、島根県産米「つや姫」の科学分析では、温暖化により品質の低下している平坦地域の「コシヒカリ」に替わる米として、「つや姫」の普及拡大を目的に、島根県、島根県農業技術センターと共同で官能試験、理化学分析（電子顕微鏡で炊飯米断面の構造を観察、テンシプレッサーで炊飯米物性（粘りと硬さ）を機械的に測定）を行い、品種や栽培地域の違いによる品質特性について検討した。また、食味ランキング（日本穀物検定協会主催）出品材選定のための島根米食味向上コンテスト選抜審査に協力し、島根県産「つや姫」は一般財団法人日本穀物検定協会主催の食味ランキングにおいて、本年最高ランクである「特A」を取得した。

【知的財産権の活用】

籠橋有紀子准教授は、平成24年度に糖尿病予防及び治療に寄与する2件の発明に対する特許を取得した。今年度は産学官の連携による糖尿病予防のための基礎研究および結果を活かした栄養価計算ソフトウェアを教育への展開を試みた。

②保育学科の地域活性化支援

【島根県保育所（園）・幼稚園造形作品展】

福井一尊准教授が、島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会顧問として県内保育所・幼稚園に連携協力し、平成29年11月17日に本学で園児の絵画作品審査会を実施した。同審査により選ばれた園児の作品は、「第13回島根県保育所（園）・幼稚園造形作品展」として島根県民会館で平成30年1月12日から14日まで、浜田市世界子ども美術館にて2月9日から12日まで展示・公開された。

また平成30年3月には特選144点を掲載した「作品集」を刊行し、県内各園における表現活動の指針の一つとして活用されている。

【島根県障がい者アート作品展】

福井一尊准教授は、平成29年12月9日に島根県・島根県社会福祉協議会主催の「平成29年度島根県障がい者アート作品展」において、審査委員長として絵画・書・写真・デザイン・工芸等作品の公開審査を行った。本審査会は福祉施設職員の研修会としても位置付けている。展覧会を12月8日から10日まで島根県立美術館で開催し一般公開した。

また平成30年3月には福井一尊研究室から「しまねの障がい者アート」を刊行し、その中で受賞作品の紹介を行い、県内外に広く紹介した。

【松江市保育所（園）・幼稚園造形作品展】

福井一尊准教授が、松江市保育研究会造形表現部会顧問として市内54保育所（園）・認

定こども園と連携協力し、平成 28 年 9 月 21 日と、12 月 26 日に子どもの造形活動の捉え方と展示方法についての研修会を実施した。同研修会で構成された大型壁面・立体作品は、平成 30 年 2 月 22 日から 26 日まで島根県立美術館にて広く公開され、5,100 名以上の来場者を得た。

【NPO 法人あしづえとの連携】

平成 23 年度に山下由紀恵教授・森山秀俊教授・福井一尊准教授が、NPO 法人あしづえ・松江市健康福祉部子育て課との共同研究を通じて開発した「松江発一保育専門職のための『表現とコミュニケーション』ワークショップ・プログラム」の効果を土台として、本年度も保育学科の正課「児童文化」に NPO 法人あしづえによるワークショップを組み込み、一部連携した授業を実施した。

③総合文化学科の地域活性化支援

総合文化学科では、しまね多文化共生ネットワークとの共催による「医療英語勉強会」(ラング・クリス准教授)の開催、英語絵本の読み聞かせ(小玉容子教授)、卒業プロジェクトおはなしゼミによる読み聞かせボランティアの実施(岩田英作教授)、NPO 松江ツーリズム研究会と連携した文化資源をツーリズムに生かす実践活動(小泉凡教授)、(一社)鉄の歴史村地域文化研究所と連携した観光教育の実践および NPO 法人松江ツーリズム研究会の協力による松江興雲閣訪問客の実態調査など(工藤泰子教授)、昨年に引き続き、活発な活動が行われた。

【「キッズ・イングリッシュ」の英語絵本読み聞かせ活動】

平成 29 年度の「キッズ・イングリッシュ」(担当は小玉容子教授、ダスティン・キッド講師、総合文化学科 2 年前期)受講生 13 名は、おはなしレストランライブラリーで「英語絵本の読み聞かせ」を行った。6 月から 7 月にかけて、絵本や紙芝居の読み聞かせと歌や手遊びなどを組み合わせ、20 分程度の時間で計 9 回実施した。また、10 月には大学祭企画の一つとして、同様の内容で「読み聞かせ」を実施した。

学生たちは、出版されている絵本だけでなく、授業で作成した教材なども用いて、児童英語教育実践活動を行うことができた。子どもたちだけでなく保護者も一緒になったの活動となった。また、学生の実践力向上にとって貴重な体験となった。

【医療英語勉強会】

「医療英語勉強会」(担当はラング・クリス准教授)は、島根に住む外国人を対象とした医療通訳育成・技能向上を目的として実施中の事業である。しまね多文化共生ネットワ

ークと連携し、平成 20 年 4 月から月に一度、勉強会を実施している。参加者は、10 名程度である。勉強会では、実際の医療場面を想定したテキスト文の日本語から英語への翻訳学習を行い、診療科ごとの通訳会話役割練習を行う他、医療に関する研究報告をビデオで見ながらディスカッションすることで、医療用語を身につけることを目的とした。

【ミステリー・ツアーの企画・実施】

昨年度に引き続き、山陰地方の文化資源をツーリズムに活用する実践としてミステリー・ツアーを企画・実施した。実施日は 9 月 9 日（土）で、訪問先は参加者に事前に明かさず。小泉凡教授が NPO 法人松江ツーリズム研究会旅行事業部と連携して企画・運営・当日の講師をつとめた。平成 29 年度は、「奥出雲の食とたたら文化」をテーマとし、雲南市の食の杜でシャルドネの収穫とワイナリー見学をした後、菅谷たたら、石照庭園などを訪問した。車内では、現代社会にも生かされるたたら製鉄の遺産について解説を行った。

【雲南市吉田町における観光教育の実践】

工藤泰子准教授は、平成 25 年度から（一社）鉄の歴史村地域文化研究所をはじめとする吉田町の人々と連携した観光教育を実践している。「観光資源学」（総合文化学科 1 年後期選択科目）において、履修生 45 名が、たたら製鉄の歴史と文化を観光に活かすことをテーマに、鉄の歴史博物館、菅谷たたら山内、生活伝承館などを訪問した。



【松江興雲閣訪問客の実態調査】

「観光文化ゼミ」（総合文化学科 2 年、担当工藤泰子教授）の履修生 9 名と有志学生 2 名（計 11 名）は、5 月 10 日（日）、NPO 法人松江ツーリズム研究会の協力のもと、松江城山興雲閣にて訪問客 101 名（日本人 95 名、外国人 6 名）を対象にヒアリング調査を実施した。調査結果は報告書にまとめ、関係機関に配布した。

④連携協定

地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展及び将来的に必要なとされる人材育成に寄与することを目的として、島根県中小企業家同友会と包括的連携協力協定を締結した。また、11 月 21 日、島根県中小企業家同友会から 7 社を招いて、本学 1 年生を対象としたインターンシップフェアを開催した。ジョブカフェしまね「しまね学生

インターンシップ」の受け入れを行っている 7 社の同友会会員企業に、企業概要、理念、仕事での成功談・失敗談など、30 分を 1 クールとして 3 クールご説明いただき、ブース形式で経営者や担当者の方から直接話を聞いた。参加した学生からは「働くことの楽しさ、苦勞などのリアルな部分を知ることができた」「今まで考えていなかった業種にも関心を持つことができた」「もっとたくさんの企業の話を知りたい」などの感想があり、今後のインターンシップや就職活動に向けて前向きな気持ちがうかがえた。



(2) 自治体等との連携

①松江市との教育連携協議会

松江キャンパスは、平成 19 年度に松江市との協力協定を締結し、その後は協定を踏まえ、教育連携協議会の開催や「公開講座」でまつえ市民大学と連携するほか、松江市主催行事に本学教員と学生が協力するなど連携を強化している。正課教育において、松江市職員を非常勤講師とする複数の専門科目講義・実習、松江市立施設・学校における実習も継続して実施している。このような緊密な教育上の連携を踏まえて、平成 30 年 3 月 14 日に松江市と教育連携協議会を開催し、実習協力や講師派遣について実務的な連携について協議した。

平成 29 年度 松江市・島根県立大学短期大学部松江キャンパス教育連携協議会

会 場： 島根県立大学短期大学部松江キャンパス 大会議室

日 時： 平成 30 年 3 月 14 日（水） 10 時～12 時

議 事： ・ 松江キャンパスの新体制について
 ・ 卒業生における松江市比率について
 ・ 学科ごとの連携実績
 ・ 松江キャンパス 4 大化後の連携体制
 ・ 新しまね地域共生センターについて

出席者： ・ 松江市：政策部次長、政策企画課主任、教育委員会次長、健康子育て部子育て課長、観光振興部次長、発達・教育相談支援センター所長
 ・ 松江キャンパス：副学長、教務学生生活部長、健康栄養学科長、総合文化学科長、しまね地域共生センター長（保育学科長兼）、地域連携推進委員、事務室長、地域連携課長

②松江市主催文化教育行事への協力

【「第14回子ども塾—スーパーヘルンさん講座」への協力】

松江市観光文化課および「子ども塾実行委員会」主催による、子どもの五感力育成の教育実践である標記事業に、総合文化学科の小泉凡教授（塾長）が企画・運営・実施に協力した。主な活動日は、平成29年10月26日（塾長講義）、11月7日～11月9日（まちあるき）、2月1日（発表会）。29年度は内中原小学校4年生（約120名）を対象に行った。まちあるきは大雄寺、月照寺、小泉八雲記念館など城西地区のハーンゆかりの地。



発表成果は3月4日～3月16日まで、カラコロ工房地下金庫室で展示公開した。

【「小泉八雲 朗読のしらべ」への協力】

神在月まつえ文化・観光月間実行委員会主催（松江市観光文化課主管）により平成29年10月1日に興雲閣で開催。テーマは「夢幻：夢とうつつのあわいに現れるものたち」総合文化学科の小泉凡教授が、佐野史郎氏・山本恭司氏出演による上記イベントの企画、実施、脚本監修、パンフレット執筆、レクチャーを担当する。

なお、同行事は8月26日には下関の赤間神宮で、30年2月16日には銀座ヤマハ・スタジオでも開催され、小泉教授が協力を行った。

【「アイリッシュ・フェスティバル in 松江2018」への協力】

松江市国際観光課・山陰日本アイルランド協会・南殿町商店街・松江京店商店街協同組合等が実行委員会を組織してアイルランドと松江の文化交流・松江の文化振興および中心市街地活性化の目的で実施する行事で、平成29年3月11日に開催。

総合文化学科小泉凡教授が実行委員長・小倉佳代子非常勤講師が実行委員として、松江キャンパスのティンホイッスル・サークル、総合文化学科1・2年生約10名の学生がボランティア・スタッフとして参加した。

③小泉雲記念館との連携

同館館長を兼務する総合文化学科の小泉教授が、企画展「文学の宝庫アイルランド—ハーンと同時代を生きるアイルランドの作家たち—」の企画・実施に協力し、館長のアイルランドトーク全3回（7月15日「小泉八雲とアイルランド—祖国の過去といま」、8月6日「座敷童子とバンシー—妖怪の国日本と妖精の国アイルランド」、11月11日「ドルイドの世界—一日愛に響き合う輪廻転生の世界観」）を行う。

また、総合文化学科の岩田英作教授とおはなしゼミの学生による読み聞かせ、「おはなし

レストラン「アイルランド編」を8月19日・20日・25日に、松江水燈路開催にともなう「おはなしレストラン de 怪談ナイト」を10月8日・22日・29日に実施した。

④松江市立女子高等学校との連携

平成29年10月17日、松江市立女子高等学校1年生のキャリア教育推進に協力し、1年生全員（108名）のキャンパス見学と模擬授業、および卒業生交流会を実施した。模擬授業は、地域連携推進委員会から梶間奈保講師による「音楽的発達に見る子どもの姿～お腹の中の赤ちゃんでも音は聴こえている！？」というテーマで行われた。講義後は、松江市立女子高等学校出身の本学学生（7名）との座談会を行った。



⑤正課授業における連携協力

【保育学科専門科目における学外の専門職現任者および経験者による講義】

保育学科専門科目「障害児保育Ⅰ」（1年後期必修科目・1単位）の非常勤講師として、松江市立発達・教育相談支援センター所長の小脇洋講師、同指導主事の相原晴美講師、武藤裕子講師により、支援の必要な子どもの実態や松江市の取り組み・関係機関との連携等についての講義が行われた。

【総合文化学科専門科目における学外の専門職現任者および経験者による講義】

総合文化学科専門科目においては、以下の通り、学外の専門職現任者および経験者による授業や協力が行われた。

1 「しまねツーリズム論」

学外講師

- ・10月27日（金）：木次 淳 氏（島根県商工労働部観光振興課課長）
内容：島根県の観光施策展望
- ・11月10日（金）：土江義夫 氏（一般社団法人松江観光協会事務局長）
内容：松江市の観光施策展望
- ・11月17日（金）：木内 吾平 氏（JR西日本米子支社山陰地域振興本部課長）
内容：しまねのツーリズム と JR の役割
- ・12月1日（金）：北井 勇作氏（BSS山陰放送テレビ総局テレビ制作部長）
内容：映像に託した山陰の文化資源、観光資源

- ・12月8日（金）：和田 裕子 氏（株式会社 NECCO 代表、食と農のコミュニケーター）
内容：畑と食卓を繋いで魅せる
- ・12月15日（金）：山本 素久 氏（NPO 法人松江ツーリズム研究会理事長・橋井 友泉氏（松江観光ガイドちどり娘）
内容：着地型観光と私たちの取り組み
- ・1月26日（金）：米山 麻美 氏（プラバホール専属オルガニスト）
内容：音楽によるまちづくりーオルガンコンサートと地域連携

2 「地域探検学」

連携先：奥出雲町地域振興課

3 「へるん探求」

連携先：出雲大社・日御碕神社・一畑薬師・大山町中山公民館（いさい踊り保存会）・妙元寺（鳥取県大山町）・琴ノ浦まちおこしの会（鳥取県琴浦町）・鳥取県日野町中菅地区

4 「ミュージアム論」

連携先：島根県立美術館・松江歴史館

【松江市立施設・学校における実習協力】

健康栄養学科・保育学科の専門科目実習について、松江市立病院、松江市立学校給食センター、松江市立保育所、松江市立幼保園のぎ、松江市立幼稚園が協力し、実習指導を行っている（実習欄に別掲）。

4）教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携

初等中等教育機関との教育連携については、平成18年度の協定締結以降、各学科における松江市立幼保園のぎ・松江市立乃木小学校・松江市立湖南中学校・松江商業高校との緊密な連携協力のもと、教員による特別授業のほか、学生による読み聞かせ実践・食育実践指導等の連携事業を実施し、教育的成果をあげている。

(1) 連携校協議

平成29年6月5日に、松江市立幼保園のぎ、松江市立乃木小学校と松江キャンパスの三者連携会議を松江キャンパスで行った。松江市立湖南中学校、島根県立松江商業高等学校、松江キャンパスの三者連携会議は、平成29年5月16日と平成30年2月20日に島根県立松江商業高等学校で行われた。

また、まつえ湖南学園地域推進協議会の主催による、小中一貫教育「教科会」への本学教員の参加、乃木小学校の授業公開へ参加した。

平成 29 年度松江キャンパス教育機関との連携事業

機関名	担当者	内容	期間	参加者他
松江市立乃木小学校	直良 博之（健康栄養学科教授） ハウデン 由貴（健康栄養学科嘱託助手）	食育授業	平成 29 年 11 月 22 日	5 年生 127 名を対象 教員 2 名及び健康栄養学科 2 年生 4 名が参加
島根県中学校体育連盟	名和田 清子（健康栄養学科教授）	研修会講師「食べて勝つ！食事で作る強い体」	平成 29 年 11 月 24 日	参加者：島根県中学校体育関係者
島根大学教育学部附属小学校	籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	まつえ宝刀鍋スープの紹介（地産地消についての授業）および学校給食への展開	平成 29 年 5 月 23 日	島根大学教育学部附属小学校全校生徒および教員参加 まつえ農水商工連携推進協議会職員、生産者組合参加
大田市保育研究会	岸本 強（保育学科教授）	島根県保育研究大会発表に向けた研究指導	平成 27 年 10 月～平成 29 年 11 月	大田市保育研究会研究部員
松江市立湖南中学校	小泉 凡（総合文化学科教授）	総合的学習の時間地域探検の魅力	平成 29 年 7 月 6 日	1 年生 172 名を対象
松江市立内中原小学校	小泉 凡（総合文化学科教授）	総合的学習の時間（「子ども塾—スーパーへるんさん講座」との相互乗り入れ事業）	平成 29 年 10 月 26 日	4 年生 120 名を対象

出張講座（高大連携）の状況

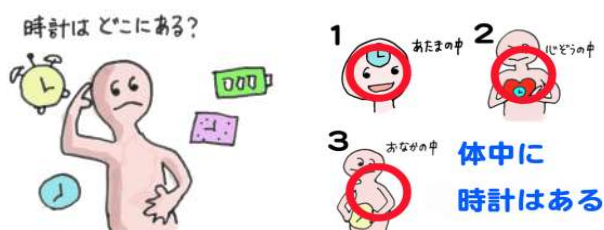
（大学への派遣依頼を受け、専門領域の講義を高校生向けに行った場合）

依頼先	担当者	講義テーマ	日時	参加者数
松江市立女子高等学校	小泉 凡 （総合文化学科教授）	国際文化観光科 1 年郷土学習講師 「五感でとらえた明治の松江～小泉八雲の世界～」	平成 28 年 5 月 27 日	30

(2) 健康栄養学科の教育機関連携

【小学校での食育授業】

松江市立乃木小学校での食育授業は、湖南中学校、乃木小学校との三者連携推進事業をきっかけに今年度で 11 年目を迎えた。平成 29 年度には、乃木小学校の 5 年生 150 人を対象に「朝ごはんの大切さ」について食育授業を行った。直良博之教授、ハウデン由貴嘱託助手と学生 5 名が取り組み、生物リズムと食事について、朝ごはんを食べることの重要性を児童と一緒に考えながら実施した。





▲松江市立乃木小学校での食育授業

【島根大学教育学部附属小学校との連携】

昨年度に引き続き、籠橋有紀子准教授はまつえ農水商工連携推進協議会および島根大学教育学部附属小学校との連携により、鳥獣対策の一環として開発した「まつえ宝刀鍋」の学校給食への展開を行った。「まつえ宝刀鍋」は、松江市八雲町の猪肉、宍道湖のしじみ、忌部の米粉麺などを使用している。給食の時間の前に、地域を知る学習の一環として、5年生を対象とした授業を行なった。松江市の生産者らとともに、松江の鳥獣対策についての現状、農産物や加工品の機能性、松江の文化背景、「まつえ宝刀鍋」の由来等について話し、質問に答えた。その後、全校生徒が給食で「まつえ宝刀鍋」を食べ、好評であった。



▲島根大学教育学部附属小学校での給食および授業の様子

(3) 保育学科の教育機関連携

保育学科の正課「児童文化」では、1年生と2年生が合同で複数のパートに分かれて「児童文化」のための制作過程を学び、「ほいくまつり」の開催によって地域の子どもたちと交流しつつ、大学での学びを還元している。この「ほいくまつり」の案内にあたって、松江市内保育所・幼稚園がポスター掲示・パンフレット配布に協力している。この「児童文化」の教育課程は、平成17年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の選定を受けて全国的にも評価された。平成29年度「第44回ほいくまつり」は、平成29年

6月24日（土）に島根県民会館で開催され、多くの親子が学生の作りだした歌唱・司会・影絵・劇などの「児童文化」を楽しみ学生と交流した。



「ほいくまつり」とは？

私たち島根県立大学短期大学部保育学科は、毎年6月島根県民会館大ホールに1,500人の子どもたちとその保護者を招待して『ほいくまつり』を開催しています。

この『ほいくまつり』というのは、私たち学生が日頃学内で学んでいることを総合表現として舞台上で発表することを通して県の児童文化向上に寄与するとともに、地域子どもたちや保護者の皆様楽しく夢のあるひとときを過ごしてもらおうという趣旨で開催しているものです。

取り組みの軸となるのは実行委員会です。実行委員長、総合責任者、会計の三役を中心に各パートのリーダーを合わせた14人がその構成メンバーです。このリーダー会は定期的開催され、各パートの要望や意見が交流されるとともに、話し合いを通じて方針が出されかつ総合的な指示が出されていくのです。

『ほいくまつり』の取り組みは、『児童文化』という授業の一環として行われますが、週に2回の授業の時間だけでは時間は全く足りません。そこで、準備はほぼ毎日、放課後残って行うこととなります。5月に入るとパート別のリハーサル、6月になると全体リハーサルが始まります。その場では先生方や他のパートの仲間たちから多くの課題点が出され、よりよいものを創るために各パートは議論をし、修正していきます。もちろん、なかなか自分たちの思うようにはいかず、みんなで悩みながら進めていくこととなります。しかし、その過程の中で協力することの大切さを学び、感性を磨いていくとともに、保育というものが要求する厳しさを知るのです。

当日、子どもたちの笑顔にたくさん出会えることは最高の感動ではありますが、同時に『ほいくまつり』の取り組み過程そのものが私たち自身に大きな自信と勇気と夢を与えてくれるのです。



(4) 総合文化学科の教育機関連携

総合文化学科では、岩田英作教授・マユアキ教授とともに、「読み聞かせの実践」を履修する学生（全学科）、卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の学生が、松江市乃木小学校、忌部小学校、幼保園のぎなどで、絵本の読み聞かせ活動を行った。（「7. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動」参照）

また、松江市立湖南中学校における総合的な学習の時間への協力事業として、総合文化学科の教員が、専門分野や総合文化学科の担当授業の内容を生かし、昨年に引き続き協力授業を行った。

5) 教育課程のための地域の施設・機関との連携

健康栄養学科、保育学科において実習先との連携の強化策を検討し、可能な部分から実施している。健康栄養学科では、栄養士養成のため各種給食施設等との緊密な連携を図っている。保育学科は、実習指導計画から実習評価に至るまで実習先と連携して実習成果の充実を図っている。

(1) 健康栄養学科の実習施設・機関との連携

栄養士免許を取得するためには、校外実習が必修である。平成29年度に実施した県内施設を下表に示した。実習終了後は、評価票の提出を求め、次年度の内容を検討する資料として、学生が作成した実習レポートを送付し連携を図った。また、実習先の管理栄養士を本学非常勤講師として招聘したり、学生を島根県栄養士会の研修会に参加させる等して連携強化を図っている。

平成29年度 校外給食実務実習依頼先一覧

地区	実習依頼先	実習人員	日程
島根	松江赤十字病院	2	9/4～9/8
		2	9/11～9/15
	松江市立病院	4	8/21～8/25
	独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター	4	8/21～8/25
	医療法人社団 創健会 松江記念病院	2	8/28～9/1
	松江生協病院	1	8/21～8/25
	独立行政法人 地域医療機能推進機構 玉造病院	3	9/11～9/15
	社会福祉法人 隠岐共生学園 介護老人保健施設 もちだの郷	1	8/22～8/26
		1	8/29～9/2
	社会福祉法人 松豊会 特別養護老人ホーム 津田の里	1	8/21～8/25

平成 29 年度 校外給食実務実習依頼先一覧

地区	実習依頼先	実習人員	日程
	島根県社会福祉事業団 厚生センター	3	9/4~9/8
	松江市立西学校給食センター	1	9/11~9/15
	松江市立南学校給食センター	3	9/4~9/8
	島根県立中央病院	3	8/28~9/1
	社会福祉法人 ほのぼの会 万田の郷	1	8/21~8/25
	出雲市立出雲学校給食センター	3	9/11~9/15
	出雲市立平田学校給食センター	1	9/11~9/15
	出雲市立斐川学校給食センター	1	9/4~9/8
	安来市立病院	2	8/21~8/25
	益田赤十字病院	2	8/21~8/25
鳥取	鳥取市立湖東学校給食センター	1	9/11~9/15
岡山	医療法人創和会 しげい病院	1	9/4~9/8

(2) 保育学科の実習施設・機関との連携

保育学科では、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」「保育実習Ⅱ」については、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（厚生労働省雇児発第 1209001 号）」にもとづき、保育学科が実習施設を選定して実習指導委員会を設けている。毎学年度の始めに、この委員会の協議によって保育実習計画を策定している。

平成 29 年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県松江市	松江市立城東保育所、松江市立白濁保育所、しらとり保育所、しらゆり保育園、つわぶきこども園、なかよし保育園、みどり保育所、愛恵保育園、ふたば古志原こども園、松江ナザレン保育園、松江保育所、松尾保育所、袖師保育所、虹の子保育園、法吉保育所、ひよし保育園、ひよし第2保育園、湯町保育園	1 年前期・保育実習Ⅰ（保育所） 2 年前期・保育実習Ⅱ（保育所）
		平田保育所、出雲市立直江保育園、東部保育園、中部保育園、出東保育園、ハマナス保育園、神門保育園、莊原保育園、ひかり保育園、出東保育園、出西保育園、たちばな保育園、おおつか保育園、あすなる保育園、なかの保育園、神門保育園、きんろう保育園、西園保育園、外園保育園、こぐま保育園	
	島根県出雲市	雲南市立大東保育園、雲南市立斐伊保育所、雲南市立かもめ保育園、雲南市立木次こども園、安来市立安来保育所、安来市立認定こども園安田、安来市立切川保育所、ひろせ保育園	
	島根県雲南市	サンチャイルド長久さわらび園、あゆみ保育園、相愛保育園、仁摩保育所	
	島根県安来市	いわみ西保育所	
	島根県大田市	江津市立和木保育所	
	島根県邑智郡邑南町	みのり保育園	
	島根県江津市	中須保育所、豊川保育園	
	島根県浜田市	隠岐の島町立下西保育所	
	島根県益田市	西ノ島町立みた保育園	
	島根県隠岐の島町		
	島根県西ノ島町		

平成 29 年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
	鳥取県米子市 鳥取県境港市 鳥取県鳥取市 鳥取県西伯郡伯耆町 鳥取県西伯郡南部町 鳥取県倉吉市 鳥取県鳥取市 広島県三次市 広島県府中市 滋賀県東近江市 千葉県旭市	米子市立小鳩保育園、仁慈保育園、キッズタウンかみごとう 福米保育園、福生保育園、米子市西保育園、成実保育園、住吉保育園 あまりこ保育園 鳥取市立富桑保育園 伯耆町立溝口保育所、ふたば保育所 さくら保育園 倉吉市立関金保育園 久松保育園 三次市立酒屋保育所 たんぼぼ園保育所 八日市めぐみ保育園 旭市立古城保育所	
児童福祉施設等	鳥根県松江市 鳥根県出雲市 鳥根県安来市 鳥根県浜田市 鳥根県隠岐の島町 鳥取県米子市	鳥根県中央児童相談所、松江赤十字乳児院、双樹学院、鳥根東光学園、松江学園、東部鳥根医療福祉センター、国立病院機構松江医療センター、鳥根県立わかたけ学園、しのめ寮、 児童心理療育センターみらい 安来学園 聖鳴寮、こくぶ学園 仁万の里児童部 米子聖園天使園	2 年前期・保育実習 I (施設)
幼稚園	鳥根県松江市 鳥根県安来市 鳥根県出雲市 鳥根県雲南市 鳥根県大田市 鳥根県江津市 鳥根県浜田市 鳥根県益田市 鳥取県米子市 鳥取県倉吉市 広島県三次市 滋賀県愛知郡愛荘町	松江市立幼保園のぎ、松江市立しんじ幼保園、松江市立古志原幼稚園、松江市立津田幼稚園、松江市立中央幼稚園、松江市立大庭幼稚園、松江市立城北幼稚園、松江市朝酌幼稚園、松江市揖屋幼稚園、松江市立出雲郷幼稚園、松江市八雲幼稚園、松江市立玉湯幼稚園 安来市立安来幼稚園、安来市立認定こども園荒島 出雲市立平田幼稚園、出雲市立荘原幼稚園、出雲市立中部幼稚園、出雲市立大津幼稚園、出雲市立塩冶幼稚園、出雲市立川跡幼稚園、出雲市立高浜幼稚園、出雲市立長浜幼稚園、出雲市立湖陵幼稚園、出雲市立神西幼稚園、出雲市立遥堪幼稚、園認定こども園光幼稚園 雲南市立西幼稚園、雲南市立斐伊こども園 大田市立大田幼稚園 江津市立江津幼稚園 浜田市立石見幼稚園、浜田市立長浜幼稚園 吉田幼稚園 米子みどり幼稚園、みずほ幼稚園、良善幼稚園、かもめ幼稚園、認定こども園あけぼの幼稚園、認定こども園かいけ心正こども園 認定こども園 倉吉幼稚園 三次中央幼稚園 愛荘町立秦荘幼稚園	2 年前期・後期・教育実習

この実習施設・機関により構成された実習指導委員会で策定された実習計画により、実習全体の方針、実習の段階、内容、施設別の期間、時間数、学生の数、実習前後の学習に対する指導方法、実習の記録、評価の方法が明らかにされている。

また、実習生、実習施設の指導者、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら実習の効果を十分発揮するように努めている。

「教育実習」については、原則的に実習指導委員会を設けるが、学生が自主的に地元等の実習幼稚園を選定する場合は個別に対応している。実習生、実習幼稚園の指導教員、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら、実習の効果を十分発揮するように努めている。

6) 学生による地域貢献活動

(1) 学生の自主的なボランティア活動

平成 22 年度より、島根県立大学「学生地域ボランティア活動推進事業」の一環として、学生のボランティア保険加入を支援している。平成 29 年度の学生のボランティア保険加入は、481 名。また学生の主な活動先は、以下のとおりであった。

- 災害ボランティア
いわて G I N G A - N E T 「いわてフィールド・ラーニング 2017 夏期」(岩手県)
- 障がい者・高齢者支援ボランティア
東部島根医療福祉センター、まるべりーパンまつり、グループホームかんの里、社会福祉法人さくらの家、障害者支援施設はばたき、かなえる会、Do the Sea サーフィンスクール ほか
- 保育所・幼稚園・学童保育ボランティア
幼保園のぎ、みのり保育園、みのり黒田保育園、松江暁の星幼稚園、比津ヶ丘保育園、放課後のぎっこ広場
- 松江市立湖南中学校 学習支援、図書館整備、環境整備
- 松江市国尾自治会 夏祭り、芋煮会、乃木文化祭、グランドゴルフ大会
- 島根県立青少年の家 サン・レイク
- 国立三瓶青少年交流の家
- 第 9 5 回あしなが学生募金
- 島根県赤十字血液センター 献血啓発運動ボランティア
- 島根県立水泳プール「夏だ！遊ぼう！プール祭り」運営ボランティア
- 大田市山村留学センター「2017 夏の山村留学」学生リーダー
- 森の国「大山サマーキャンプ」「大山スキーキャンプ」学生リーダー
- 第 2 4 回えびす・だいこく 1 0 0 km マラソン大会 運営スタッフ
- 第 6 0 回松江玉造ハーフマラソン大会 運営スタッフ

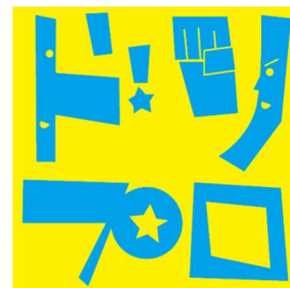
- 松江シティフットボールクラブ 試合運営スタッフ
- 2017 松江市環境フェスティバル スポーツ清掃大会 運営補助
- 松江子育て支援センター「あいあいまつり」運営補助
- 松江市農林水産祭 運営補助
- 松江水郷祭 エコステーション 運営補助
- 三井野原町 北野りんご園 春・秋の作業補助
- 里山を育てる会 植樹祭、きんらんを楽しむ会の補助

この他、島根県内外の多くの地域イベントや保育園（所）・幼稚園、小学校、公民館などにおいて、個人でボランティア活動を行った。

(2) キラキラドリームプロジェクト

【概要・目的】

平成 25 年度から始まった当事業は、学生の自主的に企画する独創的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助し、夢の実現を支援する。学生の自主性・積極性・創造性を思う存分発揮できる機会を提供し、より充実した学生生活を送ってもらうことを目的としている。



【募集テーマ】

テーマ・分野は限定せず、地域の課題解決アイデア、大学の学びを活かした事業、食や観光など松江の特色を活かした事業、大学生活がもっと楽しくなるアイデア等、学生が自由に設定。アイデアのみではなく、実施に向けての具体性のあるプランを募集する。平成 29 年度は 3 組の学生団体が採択を受けた。

また、各新聞社の取材ほか、島根日日新聞社のご協力によりドリプロ活動紹介のコーナーをご提供いただき、記事は学生が執筆した。

■ 公開審査会の様子



✓ ドリーム枠（採択額 22 万円）

チーム名：ゆうりん

プロジェクト名：島根の知名度アッププロジェクト「来ないやしまね」

■ プロジェクトの目的

私たちが好きな島根県は私たちの地元である京都と滋賀の友達にとって、知名度が低くどの位置にあるのかさえ知らない人や、鳥取県と区別できない人が多いです。また、田舎というイメージが強く観光地のイメージが弱いので、私たちが実際に島根県で感じた魅力をたくさんの方々に伝え島根に来ていただきたいという思いで企画しました。島根県へ少しでも興味を持っていただき、実際に行きたくなるような PR イベントを地元で開催します。

■ プロジェクトの概要

私たちの地元である京都府・滋賀県のショッピングモールで催事スペースを借り島根県や県立大学松江キャンパスの PR イベントをする。

■ 活動内容

① 島根県 PR 動画やスライドショーの上映

→ 1 回目のみ自分たちが撮った写真を繋げしまねっこのうたに合わせて放送。2 回目はしまねっこの映像を放送。

② 自分たちが撮った写真の展示

→ 株式会社 necco の社員さんからのアドバイスを受け、自分たちのものよりプロが撮ったような県が使用しているものの方がいいとご指摘を受けたため、島根県観光連盟さんへ交渉しパネル化された写真を使用。



イオンモール草津でのじゃんけん大会の様子

③ 様々な市町村のパフレット設置

→ パフレットは配る他に設置も行い自由に手にとっていただけるようにした。

④ アンケート調査

⑤ 抽選会

→ 姫ラボさんや観光連盟にご協力いただき 5 等までの景品を用意

⑥ 絵馬の奉納

→ 八重垣神社へ依頼。

⑦ 松江キャンパスの PR

→ 一角では島根県立大学松江キャンパス PR として、パンフレットや小さな旗を置いたところ 1 回目と 2 回目ともに手にとってくれる方がいました。

⑧ しまねっこの出演

→ 島根県大阪事務所へ依頼。

⑨ しまねっこの塗り絵

観光連盟へしまねっこ使用許可の依頼。

■ 活動を通して分かったこと

今回私たちはイベント後アンケート調査で行った島根県のどのような場所に興味を持ったかを集計し、自分たちでチラシを作成し高速バスなどの待合所においていただくことを目標としていました。しかし、しまねっこの出演やお子様向けのイベントを中心とした内容へ変更したことや、私たちの時間の使い方によりチラシ作成まで手が回らず作成することができませんでした。

しかし、イベントではご来場者の方に私たちのイベントを見て「島根県へ行きたくなった。」「神在祭への予約をしてきた。」とおっしゃってくださる方もいました。

さらに、第 2 回目のイベントでは、パンフレットのセットを 200 部以上お渡しすることができ用意してい

た分をすべて配布することができました。しまねっこの塗り絵コーナーではたくさんのお子様にご来場いただき、しまねっこともたくさん触れ合ってくださいました。この点から、「島根県へ少しでも知識や興味をもっていただく」「行きたくなるような PR イベントにする」という目標は少しですが達成することができたと考えています。

一方で、ドリプロ発表会の際に、私たちの活動は成果のはかり方が難しいとご指摘いただきました。実際に学校や島根県へ持ち帰るものや目に見えるものとしての成果を出すことはできませんでした。しかし、たくさんの方々にご来場いただき、自分たちで島根県を発信していくことで自分たちの来てほしいという思いが伝えることができたと感じています。

また、2 回目のイベントを通して自分たちで企画を一から行う難しさや、提案していく姿勢と仲間との協力、計画性の重要性の大切さを学ぶことができました。さらに、今まで以上に島根県の魅力に気づき、もっと知りたいと感じるようになりました。

このイベントは今後の活動を予定していませんが、これからも自分たちの好きな島根県の魅力を友人や地元の人に伝えていきたいと考えています。

✓ キラキラ枠（採択額 10 万円）

チーム名：島根探訪隊

プロジェクト名：知られざる島根探訪～島根の魅力を再発掘！～

■ プロジェクトの目的

島根県内の辺境の地や観光地でない土地へ赴き、行き先や道中での様々な出会いやその地域の人々の思いや隠された歴史を収集します。そして、自分が考えたことや、島根県の人が気付かない島根の魅力を紀行文として表現し、他の人に伝え、保存します。紀行文を通して、島根の人に観光名所だけでは分からない島根の魅力や島根の人が気づかないような魅力を発見してもらい、配布した人に故郷の良さを再認識してもらうことが目的です。

また、島根を通して他県へのまなざしを開きます。島根だけでなくどこの地域にもその土地の人が気づかないような魅力があり、このプロジェクトを通して自分の地元や他地域を見つめ直すことが目的です。

■ 活動内容

- ① 仁多郡奥出雲町：平成 29 年 10 月 28 日（土）取材対象：木次線、伊賀多氣神社
- ② 江津市桜江町：平成 29 年 11 月 3 日（金）取材対象：山陰柴犬、三江線
- ③ 邑智郡邑南町：平成 29 年 11 月 4 日（土）取材対象：三江線、宇都井駅、うづい通信部
- ④ 出雲市大社町日御碕：平成 29 年 11 月 5 日（日）取材対象：稲佐の浜、日御碕灯台
- ⑤ 出雲市多伎町：平成 29 年 11 月 12 日（日）取材対象：多伎神社、もりあをがえるのいけ
- ⑥ 津和野町日原：平成 29 年 11 月 23 日（木）取材対象：日原天文台、瑞風

- ⑦ 松江市美保関町七類：平成 29 年 12 月 10 日（日）取材対象：メテオプラザ（隕石）、七類大日堂

■ 情報発信

しまね大交流会 2017（11 月 18 日）

ブースの展示や当日準備、ブースの説明を友人に手伝ってもらい、二人でプレゼンを行いました。展示は今まで訪ねた場所の写真や探訪隊隊長（牧）がいなかったときのために隊長の大きい写真を貼り付けたりしました。また、今まで撮りためた写真をスライドショーにしたり、御朱印帳を机の上に置きました。

午前中には、ブース同士での交流会が行われました。そこで様々な企業ブースの方々と名刺交換をして、自分のブースの PR を積極的に行いました。

また、午後から実施された交流会本番のプレゼンでも様々な年代の人々に対してプレゼンを行いました。このプレゼンを通して、より多くの人に島根探訪隊の活動が伝わったと思います。



島根県知事に活動を紹介

■ 今後の活動について

今後は学内外で隊員をつのって個人の活動として継続していきたいと思います。活動報告は Facebook の「島根探訪隊」のホームページに活動内容を記載していく予定です。

✓ キラキラ枠（採択額 10 万円）

チーム名：チーム先輩&後輩

✓ **プロジェクト名：『Amvision』**

■ プロジェクトの目的

① 県立短大のキャリアにおける課題

1 回生メンバーの目線と思う、県立短大のキャリアにおける課題を各自が出し合い、2 回生メンバーとともに精査を行った。その結果

- ・人生や大学生活の引き出しの数が少ない
- ・枠にとらわれないより多くの価値観や考え方に触れる機会が少ない

の、以上大きく 2 点課題があると考えた。

② 私達が注目したポイント

前述したような課題から、私たちはどのように解決していけばよいのか考えた。私たちは、対話の

中でより多くの人生の選択肢を知り、卒業後の可能性を広げることを目的・目標とし、県立短大の学生を対象に、学生主体で社会人の方とフラット（対等・同じ視点）な立場でお話ができるイベントを数回開きたいと考えた。これがこのプロジェクト始動のきっかけである。

③企画のゴール

私たちメンバーとしては、「キャリア活」などのイベント運営を通して、ゼロから企画を作り上げるスキルを育て、ゲストの方へのアポ、打ち合わせを通して、自分の言葉で話す力やコミュニケーション力の向上を図ることも大きな目的・目標の一つとしてかかげた。またメンバーも含め、学生は早くも迫り来る「就活」に対してのイメージが薄く、どのように一步を踏み出していいか、どのような人生の歩み方があるのかわからない点も多かった。そのため、イベントをきっかけとして、最終的に各々が自分の後悔しない進路の決定につなげることが出来たら、このプロジェクトは成功といえるのではないかと考えている。

■ 活動内容

週に一回程度ミーティングを開き、メインコンテンツである全3回の『キャリア活』（ワークショップ）の計画・準備を進めた。キャリア活とは、各回でテーマを設定し、そのテーマに基づいたゲストを招き、短大の1年生が就活や学生時代のこと、地域の課題、働くことについて開き、自分たちのキャリアについて考えるワークショップである。また、活動の中で様々な大人の方の話を聞く機会を設け、人生観や職業観を広げることに力を入れた。

7月 ドリプロ審査会 採択決定（6日）

8月 ワークショップの概要を決めた

9月 第1回キャリア活に向けての準備、
ゲストの方とのミーティング

10月 第1回キャリア活『キャリア活～枠にとらわれない
生き方～』開催（23日）

11月 しまね大交流会参加（18日）

第2回キャリア活『キャリア活～リアル短大生の
就活を知る～』（22日）

12月 第3回キャリア活『キャリア活～しまねで働くこと～』（18日）



キャリア活の様子

■ 活動実績

しまね大交流会 2017 @くにびきメッセ

・日時：11月18日（土） 11:00～17:00

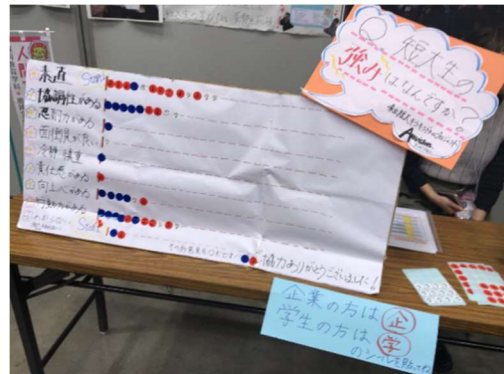
・出展内容：就職活動に向けて、四大生と短大生の違いを企業や学生などの様々な視点をブースに来て頂

いた学生や企業の方にアンケート調査した。

アンケート内容…短大生に足りないもの、短大生の強みと弱み

- ・アンケート方法：以下の選択肢をボードに参照し、該当するものにシールを貼付してもらった。「企業」「学生」でシールの色を分けた。全体の回答数だけでなく、属性ごとの回答数でも比較し、世代別のイメージも考察した。

1	素直
2	協調性がある
3	忍耐力がある
4	面倒見がいい
5	冷静・慎重
6	責任感がある
7	向上心がある
8	行動力がある
9	県短を知らない、わからない



- ・アンケート結果：「素直」、「行動力がある」という回答が最も多かった。このことからこの二つは短大生の強みだと言える。しかし、回答結果の中には、当初は設けていなかった「県立短大を知らない、よくわからない」というものがあった。これは、大学自体や学生の活動を、より多くの方に知ってもらう必要があると感じた。この点が短大生の弱みであると考えた。アンケート方法の反省点としては、自分たちのブースのみでのアンケートだったため、思っていたより少ない回答数となった。自分たちが自ら会場を回り、多くの人にアンケートを取るべきだった。また、本学の情報が少ない、本学自体を知られていないと感じたため、短大を紹介するポップを設置し、宣伝すべきだった。

■ SNS について

- ・Twitter：<https://twitter.com/amvision2017>

主に学生をフォローしミーティングの様子やイベント呼びかけで使用。

- ・Facebook：<https://www.facebook.com/amvision.univofshimane/>

Twitter と異なり、年齢層が高い人に活動内容を知ってもらえるよう努めた。

→キャリアのイベントということもあり、気軽に参加できないイメージがあることを考慮した。そこで「友達と〜」「お菓子をたべながら〜」などの記載によって参加しやすいイメージづくりを徹底した。FB では記事を見てイベントに参加した島根大学生もいた。メンバーや参加者の協力のもと記事を拡散し、より多くの人にこの活動を知ってもらうことが課題であると感じた。

■ 成果および感想

審査会当初に述べた企画を通じて得たいものについて、以下の2点を各自振り返る。

- ① スキル面…イベント運営や企画実行において、当初の目標からどれくらい成長したか、どんな力が身についたかなど
- ② 価値観面…社会人の方から話し聞いたことによって、より多くの働き方や人生プランを知れたか、自分の就活やキャリアに影響のあったこと、考えたことなど

(Y)

- ① ミーティングやイベントを進行するにあたって、参加者、ゲスト、主催者全体を見渡して行動する力、物事を俯瞰してみる力がついた。ミーティングを進行する際の準備をどうすればいいかわからなくて、無駄な時間が過ぎる、何をしているかわからない時間が過ぎることが始めは多くあった。何を決めるのか、考えるのか、それらにはどれくらいの時間を要するのか事前に準備しておくことの難しさを痛感した。また、イベントの時は、ある程度イメージトレーニングをして想定外を最小限またはゼロに近い状態にする必要があること、それを主催者にも伝え、全体が同じモチベーションで臨む必要性があることを学んだ。目の前のことに集中しつつ、今の進捗状況や不足点など一歩引いた視点で企画をみるのが大切だ。その力が付いたかは微妙だが、姿勢は習得できた。また、メンバー同士でのささいなコミュニケーションの中でも多くの学びがあった。頼みごとをするときの伝え方や、仕事以外のおしゃべりの積み重ねが、企画を進めるにあたってやりやすさが生まれることなど日々勉強だった。全体の反省としては、もっと1年生を頼ればよかったこと、計画を綿密に立てればよかったことなどの2点がある。
- ② 主催者としてゲストを呼ぶ立場だったので、実際に深い話を聞くことは少なかったが、卒業生の方や経営者の方と関わる中で感じたのは、好奇心を持って行動し、目の前のことを一生懸命すればやりたいことは見つかることだ。今回お会いした方々は、好奇心旺盛で自分の人生や社会（地域）に貢献したいといった情熱的な方ばかり。私も2か月後には社会人として自分が納得できるキャリアを築いていきたいと思う。

(F)

- ① 主催者としてイベントをする時には常に周りを見て行動するということが大切だと感じた。大人の方と直接連絡をとったり打ち合わせをしたりすることは初めてでとても戸惑ったが、何事もまずはやってみることが大切だと感じた。大人の方との関わり方を就職活動にすぐに生かすことができた。初めは楽しんでやれたら良いと考えていたが、人を巻き込んで何かをするということは大変だと身をもって感じた。しかし、これを経験として社会人として頑張りたい。
- ② たくさんの社会人の人と話すことで自分が学生だからと甘えている部分が多いのではと感じた。春から社会人になるため大人としての行動をとりたいと思うようになった。今回の活動を通して自分を見つめ直すことができた。また、短大を卒業された先輩に話を聞き、同じ短大を卒業していても多様な働き方があると知ることができた。楽しそうに話してくださる姿に、私も卒業後に後輩に仕事や就活のことを話せる機会があればいいと思った。

7) おはなしレストランライブラリーの地域連携活動



▲おはなしレストランライブラリーでの「おはなしのじかんスペシャル」

「読み聞かせの実践」は、健康栄養学科、保育学科、総合文化学科の学生計 53 名が受講し、幼保園のぎ、乃木小学校で読み聞かせの活動を活発に行った。

毎週日曜日におはなしレストランライブラリーで行う「おはなしのじかん」は本年度も多くの親子連れでにぎわった。とくにたなばた会、クリスマス会などのスペシャルバージョンの時には 100 名を超える来場者があり、おはなしゼミの学生も趣向を凝らした劇や読み聞かせで迎えた。



▲那覇市立開南小学校での読み聞かせ

おはなしゼミでは、出前シェフの一環として、平成 29 年 9 月に沖縄県那覇市立開南小学校を訪問し、全校生徒を対象に絵本の読み聞かせを行った。学年ごとに読み聞かせに合わせて島根県の紹介も行い、その後は校長先生はじめ教員の皆さま、読み聞かせボランティアの保護者の方々と交流会を持ち、楽しく有意義な時間を過ごすことができた。

ライブラリーの利用については、学外からの来館者を中心に年々増え続けている。

平成 29 年度 おはなしレストランの

読み聞かせ活動

- ◆松江市立幼保園のぎ：参加学生 53 名
- ◆松江市立乃木小学校：参加学生 61 名
- ◆松江市立忌部小学校：参加学生 9 名
- ◆ライブラリー：参加学生 9 名

おはなしレストランライブラリー

月平均の来館者人数・貸出冊数

(平成 29 年 4 月～平成 30 年 2 月)
 学内：来館者 256 人、貸出 290 冊
 学外：来館者 1,414 人、貸出 5,505 冊

平成29年度公開講座「椿の道アカデミー」開催状況

No.	講座名	開催日	講師	受講者数	
1	総合文化講座（全9回）	街にアートの種をまく	6月7日	高嶋敬典（写真家・アートプランナー）	53
		「女性」像から考える文化	6月21日	渡部周子	40
		マス・コミ報道とSNSに観る「反・知性」主義への対応～無関心層拡大傾向への懸念～	7月5日	瓜生忠久（浜田キャンパス教授）	42
		観光と異文化体験	7月19日	キッドダスティン	35
		仏教の伝来とインド音楽～和讃・御詠歌や子守唄に残る古代インド悠久の響き～	9月20日	瀬古康夫（元本学教授）	43
		続・天変の文化史-幕末期に出現した彗星をめぐる-	9月27日	杉岳志	32
		インドネシアのムスリムファッションの現状	10月11日	塩谷もも	27
		映画で考えるアメリカの光と影	10月25日	小玉容子	30
		小泉八雲と「図書館」をめぐる物語	11月8日	小泉凡	32
2	大人のための源氏物語—夕霧の恋を読む—【続編】（全10回）	5月31日～12月13日	三保サト子（本学名誉教授）	619	
3	出雲学概論（全5回）	神々の国、神話の国	6月16日		86
		神話その一：国引き	7月21日		71
		神話その二：国譲り	8月18日	藤岡大拙（元本学学長）	74
		平安時代の不思議なできごと	9月1日		74
		顕幽論：伊勢対出雲	9月22日		71
4	椿の道読書会（全9回）	5月15日～2月19日	北井由香	116	
5	しまね消費生活まちづくり講座（全2回）	消費者目線のお買い物	6月15日	藤居由香	8
		居住者目線の住宅選び	7月13日		5
6	子どもの遊びと実技（音楽を楽しむプログラム）	音楽遊びを楽しもう	8月4日	梶間奈保	3
		音楽をつくろう～絵本の読み聞かせと一緒に～	8月4日		2
		音楽をロザさもう～四季で味わう日本の歌～	8月6日	渡邊寛智（保育学科非常勤講師）・渡邊芳恵（鳥取短期大学非常勤講師）	4
7	学校司書のための学校図書館基礎講座（全5回）	学校図書館の機能と役割	8月17日	片山ふみ（聖徳大学講師）	11
		学校図書館と著作権		石井大輔	
		コレクションの構築と組織化	8月18日	片山ふみ（聖徳大学講師）	11
		読書の推進		天野佳代子（鳥取大学付属小学校図書館教育専門教諭）	
8	健康栄養講座：続 健康とアンチエイジング（全3回）	①健康とアンチエイジング②寿命に影響する要因	8月8日	①名和田清子 ②直良博之	9
		①子育てでアンチエイジング	8月22日	①前林英貴	8
		①食品のエイジングと人への影響②食品の抗酸化作用	8月29日	①籠橋有紀子 ②赤浦和之	7
9	子どもがいる家庭のための英語教育実践講座（全3回）	ガイドダンス、幼児・児童英語教材について（1）	6月7日		5
		幼児・児童英語教材について（2）	6月14日	ラングクリス	4
		幼児・児童英語教材について（3）	6月21日		4
10	英語絵本の音読と読み聞かせ（全5回）	英語絵本の読み聞かせガイドダンス・教材紹介	6月28日		5
		絵本の読み聞かせ、英語の歌（1）	7月12日		7
		絵本の読み聞かせ、英語の歌（2）	7月19日	小玉容子・キッドダスティン	8
		絵本の読み聞かせ、英語の歌（3）	7月26日		6
		絵本の読み聞かせ実践	7月30日		7
11	ワードで情報発信（全10回）	ガイドダンス、ワードの基本的な操作の確認	5月10日		21
		DTPの基礎知識	5月17日		19
		使える素材、写真の加工、素材の収集	5月24日		18
		DTPで使えるワードのテクニック（1）	5月31日		18
		DTPで使えるワードのテクニック（2）	6月7日		18
		名刺サイズ、はがきサイズのものを作る	6月14日	小倉佳代子（本学非常勤講師）	21
		ポスターサイズのものを作る	6月21日		18
		パンフレットの作成（1）	6月28日		18
		パンフレットの作成（2）	7月5日		20
		印刷、まとめ	7月12日		18
12	パワーポイントでまとめる・つたえる（全10回）	パワーポイント及びワード・エクセルの基本操作の確認	10月4日		10
		パワーポイントの基本の操作	10月11日		9
		スライドの作成	10月18日		9
		スライド作成のテクニック（1）	10月25日		9
		スライド作成のテクニック（2）	11月1日	小倉佳代子（本学非常勤講師）	6
		ワード、エクセル、その他ソフトの連携	11月8日		8
		スライドに動きを付ける	11月15日		9
		パワーポイントでスライド以外の資料を作る	11月22日		7
		印刷について	11月29日		6
		まとめ	12月6日		7
13	山陰民俗学会連携講座：民俗の行方～山陰のフィールドから考える～Part5（全4回）	中四国伝承の受け型桃太郎を中心に	7月22日	酒井善美（山陰民俗学会会長）	23
		三瓶信仰と周辺行事への影響	7月29日	多田房明（大田市鳥井小学校長）	15
		鳥根の妖怪伝承を活かす	8月19日	小泉凡	14
		忘れられた神話—『瀬戸の縁起』の成立と背景	8月26日	中野洋平（鳥根大学地域未来戦略センター）	22
14	民族音楽の楽しみ・ガムラン教室（全12回）	5月6日～10月21日	瀬古康雄（本学元教授）	70	
15	地域社会の心理学（全3回）	8月26日・9月9日・9月16日	飯塚由美	34	
16	文化資源探求講座	11月3日	岡部康幸（NPO法人出雲学研究所会員）・小泉凡	19	
17	子どもの遊びと実技（運動遊び）（全2回）	運動遊び（ボール遊び・コーディネーション運動）	8月5日		中止
		運動遊び（スポーツ鬼ごっこ）	9月2日		中止
18	子どもの遊びと実技（造形遊び）（全2回）	作ってあそぼう1	9月23日	北原則夫（元NHKプロデューサー）・福井一尊	18
		作ってあそぼう2	9月30日	山尾淳子（保育学科非常勤講師・元幼稚園長）・福井一尊	8
19	入門Webページの作り方（全5回）	講習会の進め方・Webページの「構造」について・文字の話・HTML（1）画面に文字を出す・リンクを貼る・画像を出す	7月22日		14
		HTML（2）リスト・表・フォームを作る・CSSの準備	7月29日		12
		CSS（1）文字の装飾・装飾箇所の規程の仕方	8月5日	高橋純	10
		CSS（2）場所の移動・文字の細かい設定・配置の細かい設定	8月19日		12
		動きのあるサイトを作る（JavaScript、その他の言語）・まとめ	8月26日		11
				延（人）	2110

平成29年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

1 講演会講師等

NO.	教員名	依頼先	内容（テーマ等）	日付
1	名和田 清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県栄養士会及び松江地区会	平成29年度島根県栄養士会生涯教育 実務研修「食物アレルギーについて」、参加者：島根県栄養士会会員30名	平成29年6月3日
2	名和田 清子（健康栄養学科教授）	雲南保健所	平成29年度炎症性腸炎患者・家族学習会（雲南地区）講演「炎症性腸疾患における食事療法の豆知識～夏の上手な水分の取り方と食事～」及び調理実習「簡単！おいしい！楽しい！旬の食材を使ったやさしい調理」、参加者：患者家族8名、保健師等2名、学生2名	平成29年6月24日
3	名和田 清子（健康栄養学科教授）	中国地区糖尿病看護研究会	第9回中国ブロック糖尿病看護スキルアップセミナー 講師 「腎臓病をわかりやすく伝えるために」、参加者：看護師等40人	平成29年6月25日
4	名和田 清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県栄養士会及び雲南地区会	平成29年度島根県栄養士会生涯教育 実務研修「ライフステージごとの食教育のありかた 栄養管理についての最近の話題」、参加者：島根県栄養士会会員30名	平成29年6月30日
5	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県学校栄養士会	平成29年度島根県学校栄養士会研修会 講師、講演「栄養ケアプロセスについて最近の話題」参加者：島根県学校栄養士77名	平成29年7月27日
6	名和田 清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県栄養士会	平成29年度島根県栄養士会生涯教育 基本研修「栄養ケアプロセス～栄養アセスメント～」参加者：島根県栄養士会会員50名	平成29年7月29日
7	名和田 清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県栄養士会及び安来地区会	平成29年度島根県栄養士会生涯教育 実務研修「食と栄養の基礎知識」、参加者：島根県栄養士会会員30名	平成29年8月5日
8	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県体育協会	隠岐島前高校 スポーツ栄養研修会 講師 講演「日本人の食と健康の現状と課題」、参加者：隠岐島前高校運動部員30名	平成29年10月27日
9	名和田 清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人日本栄養士会	平成29年度研究教育事業部中国・四国ブロック研修会「平成29年度研究教育事業部全国リーダー研修会報告および研究教育事業部事業について」、参加者30名	平成29年11月3日
10	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県社会福祉協議会	平成29年度 保育士キャリアアップ研修 松江会場 講演「食物アレルギーを持つ子どもへの対応」参加者：保育士・栄養士など120名	平成29年12月18日
11	名和田 清子（健康栄養学科教授）	まつえ市民大学	いきいき健康コース（13回 第13回担当）「元気に育ち、元気に老いる ～フレイル脱出法～」参加者：60名	平成30年1月18日
12	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県社会福祉協議会	平成29年度 保育士キャリアアップ研修 浜田会場 講演「食物アレルギーを持つ子どもへの対応」参加者：保育士・栄養士など69名	平成30年1月25日
13	名和田 清子（健康栄養学科教授）	出雲保健所	平成29年度炎症性腸炎患者・家族学習会（出雲地区）講演及び調理実習「旬の食材を使って食も楽しもう～体調に合わせた食事の工夫～」及び調理実習参加者：患者家族11名、保健師等6名	平成30年3月4日
14	名和田 清子（健康栄養学科教授）	出雲保健所	平成29年度 食育推進研修会 講演「ライフステージを通じた食育の推進」及び実践発表とグループワークへの助言、参加者：保育所（園）・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・学校給食センターの職員、市食育担当、食のボランティアグループ、出雲圏域健康長寿しまね推進会議食生活分科会、農業団体、企業、食育に関心のある者等86名	平成30年3月5日
15	山下 由紀恵（保育学科教授）	島根県幼児教育研究会	平成29年度幼児教育研究会セミナー講師「就学前後の発達と学習について」	平成29年8月10日
16	山下 由紀恵（保育学科教授）	島根県健康福祉部	平成29年度児童相談所・市町村職員等専門研修会講師「子どもの成長・発達と生育環境」	平成29年8月24日
17	山下 由紀恵（保育学科教授）	安来市幼児教育研究会	平成29年度安来市幼児教育研究会原理講習会講師「幼児教育の新たな動向について」	平成29年12月15日
18	藤原 映久（保育学科准教授）	島根県里親会	第64回中国地区里親大会第一分科会（里親開拓と里子の自立支援について）助言者 助言者として講演「里親開拓と里子の自立支援」	平成29年5月28日
19	藤原 映久（保育学科准教授）	松江赤十字乳児院	養育を考える会 助言者	平成29年5月30日
20	藤原 映久（保育学科准教授）	島根県社会福祉協議会	平成29年度放課後児童支援員認定資格研修（島根県）講師 「特に配慮を要する子どもの理解」	平成29年6月27日 平成29年10月1日 平成29年11月15日
21	藤原 映久（保育学科准教授）	島根県健康福祉部	平成29年度島根県児童相談所・市町村職員等専門研修会 講師 「子ども家庭相談援助制度及び実施体制」	平成29年8月23日
22	藤原 映久（保育学科准教授）	鳥取県児童館連絡協議会	2017年度 鳥取県児童館連絡協議会職員研修会 講師 「集団援助活動（グループワーク）」	平成29年10月13日
23	藤原 映久（保育学科准教授）	島根県西部発達障害者支援センターウィンド	平成29年度ペアレントメンター養成研修ベーシックコース オブザーバー	平成29年11月9日
24	藤原 映久（保育学科准教授）	島根県西部発達障害者支援センターウィッシュ	平成29年度ペアレントメンター養成研修フォローアップコース オブザーバー	平成29年12月16日
25	藤原 映久（保育学科准教授）	島根県健康福祉部	平成29年度民間の児童養護施設職員等の処遇改善に係る研修 講師 「被虐待児等特に個別の対応が必要とされる児童への理解」	平成29年12月25日
26	藤原 映久（保育学科准教授）	邑南町	邑南町「子どもの心を考える会」研修会 講師 「子どものこころの育ちを支える～子どもの応援団として私たちができること～」	平成30年2月8日
27	藤原 映久（保育学科准教授）	大田市	大田市内の公立保育園の保育士・調理員を対象とする研修会 講師 「子どもの権利を守る保育現場のために」	平成30年3月11日
28	藤原 映久（保育学科准教授）	長門市社会福祉協議会 児童養護施設 俵山湯の里	俵山湯の家にて職員を対象とする施設内研修 講師 テーマ：性問題行動、性（生）教育	平成30年3月23日
29	小泉 凡（総合文化学科教授）	ヘルン先生鳥取倶楽部	講演会 「小泉八雲と輪廻転生の物語～『勝五郎の再生』をめぐる～」 参加者：会員および市民28名	平成29年4月22日
30	小泉 凡（総合文化学科教授）	マスカット朗読館	岡山県立図書館開催のマスカット朗読館主催事業「小泉八雲の物語」 「ラフカディオ・ハーンを語る」 参加者：会員80名、一般市民30名	平成29年4月23日
31	小泉 凡（総合文化学科教授）	加賀潜戸記念事業実行委員会	名勝天然記念物指定90周年記念 加賀の潜戸まつりにて講演会 「小泉八雲と加賀潜戸ーオープン・マインドでみた日本文化の深層」 参加者：一般市民50名	平成29年5月13日
32	小泉 凡（総合文化学科教授）	金沢八雲会	金沢八雲会 創立記念 講演会 「小泉八雲一開かれた精神の軌跡を辿る」 参加者：会員10名、一般市民20名	平成29年6月10日
33	小泉 凡（総合文化学科教授）	島根大学	島根大学「ジオパーク入」門にて講座 「文学にみるジオの風景～小泉八雲のみたジオの世界」 参加者：学生300人	平成29年6月26日
34	小泉 凡（総合文化学科教授）	私立幼稚園PTA連合会	私立幼稚園PTA連合会 松江大会における講演会 「未来へつなぐオープン・マインドと五感力」 参加者：会員200名	平成29年8月21日
35	小泉 凡（総合文化学科教授）	小泉八雲朗読のしらべin赤間 神宮 実行委員会	下関赤間神宮における小泉八雲朗読のしらべトーク講師 「夢幻：夢とうつつのあわいに現れるものたち」 参加者：300人	平成29年8月26日
36	小泉 凡（総合文化学科教授）	朝日カルチャーセンター湘南	文化講座 「妖怪を訪ねて：神々の国（出雲）に息づく妖怪伝承」 参加者：20名	平成29年8月27日
37	小泉 凡（総合文化学科教授）	焼津市・焼津市教育委員会	小泉八雲来松120年/焼津小泉八雲記念館開館10周年記念 公演とシンポジウム 講師 「地域資源としての文学—小泉八雲による地域づくり—」 参加者：150名	平成29年10月8日

平成29年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

1 講演会講師等

NO.	教員名	依頼先	内容（テーマ等）	日付
38	小泉 凡（総合文化学科教授）	中国四国ブロック青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会	研修会講師 「小泉八雲—オープン・マインドでみた日本—」 参加者：20名	平成29年10月14日
39	小泉 凡（総合文化学科教授）	米子市立図書館	平成29年度郷土文化講演会 講師 「小泉八雲の世界から—地域資源としての作家と文学—」 参加者：80名	平成29年10月21日
40	小泉 凡（総合文化学科教授）	松江湖城ライオンズクラブ	第1281回例会 講師 「文化資源としての作家と文学—小泉八雲の世界から—」 参加者：100名	平成29年11月7日
41	小泉 凡（総合文化学科教授）	IZUMO NIGHT実行委員会	シンポジウム講師（岡本雅幸氏・河野美知氏とのコラボ） 「出雲を原郷とする人たち」 参加者：60名	平成29年11月11日
42	小泉 凡（総合文化学科教授）	南平台自治会	南平台文化祭講演会講師 「小泉八雲の世界」 参加者：20名	平成29年11月18日
43	小泉 凡（総合文化学科教授）	NHKカルチャー米子教室	講座講師 「小泉八雲と水木しげるの世界—響き合う世界観—」 参加者：15名	平成29年11月25日
44	小泉 凡（総合文化学科教授）	松江市立中央図書館	講座「小泉八雲に学び・親しむ」講師 「小泉八雲と図書館をめぐって」 参加者：25名	平成29年12月17日
45	小泉 凡（総合文化学科教授）	松江観光協会	ボランティアガイド研修講師 「松江からみる世界の小泉八雲」 参加者：18名	平成30年2月13日
46	小泉 凡（総合文化学科教授）	日本銀行松江支店	日銀松江支店100周年記念講演会講師 「地域資源としての作家と文学—小泉八雲と怪談を活かした観光と文化創造—」 参加者：100名	平成30年2月21日
47	小泉 凡（総合文化学科教授）	JR西日本やまぐち支店	観光列車「〇〇のはなし」車内イベント トーク講師 「小泉八雲と『耳なし芳一』の話をめぐって」 参加者：両日計100名	平成30年3月17・18日
48	マヌー あき（総合文化学科教授）	島根県社会福祉協議会	保育士就職支援セミナー 講義「絵本を楽しむ、子どもと楽しむ」	平成29年9月19日
49	古賀 洋一（総合文化学科講師）	株式会社三省堂	次期中学校国語教科書編集に関わる社内研修会・講師 （三省堂教科書編集委員6名）	平成29年8月25日

2 審議会委員等

NO.	教員名	委嘱（依頼）先	役職名	期間
1	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県	松江圏域健康長寿しまね推進会議 「食」の分科会 座長	平成28年4月～
2	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県	島根県食育・食の安全推進協議会委員	平成19年4月～
3	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県	島根県健康長寿しまね推進会議 委員	平成17年 4月～
4	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県	島根県糖尿病専門委員会 委員	平成19年 4月～
5	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県	島根県中山間地域等進行対策検討委員会 委員	平成22年 4月～
6	名和田 清子（健康栄養学科教授）	雲南市	雲南市学校給食調理業務等委託評価委員会 委員長	平成24年4月～
7	名和田 清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会 理事	平成24年5月～
8	名和田 清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会生涯教育委員長	平成26年4月～
9	名和田 清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県学校給食会	公益社団法人島根県学校給食会 評議員	平成24年 6月～
10	名和田 清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人日本栄養士会	公益社団法人日本栄養士会 研究教育事業部企画運営委員会 副委員長	平成26年 8月～
11	名和田 清子（健康栄養学科教授）	まつえ市民大学運営協議会	まつえ市民大学運営協議会 委員	平成25年 4月～
12	名和田 清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会 副会長	平成26年6月～
13	名和田 清子（健康栄養学科教授）	奥出雲町	奥出雲町食育推進委員会 委員長	平成27年8月
14	名和田 清子（健康栄養学科教授）	公益社団法人島根県障害者スポーツ協会	公益社団法人島根県障害者スポーツ協会 トップアスリート強化支援事業強化支援チームメンバー	平成28年8月～
15	名和田 清子（健康栄養学科教授）	公益財団法人島根県体育協会	公益財団法人島根県体育協会専門委員会 委員	平成27年6月～
16	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県教育庁保健体育課	平成29年度「つながる食育推進事業」食育推進検討委員会 委員	平成29年7月11日～平成30年2月28日
17	名和田 清子（健康栄養学科教授）	松江市教育委員会	松江市立南学校給食センター整備及び運営事業者選定委員会 委員	平成29年6月15日～平成30年3月31日
18	籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	中国地域産学官連携コンソーシアム	中国地域産学官連携コンソーシアム連絡会議委員	平成25年4月1日～
19	石田 千津恵（健康栄養学科助教）	島根県	平成29年度島根県調理師試験委員	平成29年4月26日～10月31日
20	岸本 強（保育学科教授）	（公財）島根県体育協会	しまね広域スポーツセンター企画運営委員会 副委員	平成17年9月～
21	岸本 強（保育学科教授）	（公財）島根県体育協会	普及委員会 副委員長	平成25年5月～
22	岸本 強（保育学科教授）	（公財）松江スポーツ振興財団	理事	平成25年6月～
23	岸本 強（保育学科教授）	雲南市	身体教育医学研究所うんなん運営委員会 委員	平成28年6月～
24	岸本 強（保育学科教授）	松江市	松江市総合戦略推進会議 委員	平成28年9月～
25	岸本 強（保育学科教授）	島根県教育委員会	島根県スポーツ推進審議会 会長	平成28年12月～
26	岸本 強（保育学科教授）	島根県バレーボール協会	島根県バレーボール協会 顧問	平成29年5月～

平成29年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

2 審議会委員等

NO.	教員名	委嘱（依頼）先	役職名	期間
27	岸本 強（保育学科教授）	島根県教育委員会	部活動の在り方検討会 会長	平成29年8月～
28	岸本 強（保育学科教授）	島根県教育委員会	島根県教育職員育成指標協議会 委員	平成29年11月～
29	山下 由紀恵（保育学科教授）	松江市	松江市子育て支援ネットワーク会議委員	平成19年5月～
30	山下 由紀恵（保育学科教授）	松江市	松江市心身障害児小規模療育事業検討委員	平成19年5月～
31	山下 由紀恵（保育学科教授）	松江市	松江市教育委員会専門巡回相談事業相談員	平成23年8月～
32	山下 由紀恵（保育学科教授）	益田市	益田市子ども・子育て会議委員	平成28年1月～
33	山下 由紀恵（保育学科教授）	島根県	島根県障がい者自立支援協議会委員	平成23年4月～
34	山下 由紀恵（保育学科教授）	島根県	島根県子ども・子育て支援推進会議 幼保連携型認定こども園検討委員会委員長	平成25年10月～
35	山下 由紀恵（保育学科教授）	島根県教育委員会	島根県しまねのふるまい推進連絡協議会会長	平成25年7月～
36	山下 由紀恵（保育学科教授）	島根県社会福祉協議会	保育の就職支援プロジェクト会議委員	平成27年4月～
37	山下 由紀恵（保育学科教授）	公益財団法人島根県育英会	理事	平成27年6月～
38	山下 由紀恵（保育学科教授）	NPO法人日本ボーテジ協会	理事	平成25年6月～
39	藤原 映久（保育学科准教授）	社会福祉法人つわぶき	社会福祉法人つわぶき評議員専任・解任委員会 委員	平成29年1月4日～ 平成33年1月4日
40	藤原 映久（保育学科准教授）	公益財団法人島根県障害者スポーツ協会	障がい者スポーツ活動支援助成金審査委員会 委員	平成29年3月2日～ 平成31年3月1日
41	藤原 映久（保育学科准教授）	島根県社会福祉協議会	島根県社会福祉協議会 評議員	平成29年4月1日～ 平成33年6月
42	藤原 映久（保育学科准教授）	島根県	島根県立わかたけ学園整備検討委員会 委員	平成29年5月30日～ 平成30年3月31日
43	藤原 映久（保育学科准教授）	松江市	松江市障がい者総合支援協議会 委員	平成29年6月1日～ 平成31年3月31日
44	藤原 映久（保育学科准教授）	松江家庭裁判所	松江家庭裁判所委員会 委員	平成29年10月1日～ 平成31年9月30日
45	小泉 凡（総合文化学科教授）	松江市観光振興部観光施設課	小泉八雲記念館館長	平成29年4月～平成30年3月
46	小泉 凡（総合文化学科教授）	公益財団法人エネルギー・文化スポーツ財団	公益財団法人エネルギー・文化スポーツ財団理事	平成29年5月～平成31年5月
47	小泉 凡（総合文化学科教授）	公益財団法人池田記念スポーツ文化財団	公益財団法人池田記念スポーツ文化財団理事	平成29年6月～平成31年6月
48	小泉 凡（総合文化学科教授）	島根県立美術館	島根県立美術館協議会委員	平成28年5月～平成31年5月
49	小泉 凡（総合文化学科教授）	松江市観光振興部国際観光課	アイリッシュ・フェスティバルin松江実行委員会委員長	平成29年10月～平成30年3月
50	マヌー あき（総合文化学科教授）	島根県	島根県個人情報保護審査会委員	平成28年4月～平成30年4月
51	マヌー あき（総合文化学科教授）	島根県	島根県情報公開審査会委員	平成28年10月～平成30年10月
52	マヌー あき（総合文化学科教授）	島根県立三刀屋高等学校	島根県立三刀屋高等学校 学校評議員	平成29年5月～平成30年3月
53	藤居 由香（総合文化学科准教授）	松江市	都市計画審議会 会長（都市マスタープランの審議）	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日
54	藤居 由香（総合文化学科准教授）	松江市	歴史まちづくり推進協議会 委員	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日
55	工藤 泰子（総合文化学科教授）	松江市	松江歴史館運営協議会委員	平成26年11月～
56	工藤 泰子（総合文化学科教授）	松江市	松江市立女子高等学校学校評議員	平成27年4月～
57	山村 桃子（総合文化学科講師）	島根県	島根県古代文化センター企画運営委員会 委員	平成26年～
58	山村 桃子（総合文化学科講師）	島根県	古典に登場する名勝地調査指導委員会 委員	平成27年～
59	山村 桃子（総合文化学科講師）	松江市	松江市個人情報保護審議会 委員	平成27年9月～

3 その他地域連携（貢献）活動等

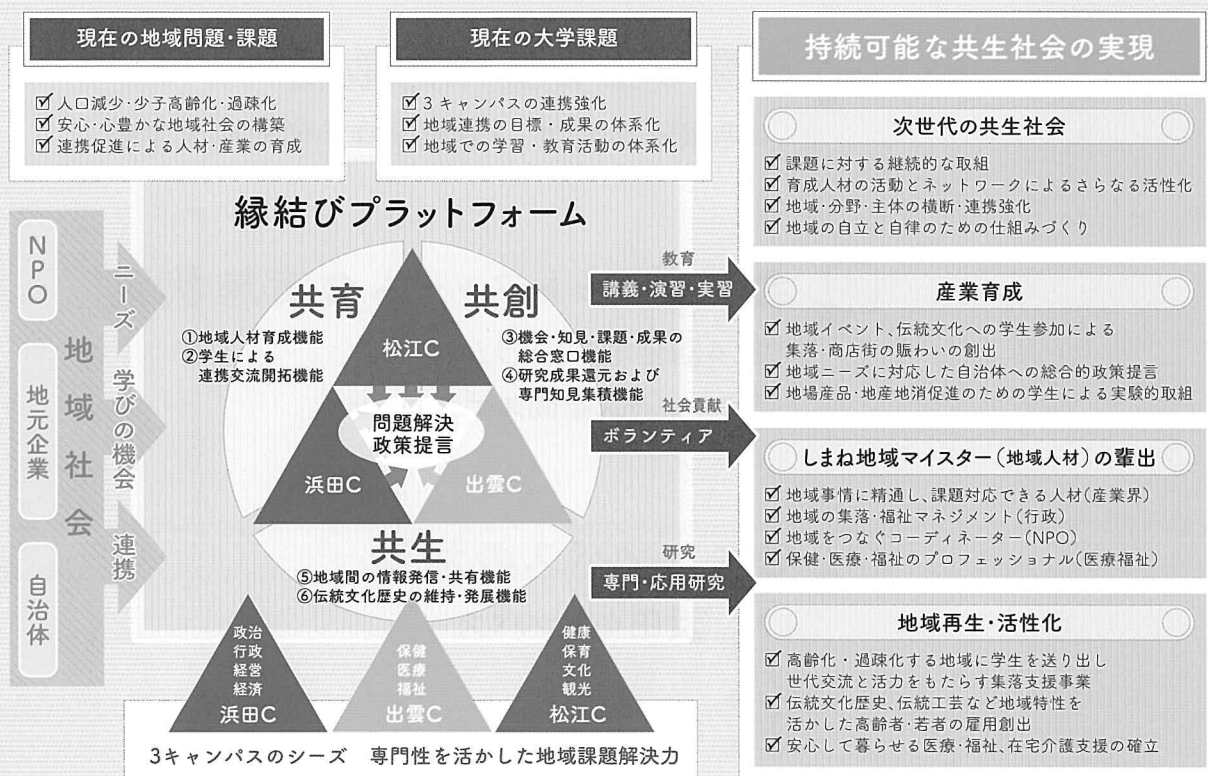
NO.	教員名	相手方	内容等	日付（期間）
1	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県牛乳普及協会	平成28年度牛乳・乳製品料理コンクール島根県大会審査委員長	平成29年9月～10月
2	工藤 泰子（総合文化学科教授）	松江市史料編纂室	『松江市史』『近現代通史編』の戦後観光部分の分担執筆	平成27年～
3	古賀 洋一（総合文化学科講師）	日本国語教育学会熊本支部研究会	小学校教諭の実践研究発表に対する指導助言（参加者約100名）	平成29年12月23日

Ⅲ. 縁結びプラットフォーム事業

3キャンパス共通の 事業概要

公立大学法人島根県立大学は、総合政策学部（浜田市）、看護学部（出雲市）、短期大学部（松江市）の3キャンパスを有し、各キャンパスの専門分野を活かした地域貢献に取り組んでいます。本事業では、島根県の人口減少、少子高齢化、過疎化という地域共通問題へ対応するため、地域ニーズと大学シーズのマッチングを図る「縁結びプラットフォーム」という「場」を構築します。

地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム



『共育・共創・共生』とは

共育

地域とともに
人材を育む

共創

知見を集積し、
住みよい地域の姿を創造する

共生

地域の良さを活かし、
持続的・自律的に発展する

教育・研究・社会貢献活動での3キャンパスの連携事業を発展強化させ、全学の専門性と総合力を存分に活かした効果的な課題対応等を展開していきます。

地域課題に接近しつつ教育では、過疎先進地島根県で高い専門性と実践力を有する人材を育成するために「しまね地域マイスター」認定制度（島根県立大学）、「履修証明プログラム」（島根県立大学短期大学部）を新設します。各学部で実施されてきた教育・研究・社会貢献活動を段階的に整理し、その目標・成果を全学で体系化するとともに、共通問題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を支援して、地域に開かれた大学として、地域社会へ貢献しています。

事業の主な具体的取組

島根県立大学

01 共 育 教育

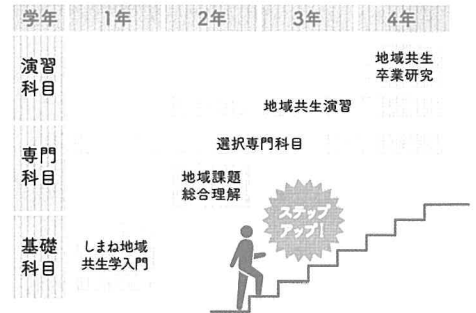
人材育成の目標：島根県における地域問題に対して様々な取組を通じて、

- ① 地域事情に精通し、
- ② 地域主体を繋げるコーディネート力のある人材を育成し、
- ③ 熱意をもち課題解決に取り組める実践力を持った人材を育成する。

「しまね地域マイスター」認定制度の創設

本制度は、島根地域のあらゆる分野へ精通した学生を認定する、本学独自の制度です。卒業時には、自ら課題に対して向き合い、考え、課題解決に向けた行動力のある人材として、社会に飛び出すことができることを目標にしています。

カリキュラムマップ



02 共 創 研究等

本事業では、研究等について以下に掲げる内容を目標として取り組みます。

- ① 「縁結びプラットフォーム」を通じて、学内の教員同士、地域と大学との連携を強化する。
- ② 広域的、分野横断的な地域研究の実施を促進する。
- ③ 域内での研究成果の共有化を図る。

地域研究費の拡充

・「しまね地域共育・共創研究助成金」

03 共 生 社会貢献

本事業では、島根県内に分散立地する各キャンパスを拠点とし、社会貢献の目標を以下のとおり掲げています。

- ① 生涯学習機能の拡充に取り組む。
- ② ボランティアの広域的対応に取り組む。

生涯学習機能の拡充

・CO₂-Netを活用した遠隔講義の実施を通じた市民の受講機会の拡大

島根県立大学短期大学部

01 共 育 教育

学生に対する「地域志向」教育改善は、

- ① 「しまね地域共生学入門」と「地域志向」科目による地域課題への基礎教育構築。
- ② 「履修証明プログラム」の選択履修による問題意識の深化。
- ③ 卒業研究における学域共同研究への一部参加による課題解決への展望。

現場専門職者向け「履修証明プログラム」新設

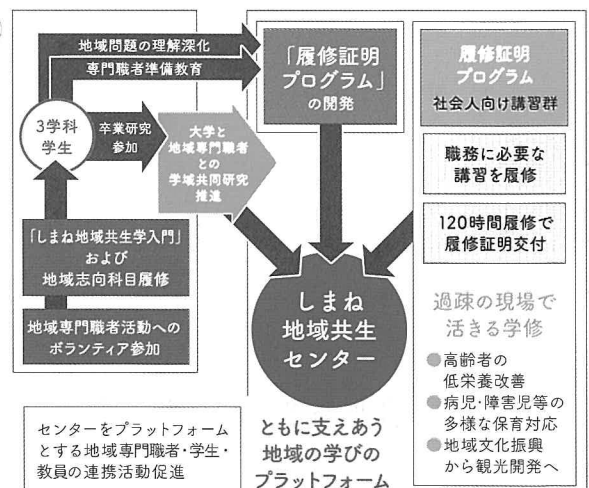
現場専門職の社会人向けの、極めて実践的かつ具体的な個別的課題の解決に結びつく知見と技術の集積としてのプログラムです。少子高齢化集落の職務に必要な講習の履修、ならびに120時間コース履修による履修証明の交付（履修証明プログラム）をおこないます。

- 「しまね地域共生センター」における共同研究の推進
- 「しまね地域共生センター紀要」の発行

02 共 創 研究等

03 共 生 社会貢献

- 社会人向け「履修証明プログラム」での人材育成
- 生涯学習機能の拡充
- ボランティアの広域的対応



IV. その他の地域活動

1. 地域貢献プロジェクト助成事業

本学では、中期計画に掲げる「地域活性化に対する支援」を推進するため、平成20年度から北東アジア地域学術交流研究助成金に「地域貢献プロジェクト助成事業」を創設している。

包括協力協定を締結した浜田市、松江市、出雲市及び益田市との共同事業のほか、本学教員が地域協力者（自治体、NPO、自治会、郷土研究者等）とともに行う、大学の地域貢献活動（調査・研究等）に対して助成するものである。年間2件程度のプロジェクトを採択し、各種事業の実施や成果の還元等を通じて、地域振興への取組を支援している。

平成29年度の地域貢献プロジェクト助成事業 交付決定状況

代表者氏名 (所属キャンパス)	研究課題名	交付金額
赤浦 和之 (松江)	西条柿低温貯蔵果を用いたカキドライフルーツの開発	390千円
寺田 哲志 (浜田)	人々の暮らしと高津川の繋がりから探る地域の魅力ー地域活性化のための基礎的調査ー（高津川と地域の生活に関する聞き取り調査）	391千円

2. 島根県との連携

島根県立大学と島根県は、地域の振興に貢献するため、これまでも様々な分野で連携事業を実施してきたが、情報の共有化を図り連携をより一層推進するため、平成24年度から連携企画会議及び連携調整会議を開催し、定期的に意見交換を行っている。

平成27年度からは、本学が主催する大学COC事業における地域課題の把握と研究テーマの検討内容も踏まえた上で、次年度の連携事業計画に反映できるように、年度前半での連携調整会議において、連携事項の進捗状況を確認し、連携の可能性のある事項と連携を期待する事項について意見交換を行っている。

1. 第8回島根県・島根県立大学連携調整会議

(1)日時 平成29年6月6日(火)14:00～15:30

(2)場所 島根県庁 講堂

(3)概要

- ① 連携状況の報告
- ② 県立大学の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」実施状況の報告
- ③ 連携を期待する事項についての意見交換
 - ・しまねwebモニターへの登録
 - ・里親支援における連携
- ④ 「しまね地域マイスター認定制度」と「履修証明プログラム」の取組状況の報告

3. 島根県中小企業同友会との連携

島根県立大学は、平成 29 年 8 月 2 日（水）に島根県中小企業同友会と、人材育成、産学連携の分野において相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的として、包括連携協力協定を締結しました。今後、両社が人材育成、キャリア支援、中小企業の魅力発信などについて連携・協力してまいります。



4. 島根県立大学・津和野町との連携

島根県立大学と津和野町は、西周研究を通じた人材育成と地域社会の発展を図ることを目的に、連携協力協定を締結し、平成 29 年 12 月 2 日、津和野町役場にて調印式をおこないました。

島根県立大学では、平成 14 年の西周研究会設立以来、地元根付いた研究として学内はもとより、国内外の著名な研究者を招聘し学際的な調査研究をおこなってきました。

研究成果を郷土学習や観光資源として発信・活用することで、人材育成と地域社会の発展に貢献してまいります。



5. 島根県立大学・島根あさひ社会復帰促進センター・浜田市との連携

島根県立大学・島根あさひ社会復帰促進センター・浜田市の三者間で、地域貢献に向けて相互に連携することを目的に、連携協定を締結し、平成 30 年 1 月 16 日、島根県立大学にて調印式をおこないました。

本協定を基に、受刑作業品の企画・開発や検証を行うことにより、受刑者の更生、地域振興に貢献してまいります。



6. 島根県国民健康保険団体連合会との連携

平成 30 年 3 月 14 日に、公立大学法人島根県立大学は、島根県国民健康保険団体連合会との連携協力に関する協定書を締結しました。

この協定締結により、今後、保険・医療・福祉等の情報の調査・分析において、相互に協力し、地域に還元することで、地域社会の保険・医療・福祉サービスの質の向上及び人材育成に寄与する活動を推進していきます。



おわりに

島根県立大学の「地（知）の拠点整備事業」：「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」（大学 COC 事業）の 2 本柱は①地域のニーズと大学の知的資源であるシーズをマッチングさせ、地域課題の解決に向けた共同研究を進めること、②地域の再生、活性化に貢献する地域人材を養成する教育改革を実施することであった。

第 1 の柱(研究面)では、毎年開催している「全域フォーラム」において「しまね地域共育・共創研究助成」を活用した研究や浜田市及び益田市と島根県立大学との共同研究の成果を発表した。また、「連携会議」を同時開催し、新規研究課題を見出すために、参加いただいた地域のみなさまと意見交換を行い地域ニーズと大学シーズのマッチングの場の機能を持った。5 年間、大学 COC 事業を実施する中で、副申団体をはじめとした関係諸団体や地域のみなさまと地域課題を共有し、地域課題解決への取組を進める連携・協力体制を整えることができたと考えている。

第 2 の柱(教育面)では、全学 1 年次必修の科目である「しまね地域共生学入門」を COC 2 -Net を活用した遠隔授業として、3 キャンパス同時に開講し、新入生たちに島根の現状や課題を学ばせた。浜田キャンパスでは、地域で活躍する人材を育てるマイスター養成の諸課程を修了した「しまね地域マイスター」の第 1 期生が平成 3 0 年度末に誕生する。出雲キャンパスでは、浜田キャンパスとの合同科目で 1 泊 2 日の集中講義形式の「地域課題総合理解」を実施した。松江キャンパスでは、COC 2 -Net による e-ラーニングを活用しながら「履修証明プログラム」の体制を構築した。3 つのキャンパスはそれぞれの特徴を生かし、協力体制を強め、地域に貢献できる人材の養成をはかっている。

その他、従前から実施してきた地域連携活動についても、学生による地域貢献活動(ボランティア等)、地域をフィールドとした研究・教育活動、幼保小中高、教育機関等との連携、生涯学習推進を担う公開講座、教員による講演会への出講や審議会等の委員への就任を通して、地域との連携、貢献が多方面で展開できたと考える。

大学 COC 事業の補助期間は本年度（平成 2 9 年度）で終了となるが、副申団体の皆様はもとより、島根県、地元の多くのみなさまとの協働により、地域振興及び地域の課題解決に向けた取組を引き続き進めさせていただければと思う。5 年にわたって取り組んできた本学の大学 COC 事業の取組を定着させ、取組成果を地域に還元していきたい。今後とも地域貢献をさらに推進、発展させ、大学と地域の連携を深めたい。

地域連携推進センター

センター長 藤原 眞砂

参 考

島根県立大学は、21世紀をになうべき創造性豊かで実践力ある人材を育成し、教育研究を通して地域の発展に資するため、2007年4月、既存の島根県立大学（浜田）、島根県立島根女子短期大学（松江）、島根県立看護短期大学（出雲）の3つの大学を統合して開学した。

ここに島根県立大学は、従来3キャンパスがそれぞれ歴史的に蓄積してきた成果を継承し、21世紀における新たな飛翔をめざす大学の姿勢を内外に示すため、島根県立大学憲章を定めることとした。

島根県立大学憲章

島根県立大学は、地域の先人である西周が標榜した“「純理の学」から「実践の学」にわたる諸科学の統合”をめざし、各専門領域における研究活動を深め、それにもとづく創造的な教育活動によって、現代社会の諸課題に国際的な視野からアプローチし、また、地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命とする。あわせて、これまで培った学問的蓄積と学際的ネットワークを活かしながら、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現するとともに、北東アジアをはじめとする国際社会の発展に寄与する大学づくりを目標とする。

1. 市民的教養を高め、主体的に学び、実践する人材を養成する

島根県立大学は、幅広い市民的教養と高度の専門知識、豊かな人間性と高い倫理観を有し、主体的に問題を発見・整理・解決し、現代社会の諸分野において着実に貢献できる人材を養成する教育の府となることをめざす。

2. 現代社会の諸課題に対応した“諸科学の統合”を実践する

島根県立大学は、複雑化する現代社会の諸課題に対処するため、人間と社会に関する専門諸科学を総合的に研究する学問の府となることをめざす。

3. 地域の課題を多角的に研究し、市民や学生の地域活動を積極的に支援して、地域に貢献する

島根県立大学は、地域に開かれた大学として、その保有する豊かな知的資源を活かし、個性的で実践的な地域研究を市民や学生と連携しながら推進し、また、地域活動に積極的に参加することによって、地域に貢献する大学となることをめざす。

4. 北東アジア地域をはじめとする国際的な研究教育の拠点を構築する

島根県立大学は、今後ますます重要度を増す北東アジア地域、および世界の諸地域との教育的・学術的ネットワークの展開を通じ、国際的視野と豊かな研究蓄積を集約した北東アジアの知の拠点となることをめざす。

5. 自律と協同、透明性が高く機能性に優れた大学運営を行う

島根県立大学は、3キャンパスがそれぞれ学生と教職員一体となって独自性を発揮し、かつ、有機的結合を図り、たえず自己検証と改善に努めながら、情報を積極的に公開し、社会や時代の変化に即応できる大学運営を行う。

公立大学法人島根県立大学と浜田市との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と浜田市とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成20年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

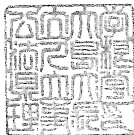
この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成19年5月18日

公立大学法人島根県立大学
理事長

浜田市
浜田市長

宇野重昭



宇津徹男



松江市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、松江市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。また、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成21年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

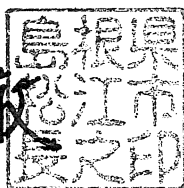
この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

平成19年10月30日

松江市

松江市長

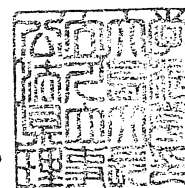
松浦正敬



公立大学法人島根県立大学

理事長

宇野重昭



出雲市と公立大学法人島根県立大学との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、出雲市と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

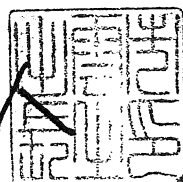
平成21年10月8日

出雲市

公立大学法人島根県立大学

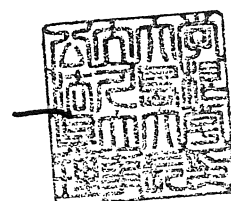
出雲市長

長岡秀人



理事長

本田 雄



公立大学法人島根県立大学と益田市との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と益田市とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

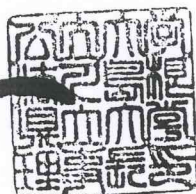
第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成26年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成25年5月27日

公立大学法人島根県立大学
理事長

本田 雄一



益田市
益田市長

山本 浩



公立大学法人島根県立大学と隠岐の島町との包括的連携に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、隠岐の島町と公立大学法人島根県立大学とが包括的な連携のもと、人材育成、共同研究、知識基盤社会の形成などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ、もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) まちづくりのための連携
- (2) 国際交流推進のための連携
- (3) 人材育成のための連携
- (4) 産業振興のための連携
- (5) 保健・医療・福祉の向上のための連携
- (6) 教育・文化の振興のための連携
- (7) 学術研究のための連携
- (8) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。又、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成28年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この協定締結の証として本書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成27年7月14日

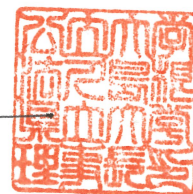
隠岐の島町
町長

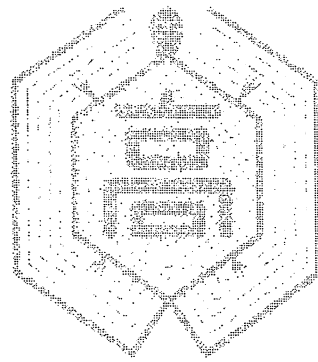
松田和久



公立大学法人島根県立大学
理事長

本田雄一





島根県立大学と島根県立浜田高等学校との高大連携に関する協定

島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立浜田高等学校とは、相互の教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立浜田高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立浜田高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期間を持つものとする。本協定は、有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立浜田高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成16年11月18日

島根県立大学

学 長

宇野重昭

宇 野 重 昭

島根県立浜田高等学校

校 長

三浦正樹

三 浦 正 樹

島根県立大学と島根県立江津高等学校との高大連携に関する協定

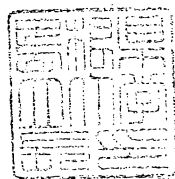
島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、次のとおり合意する。

- 1 島根県立大学と島根県立江津高等学校とは、相互教員・職員・学生・生徒が連携して「魅力ある大学・高等学校づくり」を推進することを目的とする高大連携事業を実施する。
- 2 この協定に基づく具体的な連携事業は、島根県立大学と島根県立江津高等学校の協議を経て決定する。
- 3 本協定は、島根県立大学学長及び島根県立江津高等学校校長による調印の後その効力を生じ、3年間の有効期限を持つものとする。本協定は有効期間が終了する6ヶ月前までに、島根県立大学、島根県立江津高等学校のいずれか一方が、相手方に終了または改正を希望する旨を書面により意思表示しない限り、更に3年間有効期間が更新されるものとする。

平成19年6月1日

島根県立大学

学長 宇野重昭



島根県立江津高等学校

校長 尾村幸行



島根女子短期大学・松江商業高等学校・湖南中学校の 三者連携に関する協定書

島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校の三者は、次のとおり合意する。

- 第1 島根県立島根女子短期大学、島根県立松江商業高等学校及び松江市立湖南中学校は、相互の教員・職員・学生・生徒が連携し、「より魅力あるキャンパスづくり」を推進することを目的とする三者連携事業を実施する。
- 第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。
- 第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、島根県立松江商業高等学校長及び松江市立湖南中学校長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。
- 2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成18年11月 1日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



島根県立松江商業高等学校

校 長 月 森



松江市立湖南中学校

校 長 曾 田 秀 雄



島根女子短期大学・乃木小学校・幼保園のぎの 三者連携に関する協定書

島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎの三者は、次のとおり合意する。

第1 島根県立島根女子短期大学、松江市立乃木小学校及び松江市立幼保園のぎは、相互の教員・職員・学生・児童・園児が連携し、地域の教育力を高め、より良い教育環境づくりを推進することを目的として、三者連携事業を実施する。

第2 この協定に基づく具体的な連携事業は、三者で協議して決定する。

第3 この協定は、島根県立島根女子短期大学長、松江市立乃木小学校長及び松江市立幼保園のぎ園長の調印の後その効力を生じ、その有効期間は3年間とする。

2 この協定は、有効期間が満了する日の6か月前までに、三者のいずれもが更新しない旨を他の二者に書面により通知しない場合は、さらに3年間有効期間が更新されるものとし、以後も同様とする。

平成19年 3月 7日

島根県立島根女子短期大学

学 長 有 馬 毅 一 郎



松江市立乃木小学校

校 長 山 崎



松江市立幼保園のぎ

園 長 狩 野 由 美 子



島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）出前講座の

収録・放送に関する覚書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と石見銀山テレビ放送株式会社（以下「乙」という。）とは、乙が島根県立大学短期大学部（出雲キャンパス）の出前講座の収録、放送を実施するにあたり、次のとおり覚書を締結するものとする。

（事業内容の分担）

第1条 事業内容の分担は以下のとおりとする。

- （1）甲に所属する職員は、出前講座の台本及び資料を作成する。
- （2）乙は甲に所属する職員が作成した台本をもとに番組を収録し放送する。
- （3）乙は番組収録に係る著作権使用許可等の必要な諸手続をすべて行う。
- （4）乙は作成した番組をDVDに出力し、甲へ受け渡す。

（本覚書における出前講座の定義）

第2条 本覚書における出前講座とは、甲乙協議の上で定めた主題について、甲に所属する職員が企画構成する講座とする。

（事業に関する経費）

第3条 事業に関する経費については以下のとおりとする。

- （1）出前講座経費 出前講座に関する経費はすべて甲が負担する。
- （2）収録放送経費 収録・放送に関する経費はすべて乙が負担する。

（著作権の取扱い）

第4条 作成した番組に関する著作権は甲乙が共有する。

- 2 作成した番組を甲乙が非営利目的で使用する場合は相互の許可は不要とする。

（協議）

第5条 この覚書に定めのない事項については、甲乙協議の上これを定めるものとする。

(有効期間)

第6条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から平成22年3月31日までとする。ただし、この覚書の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

この覚書の締結を証するため、本覚書を2通作成し、それぞれ記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成22年2月4日

甲 島根県浜田市野原町2433番地2
公立大学法人島根県立大学

理事長

本田 雄



乙 島根県大田市大田町大田口1089-4
石見銀山テレビ放送株式会社

代表取締役

杉谷 雅禎



看護連携型ユニフィケーション事業 基本協定書

島根県病院局（以下「甲」という。）と公立大学法人島根県立大学（以下「乙」という。）とは、看護連携型ユニフィケーション事業（以下「ユニフィケーション事業」という。）の実施に関し、次のとおり基本協定を締結する。

（趣旨）

第1条 この基本協定書は、甲及び乙が協働で実施するユニフィケーション事業に関して、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 ユニフィケーション事業は、甲が設置運営する臨床の場である「島根県立中央病院」「島根県立こころの医療センター」と、乙が設置運営する教育の場である「島根県立大学短期大学部出雲キャンパス」が協働して実施することにより、看護ケアの質の向上及び看護教育の向上並びに両施設の機能を向上させることを目的とする。

（事業の範囲）

第3条 ユニフィケーション事業の範囲は以下のとおりとする。

- 1) 看護の学習会に関する事
- 2) 患者や家族のケアに関する事
- 3) 看護教育に関する事
- 4) 看護研究に関する事

（実施場所）

第4条 ユニフィケーション事業の実施場所は、甲が設置運営する「島根県立中央病院」「島根県立こころの医療センター」及び乙が設置運営する「島根県立大学短期大学部出雲キャンパス」とする。

（協議会の設置）

第5条 ユニフィケーション事業を運営する機関として、甲及び乙の職員を構成員とする「看護連携型ユニフィケーション事業協議会」（以下「協議会」という。）を設置する。

（実施要領）

第6条 ユニフィケーション事業の実施および協議会の構成、運営に係る細目等は、「実施要領」として別に定めるものとする。

(実施計画の策定)

第7条 ユニフィケーション事業の実施に当たっては、協議会においてユニフィケーション事業に係る事項を明記した「看護連携型ユニフィケーション事業実施計画」を策定し、事業実施2か月前に甲及び乙に提出し、承認を得るものとする。

(活動企画書の作成)

第8条 主担当者は、前条の実施計画に基づき、活動内容、実施場所、従事者、日時等を記載する「看護連携型ユニフィケーション活動企画書」を協議会に提出し、承認を得るものとする。

(個人情報の保護)

第9条 ユニフィケーション事業の実施に当たっての個人情報の取り扱いについては、別記「個人情報取扱特記事項」を遵守するものとする。

(基本協定の変更)

第10条 この基本協定書及び第6条の実施要領に関して、疑義又は定めのない事項が生じた場合は、甲乙協議して定めるものとする。

(有効期限)

第11条 この協定は、締結の日からその効力を発揮するものとし、甲又は乙が文書を持って協定の終了を通知しない限りその効力を持続するものとする。

本協定の証として本書2通を作成し、甲乙記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成23年1月6日

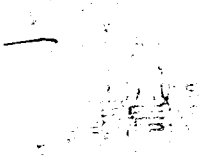
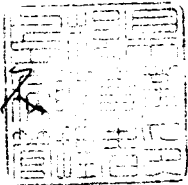
甲 島根県出雲市姫原4-1-1

島根県病院事業管理者

乙 島根県浜田市野原町2433番地2

公立大学法人島根県立大学理事長

中川正
本田雄一



公立大学法人島根県立大学と学校法人大多和学園との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、公立大学法人島根県立大学と学校法人大多和学園（以下「学園」という。）が連携し、生徒・学生の科学的思考と発表力の段階的育成を行い、もって創造性豊かな国際的に通用する人材の育成を図ることを目的とする。

(協力事項)

第2条 両者は、次の事項について協力する。

- (1) 学園の実施するスーパーサイエンスハイスクール事業（以下「SSH事業」という。）における連携
- (2) 教育についての情報交換及び交流
- (3) その他両者が協議して必要と認める連携

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し、連携協力の細目等の具体的な実施については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期間)

第4条 この協定の有効期間は、平成26年4月1日からSSH事業が終了する平成30年3月31日までとする。ただし、SSH事業の指定期間が延長された場合、その終了日までとする。

この協定の証として本書2通を作成し、各自1通保有する。

平成26年3月27日

公立大学法人島根県立大学

学校法人大多和学園

理事長

本田 雄一



理事長

大多和 聡宏



公立大学法人島根県立大学と中村元記念館との連携に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「島根県立大学」という。）と中村元記念館が連携し、広報等の分野において相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 島根県立大学と中村元記念館は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 広報および情報提供に関する事項
- (2) その他両者が必要と認める事項

(協議)

第3条 この協定の実施に関し、連携の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限・改廃)

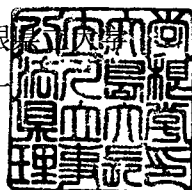
第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成27年3月末日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の前月末までに、島根県立大学と中村元記念館のいずれからも改廃の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

- 2 島根県立大学と中村元記念館は、この協定の有効期間中であっても、双方協議してこの協定書を改廃することができる。

この協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成26年10月6日

公立大学法人島根
理事長 本田雄一



中村元記念館
館長

前田 専学

公立大学法人島根県立大学と公益社団法人島根県看護協会が
連携して実施する事業に関する覚書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と公益社団法人島根県看護協会（以下「乙」という。）とは、甲乙が連携して実施する事業について、次のとおり覚書を締結するものとする。

（連携して実施する事業）

第1条 連携して実施する事業は次の各号に定めるものとする。

- (1) 島根県内看護職の人材育成や生涯教育の推進
- (2) 島根県における保健医療や看護教育に関する施策等についての情報交換及び連絡調整
- (3) その他、甲乙双方が協議して実施する事業

（事業の実施方法及び定義）

第2条 事業は次の各号の方法により実施する。

- (1) 受託事業
- (2) 連携事業

2 第1項第1号の受託事業は次の定義による。

受託事業は、甲と乙が契約して実施する事業のうち、乙が当該事業にかかる経費の全額を負担するものとする。

3 第1項第2号の連携事業は次の定義による。

連携事業は、甲と乙が契約して実施する事業のうち、事業費の区分毎に甲と乙の経費負担率を設定するものとする。

（受託事業）

第3条 受託事業の実施にかかる甲乙双方の役割分担は次のとおりとする。

- (1) 実施計画 乙が原案を作成し、甲と協議の上決定する。
- (2) 事業経費 全て乙の負担とし、契約締結後、甲の請求に基づき乙が支払う。
- (3) 施設設備 事業を島根県立大学出雲キャンパス（以下「県大出雲」という。）で実施する場合は、甲が必要な部屋、設備を調整し、それを利用する。
- (4) 実施報告 甲は、受託事業実施後に実施報告書を作成し、乙に提出する。

(連携事業)

第4条 連携事業の実施にかかる甲乙双方の役割分担は次のとおりとする。

- (1) 実施計画 乙が原案を作成し、甲と協議の上決定する。
- (2) 事業経費 契約書において事業費の区分毎に甲と乙の経費負担率を設定し、甲乙それぞれが当該事業経費を負担する。
- (3) 施設設備 事業を県大出雲で実施する場合は、甲が必要な部屋、設備を調整し、それを利用する。
- (4) 実施報告 甲が乙と協議の上実施報告書を作成する。

(協議)

第5条 この覚書に定めのない事項については、甲乙協議の上これを定めるものとする。

(有効期間)

第6条 この覚書の有効期間は、覚書締結の日から平成28年3月31日までとする。ただし、この覚書の有効期間満了の日の1月前までに、両者いずれからも改廃の申し入れがないときは、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

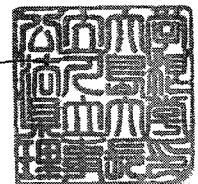
この覚書の締結を証するため、本覚書を2通作成し、それぞれ記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成27年9月19日

甲 島根県浜田市野原町2433番地2
公立大学法人島根県立大学

理事長

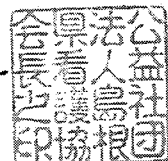
本田 雄



乙 島根県松江市袖師町7番11号
公益社団法人島根県看護協会

会長

原 由子



島根県立大学短期大学部と公益財団法人しまね文化振興財団（島根県民会館）との連携協力に関する協定書

島根県立大学短期大学部（以下「甲」という。）と公益財団法人しまね文化振興財団（島根県民会館）（以下「乙」という。）は、島根県における文化芸術・教育について連携・協力するため、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 本協定は、甲乙相互の連携のもと、文化芸術振興・教育・研究及び教員養成の分野で協力し、地域における文化芸術・教育の発展に寄与することを目的とする。

（連携協力事項）

第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次の事項について連携し、協力する。

- （1） 甲乙双方が有する知的資源、人的資源及び物的資源の活用に関すること。
- （2） 甲乙が共同で実施する事業に関すること。
- （3） その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（共同事業連携推進会議）

第3条 前条の連携事項の円滑な推進と発展のため、共同事業連携推進会議を設置する。

2 共同事業連携推進会議に関し必要な事項は、別に定める。

（守秘義務）

第4条 甲及び乙は、本協定に基づく活動において、相手方から知り得た秘密事項について、本協定の有効期間中及び有効期間終了後を問わず、第三者に対し開示又は漏洩してはならない。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

（有効期間）

第5条 本協定は、協定締結日から発効し、有効期間は3年間とする。ただし、この協定書の有効期間満了の2月前までに、甲乙いずれからも改廃の申し入れがない場合には、更に3年間有効期間を延長するものとし、以後この例によるものとする。

（協議）

第6条 本協定に定める事項について疑義が生じたとき又は本協定に定めのない事項について必要があるときは、甲乙両者が協議して定める。

この協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、甲乙両者が署名押印の上、各自その1通を保有するものとする。

平成 28年 4月 1日

島根県立大学短期大学部

学 長 本 田 雄



公益財団法人しまね文化振興財団

理 事 長 藤 岡 大



公立大学法人島根県立大学と小泉八雲記念館との連携に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「島根県立大学」という。）と小泉八雲記念館が連携し、小泉八雲に関する教育・研究・広報等の分野において相互に協力し、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 島根県立大学と小泉八雲記念館は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 小泉八雲に関する講義・講座、催し等に関する事
- (2) 小泉八雲記念館の資料の活用に関する事
- (3) 小泉八雲に関する情報発信に関する事
- (4) その他両者が必要と認める事項

(協議)

第3条 この協定の実施に関し、連携の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。また、この協定に定めのない事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限・改廃)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成29年3月末日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の前月末日までに、島根県立大学と小泉八雲記念館のいずれからも改廃の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

2 島根県立大学と小泉八雲記念館は、この協定の有効期間中であっても、双方協議してこの協定書を改廃することができる。

この協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成28年 8月 3日

公立大学法人島根県立大学
理事長 本田雄一



小泉八雲記念館
館長 小泉 凡



公立大学法人島根県立大学と独立行政法人国立高等専門学校機構 松江工業高等専門学校との包括的連携に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「県立大学」という。）と独立行政法人国立高等専門学校機構松江工業高等専門学校（以下「松江高専」という。）が包括的な連携のもと、教育、研究、地域貢献、産学連携、国際交流、学生及び教職員の交流において相互に協力し、地域社会と国際社会の発展及び人材育成に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 県立大学と松江高専は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 教育及び研究の推進と発展、向上に関すること。
- (2) 地域貢献の推進に関すること。
- (3) 産学連携の推進に関すること。
- (4) 国際交流の推進に関すること。
- (5) 学生の交流に関すること。
- (6) 教職員の交流に関すること。
- (7) その他前条の目的に資すること。

(協議)

第3条 本協定の実施に関し、連携・協力の細目等の具体的な事項については、両者協議のうえ定めるものとする。

(有効期間)

第4条 本協定の有効期間は、協定締結の日から平成30年3月31日までとする。ただし、本協定の有効期間満了の日の30日前までに、県立大学と松江高専のいずれからも改定の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

2 県立大学と松江高専は、本協定の有効期間中であっても、両者協議のうえ本協定書を改定することができる。

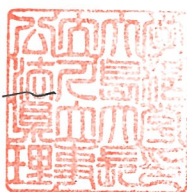
本協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成29年3月15日

公立大学法人島根県立大学

理事長

本田 雄

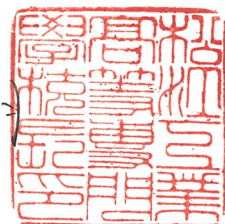


独立行政法人国立高等専門学校機構

松江工業高等専門学校

校長

井上 伸



公立大学法人島根県立大学及び一般社団法人島根県発明協会並びに
公益財団法人しまね産業振興財団の包括的連携協力協定書

島根県立大学（以下「甲」という。）と一般社団法人島根県発明協会（以下「乙」という。）並びに公益財団法人しまね産業振興財団（以下「丙」という。）は、以下のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、甲と乙と丙が相互に緊密な連携協力と情報共有を図ることで、効果的かつ迅速な産業振興及び地域課題の解決を展開することを目的とする。

（連携協力内容）

第2条 甲と乙と丙は、次項以下に定める事項を基本として、適切な役割分担を図りながら、連携協力を努めることで、島根県の産業振興を図るものとする。

2 甲と乙と丙は、相互が行う次の各号に定める事項について、島根県内産業振興を図るため、全県的かつ専門的な立場から積極的な協力・支援を行うものとする。

- (1) 甲及び島根県内企業等の知的財産活用の推進に関すること。
- (2) 島根県内企業等の新事業創出支援及び経営の高度化支援に関すること。
- (3) 島根県内企業等との共同研究、受託研究及び技術移転の推進に関すること。
- (4) 「甲」教職員・学生及び県内個人の起業・創業支援に関すること。
- (5) 地域経済活性化に関すること。
- (6) その他、島根県の産業振興に関すること。

（情報の共有化と意見交換）

第3条 甲と乙と丙は、島根県の産業振興を図るため、甲にとっては乙と丙を、乙と丙にとっては甲を、連携協力の相手方（以下「連携協力相手」という。）として、法令その他の規程又は第三者との契約に反しない範囲で、緊密な意見情報交換を随時行うものとし、個別企業の情報（個人情報を含む。）を提供する場合、各々の責任において、事前に個別企業から同意を得なければならない。

（目的外利用の禁止及び秘密保持）

第4条 甲と乙と丙は、この協定に基づき連携協力相手から提供を受けた情報を、第2条第2項に規定する事項にのみ使用するものとし、他の事項への使用及び第三者へ提供してはならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、この限りではない。

- (1) 事前に連携協力相手の承諾を得て第三者に提供する情報
- (2) 連携協力相手から提供を受けた際に既に公知となっている情報
- (3) 連携協力相手から提供を受けた後、開示を受けた側の責によることなく公知となった情報
- (4) 連携協力相手から提供を受ける前に取得していた情報
- (5) この協定に違反することなく他の手段により取得した情報
- (6) 連携協力相手から提供を受けた情報を使用することなく取得した情報
- (7) 法令その他の規程により提供しなければならない情報

(非独占的合意)

第5条 甲又は乙並びに丙は、それぞれ、いつでも第三者との間で、この協定と同趣旨の協定又はこれに類する契約を締結することができる。

(対外公表)

第6条 第2条第2項の各号に該当する情報の全部又は一部について公表を行う場合は、事前に甲と乙又は丙との間で協議の上、その公表の時期、内容、方法等に関する合意をした上で行うものとする。

(有効期間)

第7条 この協定の有効期間は、この協定の締結日から1年間とする。ただし、甲又は乙並びに丙から連携協力相手に対し、有効期間満了日の1か月前までに書面による協定終了の通知がない場合は、更に1年間これを延長するものとする。

2 前項の規定に関わらず、第3条の規定は、この協定の終了後5年間は引き続き効力を有するものとする。

3 第1項の規定に関わらず、前条の規定は、この協定の終了後も引き続き効力を有するものとする。

(解約)

第8条 前条第1項の規定に関わらず、甲又は乙並びに丙は、この有効期間中であっても、連携協力相手に解約予定日の1か月前までに書面により通知することにより、この協定を中途解約することができるものとする。

(雑則)

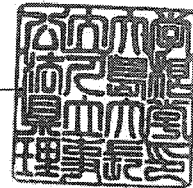
第9条 この協定の各条項の解釈について疑義が生じたとき、又はこの協定に規定しない事項については、甲と乙と丙が協議の上定めるものとする。

この協定の締結を証するため、この協定書を3通作成し、甲及び乙並びに丙が記名押印の上、各自1通を保有するものとする。

平成28年11月2日

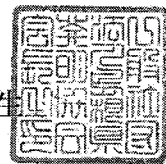
公立大学法人島根県立大学

理事長 本田 雄



一般社団法人島根県発明協会

会長 神庭 民生



公益財団法人しまね産業振興財団

代表理事理事長 山崎 征爾



公立大学法人島根県立大学と島根県中小企業家同友会の包括的連携協力協定書

公立大学法人島根県立大学（以下「甲」という。）と島根県中小企業家同友会（以下「乙」という。）は、相互の発展に資するため、次の通り協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、甲と乙が相互の密接な連携と協力により、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展及び将来的に必要とされる人材育成に寄与することを目的とする。

（連携事項）

第2条 甲と乙は、前条の目的を達成するため、次の事項について連携し協力する。

- (1) 人材の育成と活用に関すること。
- (2) 産学連携に関すること。
- (3) 甲と乙が共同で実施する事業に関すること。
- (4) その他、前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。

（秘密保持）

第3条 この協定に基づき、甲及び乙が知り得た情報については、それぞれ秘密を保持する。ただし、事前に相手方の承諾を得た場合は、この限りではない。

（有効期間）

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から、平成30年3月31日までとする。ただし、期間満了の1か月前までに甲又は乙のいずれかから異議の申し立てがない場合は、有効期間を更に1年間継続するものとする。

2 前項の規定は、同項の規定により継続された期間の更新について準用する。

（その他）

第5条 この協定に定めのない事項について定める必要が生じたとき、又はこの協定に定める事項を変更しようとするときは、甲及び乙が協議の上、定める。

この協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、各自1通を保有する。

平成29年8月2日

公立大学法人島根県立大学
理事長

清原正義

島根県中小企業家同友会
代表理事

小田隆弘

島根県立大学と津和野町との西周研究にかかる 連携・協力に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「島根県立大学」という。）と津和野町が連携・協力し、西周の業績を研究・発信・活用することで、人材育成と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 島根県立大学と津和野町は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 西周の幅広い学問的・教育的業績の研究・顕彰に関する事項
- (2) その他両者が必要と認める事項

(協議)

第3条 この協定の実施に関し、連携・協力の具体的な事項については、両者が協議して定めるものとする。

(有効期限・改廃)

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から平成30年3月末日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の前月末までに、島根県立大学と津和野町のいずれからも改廃の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

2 島根県立大学と津和野町は、この協定の有効期間中であっても、双方協議して、この協定書を改廃することができる。

この協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名のうえ各自1通を保有する。

平成29年12月2日

公立大学法人島根県立大学
理事長 清原正義

清原正義

津和野町
町長 下森博之

下森博之

島根あさひ社会復帰促進センター，公立大学法人島根県立大学及び浜田市との連携協力に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は，島根あさひ社会復帰促進センター，公立大学法人島根県立大学及び浜田市とが包括的な連携のもと，効果的な産業振興及び再犯防止施策などの諸分野において相互の協力関係を一層深化させ，もって地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 三者は，次の取組みについて，協力して，調査・研究し，具体化する。

- (1) 島根あさひ社会復帰促進センターの資源を活用した新たな地域振興に関する取組み
- (2) 出所者の社会復帰支援に関する取組み
- (3) その他三者が協議して必要と認める取組み

(協議)

第3条 この協定書の実施に関し，連携協力の細目等の具体的な事項等必要な事項については，三者がそれぞれ選定した者で構成する「地域振興及び再犯防止に係る連携協議会」において，協議し，決定することとし，同協議会の運営に係る事項は三者が協議の上，別に定める。

(有効期間)

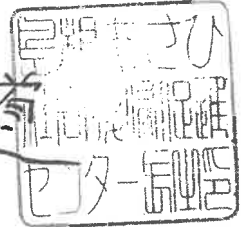
第4条 この協定の有効期間は，協定締結の日から平成31年3月31日までとする。ただし，この協定の有効期間満了日の1月前までに，三者のいずれからも改廃の申し入れがないときは，さらに1年間更新するものとし，その後も同様とする。

この協定締結の証として本書3通を作成し，各自1通を保有する。

平成30年1月16日

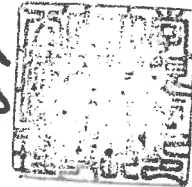
島根あさひ社会復帰促進センター
センター長

久野正道



公立大学法人島根県立大学
理事長

清原正義



浜田市

浜田市長

久保田章市



公立大学法人島根県立大学と島根県国民健康保険団体連合会 との包括的連携に関する協定書

(目的)

第1条 本協定は、公立大学法人島根県立大学（以下「県立大学」という。）と島根県国民健康保険団体連合会（以下「国保連」という。）が包括的な連携のもと、島根県の保健・医療・福祉分野における人材育成と地域社会の健康増進に寄与することを目的とする。

(連携・協力)

第2条 県立大学と国保連は、次の事項について連携・協力する。

- (1) 保健・医療・福祉等の情報の調査、分析に関すること。
- (2) 保健・医療・福祉等の情報を活用した保健・医療・福祉サービスの質の向上や地域連携等の保健事業の充実に関する取組の検討及び実施に関すること。
- (3) 人的資源・知的資源・物的資源の活用に関すること。
- (4) 人材育成及び学術の発展に関すること。
- (5) 学生の交流に関すること。
- (6) その他前条の目的に資すること。

(協議)

第3条 本協定の実施に関し、連携・協力の細目等の具体的な事項については、両者協議のうえ定めるものとする。

(有効期間)

第4条 本協定の有効期間は、協定締結の日から平成31年3月31日までとする。ただし、本協定の有効期間満了の日の30日前までに、県立大学と国保連のいずれからも改定の申し入れがないときは、更に1年間有効期間を延長するものとし、その後も同様とする。

2 県立大学と国保連は、本協定の有効期間中であっても、両者協議のうえ本協定書を改定することができる。

本協定締結の証として本書2通を作成し、両者記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成30年3月14日

公立大学法人島根県立大学

理事長

正義


島根県国民健康保険団体連合会

理事長

速水雄一


お問い合わせ先

浜田キャンパス（地域連携推進センター）
〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2
TEL：0855-24-2396 FAX：0855-23-7352
E-mail：h-chiren@u-shimane.ac.jp

出雲キャンパス（看護栄養交流センター）
〒693-8550 島根県出雲市西林木町151
TEL：0853-20-0220 FAX：0853-20-0227
E-mail：i-koryu@u-shimane.ac.jp

松江キャンパス（しまね地域共生センター）
〒690-0044 島根県松江市浜乃木7-24-2
TEL：0852-28-8322 FAX：0852-20-0267
E-mail：m-kyousei-c@u-shimane.ac.jp

平成29年度 地（知）の拠点整備事業
成果報告書
(地域連携活動報告書)

編集・発行

島根県立大学地域連携推進センター
〒697-0016 島根県浜田市野原町2433-2
TEL：0855-24-2396 FAX：0855-23-7352
E-mail：h-chiren@u-shimane.ac.jp



マスコットキャラクター
「オロリン」



The University of Shimane